

指定管理者候補の選定結果について

建設局所管の以下の施設について、指定管理者検討会を開催し、指定管理者候補を選定した。

1 指定管理期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）

2 施設名および指定管理者候補

施設名	指定管理者候補	頁 (詳細頁)
到津の森公園 ひびき動物ワールド	公益財団法人 北九州市どうぶつ公園協会	1～2 (16～36)
北九州市立自転車駐車場（19施設） 【通常施設管理型】	公益社団法人 北九州市シルバー人材センター	3 (37～47)
北九州市立自転車駐車場（3施設） 【通常施設管理＋自転車利用促進業務（提案）型】	公益社団法人 北九州市シルバー人材センター	4～5 (48～61)
北九州市立河内自転車貸出し施設	公益社団法人 北九州市シルバー人材センター	6～7 (62～73)
北九州市立響灘緑地	グリーンパーク活性化 共同事業体	8～9 (74～96)
北九州市立山田緑地 北九州市ほたる館	九州造園・グリーンワーク 共同事業体	10～11 (97～115)
北九州市平尾台自然の郷	ハートランド平尾台株式会社	12～13 (116～129)
水環境館	玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体	14～15 (130～147)

3 今後の予定

平成30年12月議会の議決を経た後に正式に決定する。

到津の森公園・ひびき動物ワールド

1 指定概要

- ・施設名称 到津の森公園・ひびき動物ワールド
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）
- ・指定管理者候補 公益財団法人 北九州市どうぶつ公園協会

2 選定方法

到津の森公園・ひびき動物ワールド指定管理者検討会の結果を踏まえ、条件付公募方式により、指定管理者候補を決定する。

3 検討会

- ・構成員5名（学識経験者2名、公認会計士1名、民間1名、市民1名）

区 分	構 成 員					備 考
	A	B	C	D	E	
条件付き公募方式の 妥当性検証	有	有	有	有	有	妥当性の有り無しの検証
プレゼンテーション審査	適	適	適	適	適	指定管理者としての適否を審査

4 構成員の主な意見

【妥当性検証】

- ・これまでの歴史的経緯や施設の長期的視点に立った運営の必要性から考えると条件付き公募は妥当である。
- ・とても良い地域資源なので、戦略的かつシビックプライドになるよう公益財団法人が運営をしたほうがよい。

【プレゼンテーション審査】

- ・今後、アンケートの属性等、データ分析に基づく長期的な営業広報や経営戦略の分析立案の視点を加えて、集客営業は根本的な見直しに取組まれたい。
- ・動物管理や園の美しさへの取組みなど公園の質を維持し高める適切な管理運営は、市の要求水準を満たす内容となっている。

5 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・動物看板多言語化（英中韓日）対応の音声案内システムの導入
- ・両施設の連携
- ・ポスター・チラシ・パンフレットの配付（幼稚園・保育所・小中学校・高校ほか）
- ・地域住民・ボランティア等関係団体との連携や協働

6 市における主な選定理由

- ・動物及び植物の維持管理計画、政策支援事業等の的確な提案が行われている。
- ・利用者の満足度向上についても、多言語化対応の音声案内システムの導入など新たな取組みが提案されている。
- ・これまでの実績を活かし、安定した管理運営が期待できる。

7 指定管理料提案額	到津の森公園	H31～H35	90,130 千円
	ひびき動物ワールド	H31～H35	37,965 千円
		合計	128,095 千円

北九州市立自転車駐車場(19施設)
【通常施設管理型】

1 指定概要

- ・施設名称 北九州市立自転車駐車場(19施設)(通常施設管理型)
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日(5年間)
- ・指定管理候補者 公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

2 応募状況

- ・説明会参加 3団体
- ・応募件数 1団体

3 選定方法

北九州市立自転車駐車場指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員4名(学識経験者2名、公認会計士1名、民間1名)

応募団体	構 成 員				得点	(加算) 合計	備 考
	A	B	C	D			
(公社)北九州市シルバー人材センター	65	67	70	63	66	(5) 71	地元優遇加算5点

5 構成員の主な意見

【(公社)北九州市シルバー人材センター】

- ・手堅く安定した提案内容である。
- ・実績が豊かであり、利用が少ない施設の効率化の提案は評価できる。
- ・実績を踏まえて改善すべき点は改善し、接遇の向上にもより一層取り組んで欲しい。

6 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・当施設の指定管理を含む豊富な実績を活かした良好かつ安定的な施設運営等

7 市における主な選定理由

- ・当施設の設置目的についてよく理解しており、また、施設の管理に関する意欲が強く感じられる。
- ・当施設での指定管理業務の実績、経験があり、また、利用者の満足度向上や安全体制等についてもしっかりした提案がなされており、安定した管理運営が期待できる。

8 指定管理料提案額 H31～H35:204,435千円

北九州市立自転車駐車場(3施設)
【「通常施設管理+自転車利用促進業務(提案)」型】

1 指定概要

- ・施設名称 北九州市立自転車駐車場(3施設)
(「通常施設管理+自転車利用促進業務(提案)」型)
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日(5年間)
- ・指定管理候補者 公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

2 応募状況

- ・説明会参加 4団体
- ・応募件数 2団体

3 選定方法

北九州市立自転車駐車場指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員4名(学識経験者2名、公認会計士1名、民間1名)

応募団体	構 成 員				得点	(加算) 合計	備 考
	A	B	C	D			
NPO 法人 I-DO	63	63	68	67	67	(5) 72	地元優遇加算5点
(公社)北九州市シルバー人材センター	66	67	66	66	69	(5) 74	地元優遇加算5点

5 構成員の主な意見

【NPO 法人 I-DO】

- ・新たな試みという部分で、小倉都心部の自転車利用や賑わいの促進を図っていることは評価できる。
- ・提案内容の実現可能性、根拠、具体性等の点で疑問が残る。

【(公社)北九州市シルバー人材センター】

- ・自転車利用促進に関して、3施設共通利用券の導入などの具体的な提案がなされている。

6 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・当施設の指定管理を含む豊富な実績を活かした良好かつ安定的な施設運営
- ・自転車利用促進に向けた3施設共通利用券の導入等

7 市における主な選定理由

- ・当施設の設置目的についてよく理解しており、また、施設の管理に関する意欲が強く感じられる。
- ・当施設での指定管理業務の実績、経験があり、また、利用者の満足度向上や安全体制などについてもしっかりした提案がなされており、安定した管理運営が期待できる。
- ・3施設共通利用券の導入などの自転車利用促進に向けた具体的な提案がなされている。

8 指定管理料提案額 H31～H35:25,889 千円

北九州市立河内自転車貸出し施設

1 指定概要

- ・施設名称 北九州市立河内自転車貸出し施設
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）
- ・指定管理候補者 公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

2 応募状況

- ・説明会参加 2団体 ・応募件数 2団体

3 選定方法

北九州市立河内自転車貸出し施設指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員4名（学識経験者2名、公認会計士1名、民間1名）

応募団体	構 成 員				得点	(加算) 合計	備 考
	A	B	C	D			
NP0 法人 I - D O	60	72	63	61	62	(5) 67	地元優遇加算 5 点
(公社)北九州市シルバー人材センター	65	66	63	65	65	(5) 70	地元優遇加算 5 点

5 構成員の主な意見

【NP0 法人 I - D O】

- ・新たな利用者を増やすという点では優れていると思うが、実現性が低いように感じた。
- ・大学生と協力するなど、いろんな仕組みを取り入れている点は評価できる。
- ・安全面などで提案の実現性に疑問がある。
- ・広報という点では物足りない。

【(公社)北九州市シルバー人材センター】

- ・現在の延長といった提案ではあったが、数字を基に具体的な提案を行っている点で妥当性がある。
- ・利用者の年齢層を広げるという提案は妥当性がある。
- ・広報という点では物足りない。

6 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・当施設の指定管理を含む豊富な実績を活かした良好かつ安定的な施設運営
- ・幅広い年齢層を対象にした利用促進事業の実施
- ・適正な管理体制の構築とスタッフ指導の徹底等

7 市における主な選定理由

- ・当施設の設置目的をよく理解し、過去の実績を基に実現性の高い提案がなされている。
- ・当施設での指定管理業務の実績、経験があり、安定した管理運営が期待できる。

8 指定管理料提案額 H31～H35:2,695 千円

北九州市立響灘緑地

1 指定概要

- ・施設名称 北九州市立響灘緑地（愛称：グリーンパーク）
- ・指定期間 平成 31 年 4 月 1 日～平成 36 年 3 月 31 日（5 年間）
- ・指定管理者候補 グリーンパーク活性化共同事業体

2 応募状況

- ・説明会参加 4 団体
- ・応募件数 2 団体

3 選定方法

北九州市立響灘緑地指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員 5 名（学識経験者 2 名、公認会計士 1 名、民間 2 名）

応募団体	構 成 員					得点	(加算) 合計	備 考
	A	B	C	D	E			
響灘緑地パーク アップ共同事業体	71	69	69	69	72	71	(0) 71	【構成団体】 (一財) 公園財団 (一社) 北九州緑化協会 (株)スピナ
グリーンパーク 活性化共同事業体	70	67	61	66	61	67	(6) 73	【構成団体】 (株)オリエンタルコンサルタン ツ北九州事務所 (株)ファーム (株)オーエヌグループ 第一警備保障(株) (株)フーディア 優秀指定管理者優遇加算 3 点及 び地元優遇加算 3 点 (計 6 点)

5 構成員の主な意見

【響灘緑地パークアップ共同事業体】

- ・植栽についての課題をしっかりと把握できており、あじさいや桜の植樹など、中長期的で具体的な提案がなされており、響灘緑地の公園としての価値をより高めようとする姿勢が評価できる。

【グリーンパーク活性化共同事業体】

- ・緑地管理や花壇管理については、市が求める要求水準を超える取組みをしながら、新しいイベント実施を提案するなど、多彩な取組みが提案され、さらに高みを目指そうとする姿勢が評価できる。

北九州市立山田緑地・北九州市ほたる館

1 指定概要

- ・施設名称 北九州市立山田緑地・北九州市ほたる館
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）
- ・指定管理者候補 九州造園・グリーンワーク共同事業体

2 応募状況

- ・説明会参加 2団体
- ・応募件数 1団体

3 選定方法

北九州市立山田緑地・北九州市ほたる館の指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員5名（学識経験者2名、公認会計士1名、民間2名）

応募団体	構 成 員					得点	(加算) 合計	備 考
	A	B	C	D	E			
九州造園・グリーンワーク共同事業体	60	61	60	64	62	61	(5) 66	【構成団体】 ㈱九州造園、NPO 法人 グリーンワーク 地元優遇加算5点

5 構成員の主な意見

【九州造園・グリーンワーク共同事業体】

- ・全体としては、市の要求水準を満たす提案だった。次期指定管理については、問題意識や目標の明確化、積極的な情報発信へと転換することを期待する。
- ・ほたる館はホテルに関する連携をさまざまな地域と行っていることを、もっと情報発信してもいいのではないか。

6 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・小学館のBE-PAL誌との連携事業提案
- ・営業広報活動強化
- ・ほたる館の水辺に生息する生物などの新講座の提案
- ・マルシェ開催で集客増に取り組む提案

7 市における主な選定理由

- ・当施設の設置目的を理解し、政策支援を図るための効果的な取組みの提案がされている。
- ・山田緑地とほたる館の具体的なイベントや調査・研究の提案がされている。
- ・両施設を有効活用した環境教育の積極的推進等が提案されている。
- ・当施設での指定管理業務の実績、経験があり維持管理の実施についてもしっかりと提案されていることから、安定した管理運営が期待できる。

8 指定管理料提案額	H31～H35	山田緑地	55,100 千円／年
		ほたる館	12,520 千円／年
		合計	67,620 千円／年

北九州市平尾台自然の郷

1 指定概要

- ・施設名称 北九州市平尾台自然の郷
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）
- ・指定管理者候補 ハートランド平尾台株式会社

2 応募状況

- ・説明会参加 1団体
- ・応募件数 1団体

3 選定方法

北九州市平尾台自然の郷の指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員 5名（学識経験者2名、公認会計士1名、民間2名）

応募団体	構 成 員					得点	(加算) 合計	備 考
	A	B	C	D	E			
ハートランド平尾台(株)	70	68	69	74	71	70	(5) 75	地元優遇加算5点

5 構成員の主な意見

【ハートランド平尾台(株)】

- ・開園以来継続して管理運営をしていることから、維持管理においても十分な経験があり、指定管理者として市の要求水準以上の適性を有している。
- ・当該施設の非常に特殊な自然環境を熟知した職員を擁しており、専門知識や意欲を十分持っている。
- ・有効性については、新しい取組みが良く見える発表で、問題意識を持って解決しようとしている姿勢が評価できる。

6 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・レストラン、ファストフード、ショップの統廃合による飲食物販事業の収益改善
- ・日陰施設の充実、ミストシャワーの増設、水遊び場の充実などの夏場の猛暑対策
- ・安全対策・危機管理体制については気象状況を判断し、臨時閉園等を実施
- ・現状の成果と課題を分析し、課題解決のためのきめ細やかで数多くの具体的な提案

7 市における主な選定理由

- ・施設の管理運営に対する理念、基本方針を十分に理解し、安定的な人的基盤や財政基盤を基に、開園以来の実績や経験を有している。
- ・利用者のニーズに対応し、利用者の満足度を高めるための取組みとしてホームページのリニューアルを掲げており更なる情報発信の強化が期待できる。
- ・当施設での指定管理業務の実績、経験があり、また、危機管理体制や苦情対応等についてもしっかりと提案されていることから、安定した管理運営が期待できる。

8 指定管理料提案額 H31～H35 : 154,245 千円／年

水環境館

1 指定概要

- ・施設名称 水環境館
- ・指定期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）
- ・指定管理候補者 玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体

2 応募状況

- ・説明会参加 11 団体
- ・応募件数 4 団体

3 選定方法

水環境館指定管理者検討会の結果を踏まえ、指定管理者候補を決定する。

4 検討会

- ・構成員 4 名（学識経験者 2 名、公認会計士 1 名、民間 1 名）

応募団体	構成員				得点	(加算) 合計	備考
	A	B	C	D			
(株)ネイチュアエ ンタープライズ	51	56	45	61	56	(0) 56	(株)モンベルのグループ会社
北九州みずべ活 性化共同事業体	64	62	68	70	67	(5) 72	【構成団体】 岡崎建工(株) NPO 法人北九州魚部 地元優遇加算 5 点
玄海グリーン& アドベンチャー 共同企業体	83	69	72	62	71	(3) 74	【構成団体】 太平ビルサービス(株)北九州支店 (株)エコプラン研究所 (有)カヌースクール九州 地元優遇加算 3 点
北九州まちづく り応援団・朝日広 告社共同事業体	56	60	56	61	61	(5) 66	【構成団体】 北九州まちづくり応援団(株) 朝日広告社(株) 地元優遇加算 5 点

5 構成員の主な意見

【(株)ネイチュアエンタープライズ】

- ・アウトドアイベントに関しては魅力的な提案であった。
- ・水生生物や環境学習に関するイベントの提案が少なかった。

【みずべ活性化共同事業体】

- ・水生生物の管理に関しては、他施設と連携した企画展の提案や生物飼育の点で実績・意欲に期待ができる。
- ・提案内容はこれまでにない柔軟なものになっており、魅力的である。
- ・事業収入の計画およびイベントの実施については実現性に不安がある。

【玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体】

- ・水生生物の管理・水辺のアクティビティ・施設管理に関して非常にバランスの良いメンバー・提案となっている。
- ・事業についても現実的なものになっており良かった。
- ・提案に新鮮さはあまり見られないが、実績もあり、総合的にみて期待できる。

【まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体】

- ・水生生物の管理に関しては実績がある。
- ・入場料を取ることにについて、想定する入場者数および収入の実現性に不安があった。

6 候補者に選定された団体の主な提案内容

- ・紫川でのカヌー体験事業
- ・河川で活動するボランティアの育成事業など

7 市における主な選定理由

- ・他施設の管理運営に多くの実績がある。
- ・水辺のイベント、生物管理に関して強みを持った団体が集まっており、賑いづくりに期待が持てる。
- ・具体的な提案事業、自主事業を提案しており、指定管理料削減に努めている。

8 指定管理料提案額 H30 : 24, 812 千円、H31~H36 平均 : 24, 615 千円

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名称 : 到津の森公園
所在地 : 小倉北区上到津4丁目1番8号
概要 : 開園年月日 平成14年4月13日
敷地面積 : 約106,000㎡
主要施設 : 管理センター、南エントランス、北エントラス、動物展示施設、里のいきもの館、子どもホール、森の音楽堂、ふれあい休憩舎、動物病院、レストラン、売店、駐車場、芝生広場、遊戯施設他

名称 : ひびき動物ワールド
所在地 : 若松区大字竹並286番地
概要 : 開園年月日 平成元年3月26日
敷地面積 : 約18,000㎡
主要施設 : カガール舎、フオレスト・カガール放飼場、隔離室・診療室、管理施設他

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名称 : 公益財団法人北九州市どうぶつ公園協会
所在地 : 小倉北区上到津四丁目1番8号
主な業務内容 : 指定管理業務、駐車場管理運營業務

2 指定の経緯

平成30年6月26日 指定管理者検討会の開催
(条件付き公募方式採用の妥当性検証)
平成30年9月 3日 募集要項配布
平成30年9月27日 募集締切
平成30年10月9日 指定管理者検討会の開催(提案書等審査)
平成30年11月 指定管理者候補を決定

3 選定方法

指定管理者候補の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、条件付き公募方式採用の妥当性及び申請者から提案された事業計画書等について検討を行いました。市は、検討会の検討結果を参考に条件付き公募方式の採用を妥当と判断し、指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

[学識経験者] 上田 恭一郎（北九州市立自然史・歴史博物館館長）

[公認会計士] 松木 摩耶子（松木公認会計士事務所代表）

[有識者] 城戸 宏 史（公立大学法人北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授）

[教育関係者] 重國 香（北九州市保育所連盟理事）

[市民代表] 鶴田 真 弓（北九州ｽﾞ 21 委員会第 11 期委員）

5 条件付き公募方式採用について

(1) 条件付き公募とする理由

市は、当該施設が民間事業者に委ねることが適さない施設であるか、市が直接担うより効率的・効果的な管理運営ができるか、といった視点で検討した結果、到津の森公園・ひびき動物ワールドの指定管理者選定に条件付き公募方式を導入することとしました。

(2) 条件付き公募方式採用の妥当性検証

6月26日	構成員				
	A	B	C	D	E
妥当性	有	有	有	有	有

(3) 検討会における主な意見

- ・これまでの歴史的経緯や施設の長期的視点に立った運営の必要性から考えると条件付き公募は妥当である。
- ・一方で、スペースワールドの閉園等の環境変化の中で、今一度、戦略的に施設の位置づけを考えていくことが必要である。
- ・ワシントン条約への対応や国内での動物の移動など専門性や特殊性による長期的な視点が必要であり、そのためには、条件付き公募は妥当である。
- ・インバウンド対応など、対外的な発信も心掛けて頂きたい。
- ・長期的視点に立った事業を検討し、財政上においても問題のない団体であることが望ましい。
- ・とても良い地域資源なので、戦略的かつシビックプライドになるよう公益財団法人が運営をしたほうがよい。

6 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	<p>指定管理者としての適性</p> <p>(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針</p> <p>① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。</p> <p>(3) 実績や経験など</p> <p>① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。</p> <p>② 応募団体が施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。</p> <p>③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。</p>
2	<p>管理運営計画の適確性</p> <p>【有効性】</p> <p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <p>① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。</p> <p>② 市の政策支援が業務内容に付加されている場合、政策支援を図るための効果的な提案があるか。</p> <p>③ 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。</p> <p>④ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。</p> <p>⑤ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。</p> <p>(2) 利用者の満足度</p> <p>① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。</p> <p>② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。</p> <p>③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。</p> <p>④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。</p> <p>⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。</p> <p>【効率性】</p> <p>(3) 指定管理料及び収入</p> <p>① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。</p> <p>② 収入が最大限確保される提案であるか。</p> <p>③ 利用料金制を導入する施設については、利用料金の設定が適切であるか。</p> <p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>① 収支計画が妥当かつ、実施可能な提案であるか（利用料金の改定を含む）。</p> <p>② 経費の配分は適切であるか。</p> <p>③ 積算根拠は明確であるか。</p> <p>④ 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われる場合、</p>

それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫されているか。
【適正性】
(5) 管理運営体制など
① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われるよう配慮されているか。
④ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
⑤ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

7 審査結果

(1) 適 否

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	構成員				
		A	B	C	D	E
（公益財団法人） 北九州市どうぶつ 公園協会	1 指定管理者としての適性					
	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	適	適	適	適	適
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤					
	(3) 実績や経験など					
	2 管理運営計画の適確性					
	【有効性】					
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	適	適	適	適	適
	(2) 利用者の満足度					
	【効率性】					
	(3) 指定管理料及び収入	適	適	適	適	適
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性					
	【適正性】					
(5) 管理運営体制など	適	適	適	適	適	
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など						

(2) 検討会における主な意見

- ・ 今後、アンケートの属性等、データ分析に基づく長期的な営業広報や経営戦略の分析立案の視点を加えて、集客営業は根本的な見直しに取組まれたい。
- ・ アンケート数が少ない。ネットアンケート活用や大学と提携して、社会調査をやってもらうなど工夫してはどうか。
- ・ 動物管理や園の美しさへの取組みなど公園の質を維持し高める適切な管理運

営は評価できる。

- ・オリジナル商品開発は経営上非常に難しい取組み。市からも取組みの是非を助言をして欲しい。
- ・動物園は、他園との差別化が難しい。到津では、ゾウにリンゴをあげることができるなどの魅力を上手に伝えること。良い動物園なので、若者の発信力などを活用して。
- ・インスタ映えはインバウンドに効果的なので、更新頻度やアクセス数などを他の施設と比較するなどして充実させていただきたい。ひびき動物ワールドについては、インスタグラムの更新が極端に少ない。

8 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、公益財団法人北九州市どうぶつ公園協会を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・管理運営計画の適確性のうち有効性については、動物及び植物の維持管理計画、政策支援事業が的確に行われる提案となっている。
- ・利用者の満足度については、これまでの取組みを着実に進めるとともに、多言語対応の音声案内システムの導入などあらたな取組みが提案されている。
- ・効率性や適正性の取組については、収入を確保する提案がされており、組織の管理運営についてもボランティア等との連携による安定的な運営計画が提案されている。

9 提案額

【到津の森公園】

H31年度	90,130千円
H32年度	90,130千円
H33年度	90,130千円
H34年度	90,130千円
H35年度	90,130千円

【ひびき動物ワールド】

H31年度	37,965千円
H32年度	37,965千円
H33年度	37,965千円
H34年度	37,965千円
H35年度	37,965千円

提 案 概 要

(到津の森公園 指定管理者)

団体名： (公財)北九州市どうぶつ公園協会

1 指定管理者としての適性について

<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針</p> <p>◇基本理念「市民と自然とを結ぶ『窓口』となる公園をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本来の生息環境を模した動物展示、貴重な自然(郷土の森)を保全・活用を通じ、来園者が様々な動物や自然とふれあうことのできる施設づくりを目指す。 ○地域に根付いた動物園として、市民の生活の質を豊かにする「日本一美しい動物園」を目指す。 <p>◇基本方針① 自然環境や動物とのふれあいを通じて命の大切さなど学習する「自然環境教育施設」とする</p> <p>「環境学習プログラム」(動物ガイドや体験活動等)などの実施により、自然環境に関する様々な学習機会を提供する。</p> <p>◇基本方針② 市民や企業等から様々な協力が受け入れられる「市民が支える公園」とする</p> <p>友の会(動物サポーター、基金)などの「金銭的支援」、動物飼料などの「物的支援」、市民ボランティアなどの「人的支援」等、「市民が支える公園」として、様々なサポートや協力を得て施設運営を行う。</p> <p>◇基本方針③ 良質なサービスを継続的に提供するため「効率的な運営」を目指す</p> <p>職員の勤務体制の見直し、委託職員(ゲート、駐車場警備など)の柔軟な配置、自前作業への切替(費用対効果のあるもの)、徹底した経費削減による効率的運営を行う。</p> <p>◇動物の飼育・展示に関する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飼育:「個体管理台帳」や「診療簿(カルテ)」による健康状態の把握、情報共有/「疾病管理マニュアル」による計画的診療/「作業マニュアル」などによる安全管理の徹底 ○展示:「動物の福祉に配慮した動物展示」、「人に伝える、人に伝わる動物展示」(生息環境を思わせる展示環境整備、動物らしい行動・能力を引き出す遊具等の設置、解説表示板や動物ガイド等)/毎年作成の「動物飼育展示計画」による繁殖調整や他園との動物移動(導入、交換、放出)
<p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>◇人的基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大型動物や猛獣などの飼育・獣医業務、庶務・経理、施設管理業務等に経験豊富な職員が多数在籍 ○「理事会」「評議員会」による、適正な園運営を行うためのガバナンス確保 <p>◇財政基盤</p> <p>経営化安定基金(1億円)など正味財産約7億円を保有、特定費用準備資金を積立</p>
<p>(3) 実績や経験など</p> <p>◇受託施設</p> <p>志井ファミリープール/響灘緑地/山田緑地など12施設の管理実績あり</p> <p>◇指定管理施設</p> <p>到津の森公園/ひびき動物ワールド/響灘緑地など施設の管理実績あり</p>

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <p>◇施設管理・事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「安全」「衛生」を重視した施設管理 ○集客広報型事業(七夕フェア、花火ファンタジー等)/多人数対応型事業(おやつタイム、動物のタッチタイム等)/講座体験型事業(ゆめある動物園プロジェクト等)/団体集客型事業(環境学習プログラム)/支援醸成型事業(ファン感謝イベント等)/地元還元型教育事業(実習受入、職員派遣) ※目標入場者数(31～33年度:38万人、34～35年度:39万人) <p>◇エリア別の動物管理計画・植栽管理計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各エリアのコンセプトにあった展示水準の維持改善/適正な展示数の維持 ○「郷土の自然エリア」「世界の自然エリア」「ふれあい動物ゾーン」など、それぞれの特性にあった植栽配置/来園者が展示動物の生息環境に自然に入り込んでいけるような景観を演出 <p>◇政策支援【マダガスカル共和国との希少動物保護事業】</p> <p>これまで蓄積された飼育・繁殖技術のほか、勉強会、職員派遣により習得した知識・技術を利用/事業における教育啓発活動(小学生向け学習プログラム)</p> <p>◇政策支援【環境学習プログラム等】</p> <p>一般来園者向けプログラム(到津の森調査隊、飼育体験等)/一般団体向けプログラム(バックヤードツアー、餌やり体験等)/学校団体向けプログラム(どうぶつとなかよし、動物の赤ちゃん等)等を実施</p> <p>◇利用者の増加や利便性を高める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の増加:集客のためのPDCAサイクルの確立/営業と集客の直結型事業の開発/会員継続の取組 ○利便性:傘の貸し出し/オリジナルグッズ等の開発/多言語看板の設置 <p>◇ひびき動物ワールドとの連携</p> <p>環境学習プログラムの開発/両園でのイベント告知/動物の移動調整/飼育員間の技術交流</p> <p>◇営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遠足時期を想定した各団体への誘致活動/旅行代理店との連携/観光コンベンション協会と協働での修学旅行誘致/ホテルとの利用契約、新聞社等への前売券の販売拡大/インバウンド対策 ○幼稚園・小学校等へのポスター・チラシ配布/マスコミへのこまめな情報提供/HP等を利用した情報発信
<p>(2) 利用者の満足度</p> <p>◇利用者の意見把握、反映</p> <p>アンケートの実施、新たな来園者の開拓</p> <p>◇苦情対策等</p> <p>速やかな対応、職員間での情報共有等による再発防止</p> <p>◇利用者への情報提供</p> <p>ゲートお知らせ看板(イベント・動物の展示情報等)/動物解説表示板/園内放送(イベント告知等)</p> <p>◇その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案</p> <p>目的に応じた順路設定/園内マップの充実/ミストの設置/飲食・物販の充実/効率的な園内放送(緊急放送など重要なお知らせの伝達)/園内備品の更新</p>

【効率性】に関する取組み
(1) 指定管理料及び収入
◇指定管理料:90,130千円 ◇収入の増加 夜間開園の魅力アップ/自動販売機契約を公募し(協賛金確保)/企業・団体からの協賛金確保/飲食・物販の魅力向上(オリジナル商品等の開発)/移動販売車等の拡大 ◇支援制度における加入件数及び金額増加への取組 会員限定イベントの実施・充実/新規入会キャンペーンの実施/地元企業や団体等への勧誘活動/会員特典の強化
(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性
◇収入：353,099千円 ◇支出：443,229千円

【適正性】に関する取組み
(1) 管理運営体制など
◇管理体制 理事長、事務局長、園長、獣医師2名、飼育職員19名他事務スタッフなど40名で運営 ◇職員の資質・能力向上 ○ (公社)日本動物園水族館協会の実施する飼育研修への参加 ○ 外部講師による接遇研修等の実施、応急対応講習等の実施 ◇地域の住民や関係団体との連携や協働 ○ 市民ボランティア「森の仲間たち」、到津の森ちからの会との連携 ○ ドリームナイト・アット・ザ・ズーの開催
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
◇個人情報保護:情報保護規程に則った個人情報の保護 ◇平等利用:地方自治法第244条第2項、第3項の主旨に則った管理運営 ◇安全対策:定期保守点検の実施/職員の労働災害防止/食品衛生管理の徹底/動物逃亡訓練・感染症対策 ◇危機管理体制:巡視による個別点検の実施/災害時対応訓練の定期的実施

提案額 (千円)

31年度	90,130千円
32年度	90,130千円
33年度	90,130千円
34年度	90,130千円
35年度	90,130千円

※提案概要は、提案書の内容を2枚程度(A4)にまとめてください。

提 案 概 要

(ひびき動物ワールド 指定管理者)

団体名： (公財)北九州市どうぶつ公園協会

1 指定管理者としての適性について

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針
◇基本理念 来園者が身近に、そして手軽に動物や自然とふれあうことのできる施設づくりを行う。
◇基本方針 動物への愛護と命の大切さを知るための学習及び児童の育成に関わる学校での授業の一環として、「ふれあい教室」や「職場体験学習」等の事業を行う。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
◇人的基盤 ○大型動物や猛獣などの飼育・獣医業務、庶務・経理、施設管理業務等に経験豊富な職員が多数在籍 ○「理事会」「評議員会」による、適正な園運営を行うためのガバナンス確保
◇財政基盤 経営化安定基金(1億円)など正味財産約7億円を保有
(3) 実績や経験など
◇受託施設 志井ファミリープール/響灘緑地/山田緑地など12施設の管理実績あり
◇指定管理施設 到津の森公園/ひびき動物ワールド/響灘緑地など6施設の管理実績あり

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み
◇目標入園者数(31年度～35年度:80,000人)
◇動物管理・植栽管理計画 ○来園者が安全、快適に触れ合えるような適切な動物管理/マイクロチップによる各個体の識別管理 ○来園者に配慮した剪定/園内景観に合った植栽・樹木の選定
◇体験学習施設としての活用 ふれあい教室/グリーンパークと連携したイベント/玄海青年の家等周辺施設と連携したイベント
◇施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組 環境学習プログラム開発/飼育スタッフによるガイドタイムの設定/新鮮なホームページ情報の提供/オリジナルグッズの開発
◇到津の森公園との連携

<p>環境学習プログラムの開発/両園でのイベント告知/動物の移動調整/飼育員間の技術交流</p> <p>◇広報</p> <p>HPによるカンガルー等の最新情報の更新/記者室投げ込み等によるマスコミの活用</p>
<p>(2) 利用者の満足度</p> <p>◇利用者の意見把握、反映/苦情対策等</p> <p>アンケートの実施/速やかな対応、職員間での情報共有等による再発防止</p> <p>◇情報提供への取組/その他サービスの提案</p> <p>動物の解説板/グリーンパークと連携した体験学習イベントの取り組み</p>

【効率性】に関する取組み
<p>(1) 指定管理料及び収入</p> <p>◇指定管理料:37,965千円</p> <p>◇収入の増加</p> <p>ロックワラビーのエサ販売/オリジナル商品の開発による収益の拡大</p>
<p>(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>◇収入：31,501千円</p> <p>◇支出：69,466千円</p>

【適正性】に関する取組み
<p>(1) 管理運営体制など</p> <p>◇管理体制</p> <p>理事長、事務局長、園長、飼育や管理運営スタッフ9名で運営</p> <p>◇職員の資質・能力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本動物園水族館協会の実施する飼育研修への参加 ○ 外部講師による接遇研修等の実施、応急対応講習等の実施◇管理体制
<p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>◇個人情報保護:情報保護規程に則った徹底した個人情報の保護</p> <p>◇平等利用:地方自治法第244条第2項、第3項の主旨に則った管理運営</p> <p>◇安全対策:施設・設備の保守点検/職員の労働災害の防止、安全教育の徹底</p> <p>◇危機管理体制:グリーンパークと連携した防犯対策の確立/台風・大雨警報発令時マニュアルの周知徹底</p>

提案額（千円）

31年度	37,965千円
32年度	37,965千円
33年度	37,965千円
34年度	37,965千円
35年度	37,965千円

※提案概要は、提案書の内容を2枚程度（A4）にまとめてください。

到津の森公園・ひびき動物ワールド 指定管理者検討会 会議録

第一次検討会

- 1 開催日時 平成30年6月26日（火） 13:30～14:30
- 2 場 所 北九州市庁舎12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 上田 恭一郎 構成員、城戸 宏史 構成員、
松木 摩耶子 構成員、重國 香 構成員、
鶴田 真弓 構成員
(事務局) 建設局公園緑地部長、建設局公園管理課長、
公園管理課企画係長、担当職員

4 会議内容

条件付き公募方式採用の妥当性について

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。
- 施設の管理運営に関する要求水準及び条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。
- 構成員は、質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

(構成員) 到津の森公園は、年間どのくらいお金がかかっているのか。

(事務局) 4億円強の総事業費、収入の内訳は、指定管理料、自主事業（駐車場収入、売店、レストラン）、入園料等。

(構成員) 非常に驚いたのが、他の動物園に比べて寄付金が非常に多い。

(事務局) 平成10年に到津遊園の閉園が公になってから、「絶対に無くして欲しくない」という市民の思いが表れている。

(構成員) 動物サポーターの広報をどのように行っているか。

(事務局) 市のメディアで案内、また、公園でも広報を行っている。支えてくれる市民グループ等、また、団体組織のイベント中で、サポーター等の声かけをしている。

ボランティアの方が飼育員の作業のサポート、餌切り、獣舎の掃除等を手伝ってくれており、非常に助かっている。

- (構成員) 市民ボランティアはかなりの規模だが、どういう経緯があるのか。
- (事務局) 市が引き継ぐ際、市民に支えてもらう公園として、「みんなに支えてもらわないといけない」と、募ったところからスタートしている。15年が経過し、指定管理者やボランティアの口コミで参加を募っており、100名程の方が参加している。発足後は、公園がずっとサポートし、みなさんが活動できる環境を整えている。
- (構成員) 市民ボランティアの年齢層が高いので、若い層が増えるといい。学生ボランティアなど、全国でも若い人が頑張っている。小さな子どもにとっては、ボランティアに若い人がいると一番愛着を持てる。また、お父さんお母さんからすると、おじいちゃん、おばあちゃんだと見守ってくれる安心感がある。ボランティア活動があるから、いつ行っても過ごしやすいし、きれいに整備されている。また、夜の動物園とか色々イベントをやっていて、「すごく頑張っているな」と思う。
- (構成員) ボランティアの養成は難しい。ほとんどはお年寄り。若い人は時間がない。若い方は継続が大変。ある程度お年寄りでも大丈夫と思う。
- (構成員) 財政状況を見ると、平成28年度は収益より費用が多い。経営状態が安定していないのでは。財産はあるようだが、経営状態をどのように見ているのか。
- (事務局) 公益財団法人の性格上、毎年毎年、多額の黒字を出してはいけないという福岡県からの指導がある。平成28年度は、投資その他を行っている。あまり財産を持ちすぎでは駄目だとなっている。
- (構成員) ひびきは、響灘緑地の端にある。グリーンパークはきれいで、過ごしやすい環境だが、ひびきは離れており、古びて老朽化しているし、狭いと感じる。老朽化している柵、門構えも暗い感じで入りづらい。到津と平等に整備してもらいたい。国内有数の動物を扱っているのなら、人が入りやすいような環境にしてもらいたい。
- (事務局) 指定管理者の課題であり、市の課題でもある。一定額内の施設修繕等は指定管理者にお願いするが、一定額を超える部分は市が負担することになる。指定管理者だけではできない部分もある。他の有料公園との兼ね合いもあるが、必要な個所から整備することになる。

- (構成員) 動物園は娯楽施設と考えがちだが、欧米に行くと研究施設だ。その意味で、特殊性、その中でも、長期のスパンに立って運営できるかどうかという長期性。3年、5年で指定管理者が変わることは非常にそぐわない施設。長期的な視点と、元々民間がやっていて経営が難しくなったという歴史的経緯を考えると、条件付き公募は極めて妥当だ。
- ただ、開園から15年以上経過している。スペースワールドが閉園したこと、全国的に自治体が動物園を維持することが難しくなっていること、インバウンドの状況等を考えると、そろそろ積極的に到津、ひびきも含めて、市の施設として戦略的に位置づけて考えていく時期では。
- (事務局) 動物については、これまでどおりやっていきたい。遊具は老朽化していて、今後どうするかは、今年から検討を始める。求められるものも変わってきている。どうあるべきか勉強していきたい。
- (構成員) 茨城の自然博物館は、都心からかなり離れたところで、何もない。ところが、東京その他関東周辺からすごく人が来ている。理由は、公園がある。池があって白鳥がいる。これだけで人が来る時代。遊具が全くない、その代わり、大きな駐車場と1日安全に遊べるようになっている。それが人を惹きつけるキャッチフレーズ。遊具は維持管理が大変。スペースワールドも撤去費用が大変。むしろ、みんなが寝転がって過ごせるような、安上がりで、でも飽きられないことを考えてはどうか。
- (構成員) 到津の森公園は臭いがいい。飼育員が手間ひまかけている。もう一つは、ゾウに餌を与えられる。日本の中でもいくつかしかない。そのくらいゾウの飼育は難しい。それをアピールしていない。売りにしようとも思っていない。そこを工夫して欲しい。すごくいい地域資源を持っている。戦略的かつ市民のシビックプライドになるよう、公益財団法人が運営した方がいい。
- (構成員) 広告、マーケティングというか、アピールする主体は協会なのか。市は何か指導をするのか。
- (事務局) 指定管理者に対し、効果的なPRを市からお願いしている。市のメディアを使って、市政だよりでは、毎号のお知らせと年1回程度の特集を組ませてもらっている。また、インバウンドでは、市内の他の観光施設と一緒に旅行社への売り込みを行っている。
- (構成員) 市外へのPRが弱い、そこは課題だ。動物の話題がNHKで出ているが、今、到津よりも大牟田が多い。そこは頑張ってもらうのが課題の一つではないか。
- (構成員) 最近思うのは、インスタグラムが大きい。来た方がスマホで写真を

撮る。それをInstagram、ブログに載せる。撮影ポイントを整備することも必要。

インバウンドでは、ユニバーサル化が非常に大きくて、多言語化がどこまでできるか。中国人が非常に多く、スマホを見てあちこち動いている。個人客が多くなり、そこに食い込めれば。宣伝をいかに多言語化していくか。将来的な課題の一つではないか。

(構成員) ワシントン条約、希少種を扱っている。動物を導入する時に、専門的な知識と対応が必要。継続的な蓄積はとても大事。これまでもマダガスカルとか実績がある。それも評価のポイント。

○ 検討会の意見を受け、条件付き公募方式採用の妥当性の判断について、事務局より説明。

(事務局) 本日出された検討会の意見を参考に、指定管理者候補の選定手続を進めたい。

第二次検討会

- 1 開催日時 平成30年10月9日(火) 9:30~11:40
- 2 場 所 北九州市庁舎12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 上田 恭一郎 構成員、城戸 宏史 構成員、
松木 摩耶子 構成員、重國 香 構成員、
鶴田 真弓 構成員
(事務局) 建設局公園緑地部長、建設局公園管理課長、
公園管理課企画係長、担当職員

4 会議内容

指定管理者候補の選定について

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項について、事務局より説明。
- 申請要項等について、事務局より説明。
- 企画提案書について、事務局より説明。
- 申請団体より提案概要に関して、プレゼンテーション。その後、質疑応答。

(構成員) アンケートはどんな内容か。

- (応募団体) 「どこから来たか」「家族構成は」「来園は何回目か」「何に満足、何に不満か」等がある。対面式のアンケートと紙を置いて記入してもらうアンケートがある。
- (構成員) アンケートのサンプル数は。
- (応募団体) 年間2,000件程度。
- (構成員) アンケートの属性が知りたい。
- (応募団体) 何歳かは分かるが、多分ファミリーだと思う。
- (構成員) 属性がちゃんと分かるようにしてほしい。せっかく満足度が高いのに、データとしての価値が落ちる。
それと、福岡市には動物園があって、福岡市から到津に多く来ているイメージはない。何パーセント来ているのか。
- (応募団体) アンケート上は多くの人 coming いるようだ。また、しっかりしたものではないが、駐車場のナンバーを調査すると、連休時期などは福岡ナンバーが随分多く、福岡地域から来ていることが分かる。経営的イメージからすると、マーケットとして福岡は北九州に比べ非常に大きい。到津は福岡市の動物園と全く違った園を展開しているという意識があり、出来る限り差別化を図りながら、福岡市のマーケットに戦略をかけたい。
- (構成員) 福岡市から何パーセントくらい来ているのか。
- (応募団体) アンケート総数約2,000件のうち、福岡市は110件。市内を除けば市外、県外が一番数が多い。
- (構成員) アンケート2,000件のうち、福岡市が一番多いというのは信じ難い。直方市や行橋市は、福岡市よりも少ないのか。
- (応募団体) アンケート上は、飯塚市、直方市で30件くらい。
- (構成員) それは、素直に考えると、行橋、直方、飯塚でPRが足りないということでは。アンケートが何か偏っているのかと思う。それから、団体でどこから来たのかは分析しているか。
- (応募団体) 数字は持ち合わせていない。行橋あたりは増えてきている。
- (構成員) 提案書では、目標入場者数が31～33年度は38万人、34～35年度は1万人増え39万人。その理由は。また、39万人が継続する理由は。
入場者収入が、入場者数の増に合わせて、概ね600万円増えている。1人当たり600円と見込んでいるのか。1万人が全て有料とは限らず、無料の方もたくさんいるはず。どういう試算か。
- (応募団体) 年ごとの増減は、季節的な要件、例えば、日曜日、連休に雨が降っ

たりすると落ち込む。

年ごとよりも、入場者数を増やすためには、どんな努力が必要なのか
が重要。そのためには、福岡のマーケットは非常に重要。それから、
今まで来なかった人も重要。例えば、高齢者やカップル。

もう一つは、どうやって客単価をあげるか。ただ客を無尽蔵に増や
せばいい訳ではなく、無料の人が増えれば、その分経費もかかる。

出来る限り有料の方を増やしたい。

現在、客単価は400～800円を前後している。

(構成員) 頑張ったとしても人口が減っていく中で、増やしていくことが
確実に見込めるのか。

(応募団体) 確実な見込み難しいが、これまでは、ファミリー向けだった。
そうではなくて、シニアに対してどうすれば来てもらえるかが非常に重
要。最近見かけるのは、シニアの個人、夫婦。コンテンツをどう生
かすかが重要。

中学生・高校生は全く来ない。大学生もそう。若者に対するコンテ
ンツの充実も必要。今後は、ファミリーがどんどん減っていく。今
まで来てなかったマーケットを取っていく意識が必要。

(構成員) 消費税が8パーセントから10パーセントに上がるが、計画書では
その影響が加味されているのか。

また、今後、消費税が15パーセント、20パーセントになる可能
性もあると思っているが、その場合の手立てを何か持っているのか。

(事務局) 市の提案書に関しては、消費税の変更には対応せずに現在の税率で
作成をお願いしている。

(構成員) 8パーセントから10パーセントは来年10月から。それを加味せ
ずに計画書の作成をお願いしたのか。市の対応を考えてもらいたか
った。

(応募団体) 経費として一番は人件費。人件費を減らすための施策が必要。安全
面を確保するために人は減らせないので、それ以外、例えば、チケ
ット販売、無人の改札、どうすれば省力化できるかを考える必要が
ある。出来る限りカードシステムに移行することも必要。そこで人
件費等を減らすことは出来るだろう。

ただ、将来的には、園内にお金を落としてもらうためのコンテンツ
が非常に重要。

また、条例上、入園料は大人1,000円だが、現状800円とし
ている。消費税が上がった場合は、入園料のアップも含めて検討、
相談させて欲しい。

(構成員) 環境学習プログラムは、年々増えているとのことだが、小倉北、小
倉南以外の区からの利用も増えているのか。

- (応募団体) スタッフが限られており、申込に対応できていない。理由は、時期が集中してしまうため。何月でもいいとならない。
- (構成員) 年間で分散すれば、対応できるのか。そういった提案は学校にしないのか。スケジュールが決まる前に組んでももらえないのか。
- (応募団体) 年中で希望できると伝えても、学校スケジュールが優先され、春・秋となってしまう。
- (構成員) 学校のプログラムをきっかけに、家族で来るパターンもあると思うが、それをアンケートで取ったことはあるのか。なぜ来たいと思ったのかを聞いたことはないのか。
- (応募団体) アンケートに来園したきっかけを書く項目はあるが、「子どもが来て面白かったから」という内容はあまりない。
- (構成員) そこを掘り起こすと、年代や、何をきっかけに来たのかが知れる。今後、アンケートに加えると、どのくらいの人に支持されているか、どういう風に来たいと思っているのかが分かる。魅力のある動物園だと思うし、北九州唯一の資源でもある。植栽もきれいにしており、散歩の人も多いと聞いている。周辺だけではなく遠方からでも「行ってみようか」となるように、PRの仕方も考えてもらいたい。
- (構成員) インスタグラム等で投稿数を見てみると、門司港レトロは多くて73,508件。福岡市の動物園が21,700件。到津の森公園は9,760件。福岡市科学館が7,074件。いのちのたび博物館が8,836件。一方、ひびきは(到津と)分かれており、集客等つらい状況だと思うが、投稿数が33件。ちょっと極端。そこが改良点では。カンガルーに触れるところは、他にないとのことだが、そういった宣伝を大々的に行ってはどうか。もう一つは、新しいメディアへの露出方法を考えるべき。SNSは無料だし、大いに利用すべきだと思う。本当にチラシが有効なのかも考える時期にきたと思う。あとは、低年齢化。中学生・高校生はほとんど来ない。そこに入っていくのは無理。幼児教育を考え直して、そこを捉えなおす必要があるのでは。
- (応募団体) どこでも「インスタ映え」というのがある。今、大学で1単位の授業を行っており、公園を見ないとレポートを書けないようになっている。大学生になって来ることはない。でも来ると「良かった」と言ってくれる。それがインスタ映えになるのかなど。みんなスマホを持っている。出来る限り美しい動物園、インスタ映えする施設を作りたいというものもある。

(構成員) インスタ映えがインバウンドの誘致に繋がるのでは。海外の方は、メディアがSNSであり、それを見て、遠方からでも日本へ来る。海外の方は色々なことに興味を持っている。1回行って良ければ「いいね！」を押して一気に拡散する。
海外向けの誘致もSNSで魅力を発信していくと違うのでは。

(応募団体) インバウンドだが、団体で来ることはまずない。最近、個人の旅行として到津を利用する方はかなり見かけるようになった。

(構成員) そういった方が「いいね！」を拡散してくれると増えると思う。PRも増やしていくと、海外の方が増えると、日本の方も「ちょっと行ってみようか」となると思う。

(応募団体) 今までは、主に市内のファミリー層向けの動物園であったが、個人客でもインバウンドが増えている。遅ればせながら、インバウンド対策として、外国人のお客さんに喜んでもらえる施設にして「いいね！」をSNSに拡散してもらい、他の方に来てもらえる施設にしていきたい。

(構成員) 門司と小倉北はそんなに長い距離ではない。門司からこっち、こっちから門司に行ってもらおうプランがあれば違ってくると思う。割引なり特約があれば、寄って来たりすると思う。そこで増やしてもらいたい。
それから、大学の授業で使うとそこに行ってもらいたい。行かないとレポートが書けない。行って見て、やっぱり良かったという意見があるということなので、何か学校と公園で出来ないかを橋渡ししていくと違ってくると思う。

(応募団体) 今、教育大学が幼児教育で、学生は全員来る。畜産科が実習生として来る。

(構成員) 獣医、動物関連の学科がある学校に広げてもらい、その年代が来ることで、「学校で行ったから個人で行ってみよう」と。中学・高校で間が空いたとしても、その先があるかもしれないし、結婚してファミリーとして「あの時良かったから行ってみよう」と戻って来るともあると思う。長い目で見ていけるプランを考えてもらえれば。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受け、各自項目ごとの適否を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

(構成員) 営業広報については非常につかりした。全然分析が出来ていないし、数字の把握もしていない。動物の飼育と言う点で見れば、展示とかはしっかりしている。短期的には大きくぶれることはないと思うが、中長期的に見れば、人口減少していく訳で、外から入れなきゃいけない。その時のベースとなる分析さえもしていない、そこが

非常に引かかる。

だからと言って不適切だとは思わない。短期的にはちゃんとやるだろうし、これまでの36～37万人を維持してきたことに関しては非常にリスペクト出来る。集客・営業については、根本的に見直したほうが良いと思う。

(構成員) アンケートの分析では、生態学をやっているかいないかで随分違って来る。生態学をやっていると、母集団の話から始まって、統計学的な処理まですごく鍛えられている。アンケートの取り方に関して慣れている。そういった人たちの感覚を学ぶ、スタッフを入れると変わるのでは。

(構成員) 動物を見せることだけが進化して行って、経営に関してはかなり厳しい気がする。オリジナル商品を作ると10年前も言っていた。出てきたのは今回示された商品しかしかない。そこが非常に懸念される場所。ベースである今までの動物園の部分は、全く問題ないと思う。

(構成員) オリジナル商品は難しくて、ちゃんと分析してからやらないと、かけた労力が無駄になる。むしろ、今の流行のものを入れて利益を稼いだほうがよっぽどいいと思う。

(構成員) ちょっと高めのアイスクリームとか、かき氷でお金を落とさせたらいい。客単価を上げればいい。

(構成員) 博物館では、今年、深海生物の一つメンダコのぬいぐるみがものすごく売れた。こういうものは、いつも売れる訳ではない。たまたま深海生物の展示をやったから売れた。機を見てやらないといけない。オリジナルグッズは一度作ると在庫がはけるまで売らないといけない。機を見てやるようなものが、安全だと思った。

(構成員) 指定管理者は、そういう助言が適時受けられているのか。

(構成員) こういった意見を市から伝えるしかないのでは。

(構成員) すごいタイムラグが発生する。

(構成員) 博物館では、展示会の度に、赤字になるかを常に示される。それに対してすごく反省して、次はこうしようと。売店も常に連絡を取って、今何が売れているのかと。そういったマーケット目的をもってやらないと。

消費税の話が出たが、ロンドンなど消費税がどんどん上がっていった都市、海外の博物館を対象にして調査をしたら、ある程度ホームページに出ていると思う。日本国内には事例がないから、探そうとしても無理。調べたら分かるのでは。

(構成員) 博物館の場合は、はっきり差別化されている。福岡の博物館と全く

別物。ところが、動物園はかなりかぶる。そこで、どれだけ差別化して、それを適切に伝えられるかが大切。福岡市の動物園はゾウにリンゴをあげられない。それをスタッフが押し出していない。

(構成員) メリット、強みを項目に挙げていって、それをPRするだけでも、チラシを見るよりも具体的な形になって、楽しめると思う。もったいない。

(構成員) アピールの仕方を、今後、若い得意な職員を入れると変わると思うし、SNSの得意な方がいると思うので、色々な意見を聞いて取り入れて、どんどん発信していくことが大事だと感じる。チラシだけでは、大人が「連れて行こう」とはならない。大人でも休める木陰とかがあるので、子どもは遊んで、大人は休んでと、そういった魅力を伝えられたらいい。

(構成員) 10年前は、学校とか保育園への移動動物園をやっていた。集客のPRとして一番効いていた。SNSも、ただ発信するだけではなくて、営業で保育園、幼稚園、小学校に行って、その先生に「やっているから、良かったら見てください」と。友達を作っていくと駄目。

(構成員) メディアがこの3年程でガラッと変わった。その中で、有効な方法は、若い人にお願いするしかない。

(構成員) 若い人が新しい発信の仕方を知っているし、伝える力もある。その意見をしっかり聞いてやる。ましてや、動物の命を預かるという特殊な業務、ただ展示だけではなく、個体を増やす、特殊な動物もいる訳で、意見交換は大事なこと。他園、同じような施設との情報のやりとりを積極的にやってもらい、いいところを取り入れる柔軟性があれば、よくなるを感じる。

(構成員) 発信するのは無料。ポスター作って貼ってお金とられてとは全く違う。留学生集めてPRすれば、彼らがインスタグラムを上げてくれる。もしインバウンド対策というのであれば、それで十分。留学生を見ていたら、日本の動物園に行きたがるはず。動物園自体がない国がいっぱいある。そういう小さなことからやっていけば、それなりに積み増しできるいい動物園。

(構成員) 博物館では、新館になってから、英語、中国語、韓国語と日本語の4つの主な解説と大きなタイトルを作った。それは最低限。次に音声ガイド。これをやらないと。

(構成員) 土日のファミリー、個人客の戦略と、ウイークデーの団体の戦略をはっきり分けて、考えて、戦略立案しないといけない。そこが何も動かないまま、ズルズルきたのでは。

- (構成員) 天候は重要な話だ。分析したほうがいい。この年は雨が降ったからウイークデーにこのくらい来た、とかの分析はすぐ出来るはず。
- (構成員) アンケートを上手に取れないのか。38万人来て、アンケート数が2,000は少ない。
- (構成員) 今、ネットアンケートもある。入場してアンケートに答えたら何かおまけするとかあれば、つられてやるのでは。スマホだと答えやすい。入場者に対するアンケート数が少ないので、紙だけではなく、そういったものを考えてもらえると。
- (構成員) せっかくアンケートを取るのであれば、分析を。プレゼンでも分析を知りたかった。満足の方も増えていたが、不満に思う方も増えていた。どういった内容であったとか、アンケートの取り方を検討してもらいたい。
- (構成員) アンケートも、個人と団体で分けてもらいたい。団体は、いつ、どこからかが分かるはず。団体は一人一人に聞く必要がない。窓口の人に聞けばいいだけ。後日電話をかけたらいい。「この前はありがとうございました」と。営業にもなる。
- (構成員) 個別アンケートは嫌がられる。そこで、大学とタイアップして、社会調査をやっている大学、どこでもマーケティングをやっていると思うので、それを持ちかけて上手にやると、どちらにもいい話になる。
- (構成員) ひびき動物ワールドは、隣にグリーンパークがある。説明では、今後の具体案がなかった。グリーンパークと同じ指定管理者ではないから、具体的な案があればいいと。色々な所とのタイアップもあると思うし、先程出た、大学との統計調査をうまくアンケートに生かしていくとか、大学も施設も両方得だし、ウイン・ウインだと思う。
- (構成員) 到津の森公園はWi-Fiは使えるのか。
- (事務局) 使えない。
- (構成員) ベースはしっかりしている。要は集客と営業。ここだけかなり怪しい。

○ 意見交換を行った後、各構成員の審査結果を取りまとめ、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州市立自転車駐車場(19 施設)
(通常施設管理型)

所在地：(別紙参照)

施設内容：①施設概要

自転車駐車場、管理員室 等

②事業内容

放置自転車を防止するため、自転車利用者に駐車場所を提供するもの。

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

所在地：北九州市小倉北区片野新町一丁目1番6号

主な業務内容：自動車駐車場管理、自転車駐車場管理、除草・清掃、
福祉・家事援助 ほか

2 指定の経緯

平成30年 9月 4日 募集要項配布

平成30年10月 5日 募集締め切り

平成30年10月25日 指定管理者検討会の開催

平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ①法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ②本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)

(2) 応募状況

説明会参加：3 団体

応募件数： 1 団体

・公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・[学識経験者] 南 博（北九州市立大学地域戦略研究所教授）
- ・[学識経験者] 寺町 賢一（九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学研究系准教授）
- ・[公認会計士] 梅田 久和（梅田公認会計士事務所）
- ・[市民代表] 植田 詩生（株式会社西日本リビング新聞社リビング北九州編集長）

5 選定基準（例）等

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
	(3) 実績や経験など
	① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
	② 応募団体が施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
	③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2	管理運営計画の適確性
	【有効性】
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
	② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
	③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。
	④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。

(2) 利用者の満足度	
①	利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
②	利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
③	利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
④	利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
⑤	その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 指定管理料	
①	指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
②	経費を低減するための実施可能な提案があるか（市の仕様書の変更による効率化、自主事業収益からの充当も含む）。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	
①	収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
②	経費の配分は適切であるか。
③	積算根拠は明確であるか。
④	再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制など	
①	施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④	職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤	地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	
①	施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
②	利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④	防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準 (=審査項目) 及びポイント	配点	評価レベル				検討会 審査結果	得点
			構成員					
			A	B	C	D		
公益社団法人 北九州市 シルバー人材センター	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	3	3	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	3	4	3	4	4
	(3) 実績や経験など	5	4	4	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	15	3	3	3	3	3	9
	(2) 利用者の満足度	10	3	3	4	4	4	8
	【効率性】							
	(3) 指定管理料	30	3	4	3	3	3	18
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	4	3	3	6
	【適正性】							
	(5) 管理運営体制など	10	4	3	4	3	4	8
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	4	3	3	6
合計	100	65	67	70	63	—	66	
地元団体に対する優遇措置 (5点)							71	

(2) 検討会における主な意見

- ・ 手堅く安定した提案内容である。
- ・ 実績が豊かであり、利用が少ない施設の効率化の提案は評価できる。
- ・ 実績を踏まえて改善すべき点は改善し、接遇の向上にもより一層取り組んで欲しい。

(3) 検討会における検討結果

公益社団法人 北九州市シルバー人材センターは、提案内容から堅実な管理運営が期待できる。ただし、利用者満足度の高いサービスの提供について、現状からのさらなる飛躍が望まれる。

審査の結果、検討会としては公益社団法人 北九州市シルバー人材センターが指定管理者の候補として相応しいと判断した。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、公益社団法人 北九州市シルバー人材センターを指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・ 北九州市立自転車駐車場(19 施設) (通常施設管理型) の設置目的についてよく理解しており、また同施設の管理に関する意欲が強く感じられる。
- ・ 当該施設での指定管理業務の実績、経験があり、また、利用者の満足度向上や安全体制などについてもしっかりした提案がなされており、安定した管理運営が期待できる。

8 提案額

平成31年度 204,435千円

平成32年度 204,435千円

平成33年度 204,435千円

平成34年度 204,435千円

平成35年度 204,435千円

北九州市立自転車駐車場(19施設)
(通常施設管理型)一覽表

行政区	名称	所在地	構造	延床面積 (㎡)	収容 台数	供用開始日	主な設備
門司	1 門司港駅前	門司区西海岸1丁目6番	鉄筋コンクリート造 (半地下中2階)	526.68	255	H. 4. 6. 1	券売機
	2 門司駅前	門司区中町2番	鉄筋コンクリート造 (半地下中2階)	616.59	241	H. 1. 10. 1	券売機
小倉北	3 南小倉駅前	小倉北区木町3丁目11番(北棟)	平面式屋根付	605.91	252	H. 8. 5. 1	券売機
		小倉北区弁天町5番(南棟)	鉄筋コンクリート造 (半地下中2階)	399.84	104	H. 8. 5. 1	券売機
小倉南	4 徳力嵐山口	小倉南区徳力6丁目9番	鉄筋コンクリート造 (半地下中2階)	656.53	252	H. 3. 8. 1	券売機
	5 下曽根駅北口	小倉南区下曽根3丁目1番	平面式屋根付	602.18	438	H30年度	券売機
	6 下曽根駅南口	小倉南区下曽根新町13番	鉄骨造2階建(1階駅前広場とバイク置き場・2階自転車置き場)	1,291.58	980	H. 7. 2. 1	券売機 自動搬送機
	7 朽網駅前	小倉南区朽網東1丁目1番(西棟)	平面式屋根付	418.72	157	H. 18. 3. 16	券売機
小倉南区朽網西1丁目21番(東棟)		平面式屋根付	233.64	83	H. 18. 3. 16	券売機	
若松	8 若松渡船場前	若松区本町1丁目10番	鉄筋コンクリート造 (半地下中2階)	585.20	268	H. 1. 10. 1	券売機
	9 若松駅前	若松区白山1丁目18番	平面式屋根付	178.56	97	H. 9. 11. 1	券売機
八幡東	10 八幡駅前	八幡東区西本町3丁目5番	平面式屋根付	260.56	153	H30年度	券売機
八幡西	11 黒崎駅前	八幡西区黒崎3丁目7番	地上4階 鉄骨造	1,677.54	894	H. 14. 4. 1	券売機 自動ゲート 自動搬送機
	12 折尾駅前	八幡西区南鷹見町13番	平面式屋根付	732.22	370	H31年度	券売機
	13 折尾駅西	八幡西区折尾4丁目1番	平面式	631.09	409	H. 21. 9. 1	券売機
	14 折尾駅東	八幡西区中須2丁目11番	平面式	402.21	204	H. 9. 12. 1	券売機
	15 陣原北	八幡西区夕原町1番	鉄骨造平屋建	437.92	326	H. 12. 11. 21	券売機 自動ゲート
	16 陣原南	八幡西区陣原3丁目23番	鉄筋コンクリート造 (3階建の1,2階)	1,015.80	506	H. 12. 11. 21	券売機 自動ゲート
	17 本城駅前	八幡西区力丸町25番	鉄骨造(2階部分)	925.81	330	H. 15. 4. 1	券売機
戸畑	18 九州工大前駅前	戸畑区中原西1丁目12番	鉄筋コンクリート造 (半地下中2階)	673.18	235	H. 5. 4. 1	券売機
	19 戸畑駅前	戸畑区汐井町1番6号	鉄骨鉄筋コンクリート造 耐震壁付ラーメン構造	670.95	500	H. 14. 10. 1	券売機 自動ゲート

※5. 下曽根駅北口、10. 八幡駅前、12. 折尾駅前は整備中のため、延床面積、収容台数、供用開始日が変更となる場合があります。
※6. 下曽根駅南口のみ券売機2台。

**北九州市立自転車駐車場（19施設）（通常施設管理型）
指定管理者選定に関する提案概要**

審査項目	公益社団法人 北九州市シルバー人材センター																								
1 指定管理者としての適性について	<p>（１）施設の管理運営に対する理念、基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念に、「お客様第一主義」を掲げ、利用者の満足度の高い、地域に開かれ親しまれ、愛される「駐輪場」の実現を目指します。 ・基本方針は、「施設の有効性を担保」「施設の効率性の追求」「施設の適正性の確立」とします。 <p align="center">【数値目標】 (単位：千台)</p> <table border="1" data-bbox="579 533 1297 622"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用台数</td> <td>1,488</td> <td>1,488</td> <td>1,488</td> <td>1,488</td> <td>1,488</td> </tr> </tbody> </table> <p>（２）安定的な人的基盤や財政基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な経験と能力を持つ 3,000 人の会員と統括業務を担う実務経験を重ねた事務局体制により、良好かつ安定的な施設運営を行います。 ・当センターは「高年齢者の雇用の安定等に関する法律」に基づき設立された公益社団法人であり、公共、民間からの事業収入、市などからの補助金及び会員の会費収入で健全な財政運営を行うと共にその運営状況はオープンにされています。 <p>（３）実績や経験など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場については、設置以来 29 年余りの運営経験があります。また、平成 29 年度の利用者アンケートにおいては 94.2%（通常型）の利用者が管理員の対応に満足と回答しており、その他の項目でも高い評価を得ています。 ・駐輪場の他、自転車貸出し施設 1 箇所、自転車保管所 8 箇所、駐車場 2 箇所の管理運営に携わっています。 	年度	H31	H32	H33	H34	H35	利用台数	1,488	1,488	1,488	1,488	1,488												
年度	H31	H32	H33	H34	H35																				
利用台数	1,488	1,488	1,488	1,488	1,488																				
2 管理運営計画の適確性	<p>【有効性】に関する取組み</p> <p>（１）施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民向け、既利用者向け、放置自転車所有者向け等、それぞれの切り口から多様な媒体を活用した、PR、啓発活動を管理員のみでなく全会員によって組織的、多面的、効果的に進めていきます。 ・放置自転車の取り締まり強化が適正な駐輪場利用に最も有効であるので、「放置自転車」防止対策活動の強化・徹底により、利用者及び収入の増加を図ります。 <p>（２）利用者の満足向上</p> <p>お客様第一主義をモットーに、利用者の満足度向上のため、「感謝の心が伝わる対応」「利用者の目線と状況に合わせた対応」「良好な環境作りへの対応」「状況に応じた多様なサービスの提供」に努めます。</p> <p align="center">【数値目標(利用者アンケート満足度)】 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="515 1939 1361 2123"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理員の対応</td> <td>95.0</td> <td>95.0</td> <td>95.0</td> <td>95.0</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>〃 身だしなみ</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>施設の清潔さ</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H31	H32	H33	H34	H35	管理員の対応	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	〃 身だしなみ	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	施設の清潔さ	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5
年度	H31	H32	H33	H34	H35																				
管理員の対応	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0																				
〃 身だしなみ	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5																				
施設の清潔さ	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5																				

2 管理運営計画の 適確性	【効率性】 に関する 取組み	<p>(3) 指定管理料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費の抑制、競争入札等を徹底し、経費の削減を図ります。 ・電力契約に入札方法を導入し、料金の低減を図ります。 ・PC導入による管理事務の省力化を図ります。 ・6か月定期券の導入による人的コストの低減を図ります。 ・照明のLED化による経費の低減を図ります。 ・自主事業として、自動販売機を設置し、収益を指定管理業務へ充当します。 <p style="text-align: center;">【指定管理料提案額】 (単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理運営費</td> <td>204,893</td> <td>204,893</td> <td>204,893</td> <td>204,893</td> <td>204,893</td> </tr> <tr> <td>自主事業充当</td> <td>458</td> <td>458</td> <td>458</td> <td>458</td> <td>458</td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td>204,435</td> <td>204,435</td> <td>204,435</td> <td>204,435</td> <td>204,435</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>○経費の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再委託が必要な保守点検等について、市の基準に基づく競争入札、相見積もりの徴収を徹底し、不要な経費の削減に努めます。 ・施設の設備、建物等の修繕等の簡易なものについては、管理員が直接行うか又管理員が対応できないものについては、技術を持つ所属会員に請け負わせ実施することにより、経費の削減を図ります。 <p>○収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な駐輪に対する多面的、組織的なPR、啓発活動を徹底することにより利用者及び収入の増加を図ります。 	年度	H31	H32	H33	H34	H35	管理運営費	204,893	204,893	204,893	204,893	204,893	自主事業充当	458	458	458	458	458	指定管理料	204,435	204,435	204,435	204,435	204,435
	年度	H31	H32	H33	H34	H35																				
管理運営費	204,893	204,893	204,893	204,893	204,893																					
自主事業充当	458	458	458	458	458																					
指定管理料	204,435	204,435	204,435	204,435	204,435																					
【適正性】 に関する 取組み	<p>(5) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理責任者を業務第2課長とし、「駐輪場」統括職員1名、事務補助員2名を置き、各「駐輪場」の指導監督、運営調整を行います。 ・各駐輪場においては、場長1名を配置し、その下に3班編成を組み、各班に現場責任者を置き、管理員に対する研修・指導その他種々の業務管理を行います。 <p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全管理員に対して、就業前研修において、駐輪場は公の施設であって市から管理権限を受任するものであり、すべてのお客様に対して「お客様第一主義」で平等的取り扱いをするよう指導を徹底します。 ・駐輪場に「施設管理組織表」を掲示し、場長・現場責任者、管理員別に管理責任内容を明確にするとともに、「緊急連絡体制」を敷き、日常の安全対策等、緊急時の対応に取り組みます。 																									

北九州市立自転車駐車場(19 施設)
(通常施設管理型)
指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 10 月 25 日 (木) 16:00~17:00
- 2 場 所 北九州市役所 (小倉北区内 1 番 1 号) 12 階 121 会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 南構成員(座長)、寺町構成員、梅田構成員、植田構成員 (事務局) 建設局道路部道路維持課長、自転車道担当係長、職員

4 会議内容

- 当日の議事次第等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出

- 応募団体 (公益社団法人 北九州市シルバー人材センター) より提案内容に関してヒアリング

(構成員) 駐輪場毎の問題点や利用者数の違い等のポイントを踏まえて、今回の提案にどのように落とし込んだのか、お聞きしたい。

(応募団体) 折尾駅前、折尾駅西、折尾駅東自転車駐車場、下曾根駅北口、下曾根駅南口自転車駐車場、南小倉駅前自転車駐車場といった利用の多い施設は、利便性を担保するため人の配置や教育を手厚く行なっていきたい。逆に若松渡船場前自転車駐車場、本城駅前自転車駐車場といった利用の少ない施設は、昼間の利用の少ない時間帯で管理員の常駐時間を削減することを考えている。例えば若松渡船場前自転車駐車場と若松駅前自転車駐車場は場所が近いため、時間ごとの利用台数を確認して、問題ないようであれば、何かあったときは利用者から若松駅前自転車駐車場に電話してもらおうといったことを考えている。

(構成員) 2つお聞きしたい。1つは、利用者の満足度における「管理員の身だしなみ」の目標値が 92%と他の回答に比べると低めになっているが、管理員は共通のユニフォームを着るようになっているのか。もう 1 つは、開閉時間を 15 分ずつ延ばすとあるが、JR の始発や終電を意識しているのかかもしれないが、管理員に負担をかけないか。

(応募団体) 営業時間について、例えば折尾駅西自転車駐車場は朝の 5 時 15 分から開場し、夜は 22 時 15 分まで受け入れるようにしている。他の施設も管理員が自発的に対応をしている。

(構成員) 管理員は大変では。

- (応募団体) 学生の利用者が多いが、管理員にとって学生は孫のようなもので、できるだけ対応したいという気持ちを持っている。
- (構成員) 管理員の身だしなみはいかがか。
- (応募団体) 帽子と名札を着用し、あとは清潔な格好をしてもらっている。利用者から管理員とわかるようにすることを心掛けている。
- (構成員) 2つお聞きしたい。1つは、利用者の満足度における「施設の清潔さ」の目標値で、平成31年度だけが97%で以降は97.5%となっている。理由があるのか。
- (応募団体) 誤記であり、平成31年度も97.5%である。
- (構成員) もう1つ、開場、閉場時間の柔軟な対応について、5時45分から10時15分とあるが、閉場時間は22時15分が正しいのではないか。
- (応募団体) 誤記であり、22時15分が正しい。
- (構成員) 19施設について人員も多く必要になると思うが、人員の安定的な確保について今後5年間どのように考えているか。
- (応募団体) 当センターの会員の中で、自転車駐車場で働きたいという人は多く、半年から1年待ちという状態である。また、当センターでは3年を区切りとしているが、3年勤めた後、また働きたいという人もおり、管理員として知識や経験が豊富な方が増えていくようになっている。
- (構成員) どういったクレームが多いか。また、どのように解決しているか。
- (応募団体) 利用者への対応の仕方に対するクレームが多い。管理員は年配のため話のタイミングによっては利用者の話が聞き取りにくく、会話がうまくいかないことがある。また、自転車駐車場に関する様々な規定について説明する際、結果的に利用者に伝わらず不快な思いをさせてしまえば、それは説明不足として自覚するよう、管理員には指導している。
- (構成員) 施設の利用のしやすさについてはいかがか。
- (応募団体) 場所が悪い、雨が当たるといったものがある。また、駐輪時間を超過した場合に自転車に施錠するが、これはあくまで時間超過により行ったことを説明し、利用者に理解してもらうことで対応している。

○ 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○ 構成員は、公益社団法人 北九州市シルバー人材センターの提案内容について意見交換。

- (構成員) 各項目ともレベル1や2はなく、適確性等について一定の基準を満たしている。
- (構成員) 比較的高めに点数をつけたのは、期待を込めてでもある。
- (構成員) 手堅く安定した提案内容であることはわかった。ただし、開場時間、閉場時間の延長についてはクレームの原因となる危険性があるため、気をつけてもらいたい。
- (構成員) 実績が豊かであることと、指定管理料について利用が少ない施設に関する提案があったので、その点は評価した。

(構成員) 手堅い提案ではあるが、実績を踏まえて改善すべき点は改善してもらいたい。また、今後は多様な利用者が増えていくと思われるが、誰に対しても誠実な対応ができるよう、接遇の向上により一層取り組んでもらいたい。

○ 構成員は、公益社団法人 北九州市シルバー人材センターの各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が 3、「人的・財政基盤」が 4、「実績・経験」が 4
 - 「有効性」について、「設置目的の達成」が 3、「利用者満足向上」が 4
 - 「効率性」について、「指定管理料」が 3、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が 3
 - 「適正性」について、「管理運営体制」が 4、「平等利用・安全対策・危機管理体制」が 3
- が妥当であると考える。

○ 事務局が合計得点を発表

○ 公益社団法人 北九州市シルバー人材センター 66 点

○ 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

公益社団法人 北九州市シルバー人材センターは、提案内容から堅実な管理運営が期待できる。ただし、利用者満足度の高いサービスの提供について、現状からのさらなる飛躍が望まれる。

審査の結果、検討会としては公益社団法人 北九州市シルバー人材センターは指定管理者の候補として相応しいと判断した。

○ とりまとめを行って、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名称：北九州市立自転車駐車場(3施設)

(「通常施設管理＋自転車利用促進業務(提案)」型)

所在地：(別紙参照)

施設内容：①施設概要

自転車駐車場、管理員室等

②事業内容

放置自転車を防止するため、自転車利用者に駐車場所を提供するもの

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日(5年間)

(3) 指定管理者候補の概要

名称：公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

所在地：北九州市小倉北区片野新町一丁目1番6号

主な業務内容：自動車駐車場管理、自転車駐車場管理、除草・清掃、福祉・家事援助ほか

2 指定の経緯

平成30年 9月 4日 募集要項配布

平成30年10月 5日 募集締め切り

平成30年10月25日 指定管理者検討会の開催

平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ①法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ②本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)

(2) 応募状況

説明会参加：4 団体

応募件数：2 団体

- ・特定非営利活動法人 I-DO (アイディオ)
- ・公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・[学識経験者] 南 博 (北九州市立大学地域戦略研究所教授)
- ・[学識経験者] 寺町 賢一 (九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学研究系准教授)
- ・[公認会計士] 梅田 久和 (梅田公認会計士事務所)
- ・[民間] 植田 詩生 (株式会社西日本リビング新聞社リビング北九州編集長)

5 選定基準 (例) 等

選定基準 (=審査項目) 及びポイント	
1	指定管理者としての適性
	(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) に対する理念、基本方針
	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営 (指定管理業務) に対する理念や基本方針を持っているか。
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
	① 長期間安定的な管理運営 (指定管理業務) を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
	(3) 実績や経験など
	① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
	② 応募団体が施設の管理運営 (指定管理業務) に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
	③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2	管理運営計画の適確性
	【有効性】
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
	① 施設の管理運営 (指定管理業務) に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
	② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
	③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。
	④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。

(2) 自転車利用促進に向けた取組み	
①	自転車利用の促進を図るための具体的かつ効果的な提案があるか。
(3) 利用者の満足度	
①	利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
②	利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
③	利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
④	利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
⑤	その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(4) 指定管理料	
①	指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
②	経費を低減するための実施可能な提案があるか（市の仕様書の変更による効率化、自主事業収益からの充当も含む）。
(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性	
①	収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
②	経費の配分は適切であるか。
③	積算根拠は明確であるか。
④	再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(6) 管理運営体制など	
①	施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④	職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤	地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	
①	施設の利用者の個人情報を守るための対策が十分に考えられているか。
②	利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④	防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗 率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準 (=審査項目) 及びポイント	配点	評価レベル				検討会 審査結果	得点
			構成員					
			A	B	C	D		
特定非営利活動法人 I・D・O (アイデオ)	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	3	3	5	3	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	3	3	3
	(3) 実績や経験など	5	4	4	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	15	3	3	3	3	3	9
	(2) 自転車利用促進に向けた取組み	5	3	3	3	4	3	3
	(3) 利用者の満足度	10	3	3	3	3	3	6
	【効率性】							
	(4) 指定管理料	25	3	3	4	4	4	20
	(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	6
	【適正性】							
	(6) 管理運営体制など	10	3	4	3	3	3	6
	(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	4	3	3	3	3	6
	合計	100	63	63	68	67	—	67
地元団体に対する優遇措置 (5点)								72
公益社団法人 北九州市シルバー人材センター	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	3	3	3	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	4	3	4	4
	(3) 実績や経験など	5	4	4	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	15	3	4	3	4	4	12
	(2) 自転車利用促進に向けた取組み	5	3	3	3	3	3	3
	(3) 利用者の満足度	10	4	4	3	4	4	8
	【効率性】							
	(4) 指定管理料及び収入	25	3	3	3	3	3	15
	(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	6
	【適正性】							
	(6) 管理運営体制など	10	3	3	4	3	3	6
	(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	4	3	4	3	4	8
	合計	100	66	67	66	66	—	69
地元団体に対する優遇措置 (5点)								74

(2) 検討会における主な意見

①特定非営利活動法人 I-DO

- ・ 実現可能性に疑問は残るが積極的な面を評価したい。
- ・ 3施設へのシェアサイクル等の導入も含め、都心部の自転車駐車場として有効なアプローチができています。
- ・ シェアサイクル等は自転車駐車場の利用自体が減少する危険性があり、その対応をどうするのかという提案はなかった。
- ・ 提案内容の実現可能性、根拠、具体性等の点で疑問が残る。
- ・ 新たな試みという部分で、小倉都心部の自転車利用や賑わいの促進を図っていることは評価できる。

②公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

- ・ 自転車利用促進に関して3施設共通利用券の導入などの具体的な提案がなされている。

(3) 検討会における検討結果

特定非営利活動法人 I-DO は、西小倉駅前自転車駐車場への自動ゲートや3施設へのシェアサイクル等の導入など、積極的な提案内容は評価できる。ただし、実現可能性、根拠、具体性等の点で評価が分かれた。

公益社団法人 北九州市シルバー人材センターは、提案内容から堅実な管理運営が期待できる。また、3施設共通利用券の導入など、自転車利用促進について具体的な提案がなされていることは評価できる。ただし、利用者満足度の高いサービスの提供について、現状からのさらなる飛躍が望まれる。

審査の結果、検討会としては公益社団法人 北九州市シルバー人材センターが指定管理者の候補として最も相応しいと判断した。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、公益社団法人 北九州市シルバー人材センターを指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・ 北九州市立自転車駐車場(3施設)（「通常施設管理＋自転車利用促進業務（提案）」型）の設置目的についてよく理解しており、また同施設の管理に関する意欲が強く感じられる。
- ・ 当該施設での指定管理業務の実績、経験があり、また、利用者の満足度向上や安全体制などについてもしっかりした提案がなされており、安定した管理運営が期待できる。
- ・ 3施設共通利用券の導入などの自転車利用促進に向けた具体的な提案がなされている。

8 提案額

平成31年度	25,889千円
平成32年度	25,889千円
平成33年度	25,889千円
平成34年度	25,889千円
平成35年度	25,889千円

北九州市立自転車駐車場(3施設)
 (「通常施設管理＋自転車利用促進業務(提案)」型)一覽表

行政区	名称	所在地	構造	延床面積 (㎡)	収容 台数	供用開始日	主な設備
小倉北	1 小倉駅北口	小倉北区浅野1丁目2番	平面式屋根付	588.67	253	H. 10. 4. 1	券売機 自動ゲート
	2 小倉駅南口	小倉北区浅野1丁目1番	鉄骨造2階建	381.2	323	H. 10. 4. 1	券売機 自動ゲート 自動搬送機
	3 西小倉駅前	小倉北区室町3丁目2番	鉄筋コンクリート造2階建	704.00	279	H. 16. 4. 1	券売機

北九州市立自転車駐車場（3施設）（「通常施設管理＋自転車利用促進業務（提案）」型）指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	公益社団法人 北九州市シルバー人材センター	特定非営利活動法人 I-D0																																				
1 指定管理者としての 適性について	<p>（1）施設の管理運営に対する理念、基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 理念に、「お客様第一主義」を掲げ、利用者の満足度の高い、地域に開かれ親しまれ、愛される「駐輪場」の実現を目指します。 基本方針は、「施設の有効性を担保」「施設の効率性の追求」「施設の適正性の確立」とします。 <p>【数値目標】（単位：千台）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用台数</td> <td>264</td> <td>269</td> <td>274</td> <td>279</td> <td>284</td> </tr> </tbody> </table> <p>（2）安定的な人的基盤や財政基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊富な経験と能力を持つ3,000人の会員と統括業務を担う実務経験を重ねた事務局体制により、良好かつ安定的な施設運営を行います。 当センターは「高年齢者の雇用の安定等に関する法律」に基づき設立された公益社団法人であり、公共、民間からの事業収入、市などからの補助金及び会員の会費収入で健全な財政運営を行うと共にその運営状況はオープンにされています。 <p>（3）実績や経験など</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐輪場については、設置以来29年余りの運営経験があります。また、平成29年度の利用者アンケートにおいては91.2%（提案型）の利用者が管理員の対応に満足と回答しており、その他の項目でも高い評価を得ています。 駐輪場の他、自転車貸出し施設1箇所、自転車保管所8箇所、駐車場2箇所の管理運営に携わっています。 	年度	H31	H32	H33	H34	H35	利用台数	264	269	274	279	284	<p>（1）施設の管理運営に対する理念、基本方針</p> <p>北九州市立自転車駐車場の管理運営方針は、北九州自転車利用環境計画及び自転車活用推進法等々関係法令を遵守し、民間非営利セクターの立場から多様化する市民ニーズに効果的・効率的に対応し公共性・公平性に優れた「安全で快適な自転車の利用環境を整えることで、経費の節減と市民サービス向上を同時に実現することが可能」だと考えています。</p> <p>具体的には、次の3項目を重点的に実施して行きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全・安心で快適な自転車の利用環境を整えた駐輪場の管理運営 ② 指定管理制度の特性を生かした効果的・効率的な管理運営 ③ 官民連携した「協働のまちづくりに寄与する自転車駐車場」の実現 <p>【数値目標】（単位：台）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用台数</td> <td>272,150</td> <td>280,310</td> <td>288,720</td> <td>297,380</td> <td>306,300</td> </tr> </tbody> </table> <p>（2）安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>当法人は、自転車駐車場及びシェアバイク事業に精通した職員（社員9名・パート職員54名）が従事し、各事業所間のジョブシェア制を導入しています。</p> <p>一方、財産基盤については「営業収入と営業支出」は毎年ほぼバランスしており当法人の累計損益も68,292千円を計上しており安定しています。</p> <p>（3）実績や経験など</p> <p>当法人は、公の施設の指定管理業務が「北九州交通公園、福岡市天神地区自転車駐車場」など7ヶ所、類似の駐輪場を8ヶ所経営しています。また、地域の方や、企業、行政、大学等と連携した協働のまちづくりに積極的に取り組んでいます。</p>	年度	H31	H32	H33	H34	H35	利用台数	272,150	280,310	288,720	297,380	306,300												
	年度	H31	H32	H33	H34	H35																																
利用台数	264	269	274	279	284																																	
年度	H31	H32	H33	H34	H35																																	
利用台数	272,150	280,310	288,720	297,380	306,300																																	
2 管理運営計画の 適確性	<p>【有効性】に関する取組み</p> <p>（1）施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般市民向け、既利用者向け、放置自転車所有者向け等、それぞれの切り口から多様な媒体を活用した、PR、啓発活動を管理員のみでなく全会員によって組織的、多面的、効果的に進めて行きます。 放置自転車の取り締まり強化が適正な駐輪場利用に最も有効であるので、「放置自転車」防止対策活動の強化・徹底により、利用者及び収入の増加を図ります。 <p>（2）自転車利用促進に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 3施設共通利用券及び定期券の導入を提案します。これにより、増収とともに、都心部の回遊性アップと環境負荷の低減を図ります。 自転車専用レーンの普及啓発をはかり、都心部の自転車利用を促進します。 旅行者への観光情報等の提供、併せて、近隣のシティバイクの活用も促します。 <p>（3）利用者の満足向上</p> <p>お客様第一主義をモットーに、利用者の満足度向上のため、「感謝の心が伝わる対応」「利用者の目線と状況に合わせた対応」「良好な環境作りへの対応」「状況に応じた多様なサービスの提供」に努めます。</p> <p>【数値目標（利用者アンケート満足度）】（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理員の対応</td> <td>92.5</td> <td>93.0</td> <td>93.5</td> <td>94.0</td> <td>94.5</td> </tr> <tr> <td>身だしなみ</td> <td>93.5</td> <td>94.0</td> <td>94.5</td> <td>95.0</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>施設の清潔さ</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> <td>97.5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H31	H32	H33	H34	H35	管理員の対応	92.5	93.0	93.5	94.0	94.5	身だしなみ	93.5	94.0	94.5	95.0	95.5	施設の清潔さ	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	<p>（1）施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <p>施設利用者のマナーアップをはじめ交通安全学習にも積極的に取組み「小倉都心部」における自転車利用者の利便増進・駐輪マナー向上により、単なる施設の管理運営に留まること無く、自転車利用者の視点に立った管理運営を行うことで、公共性・公平性に優れた「安全で快適な自転車の利用環境」を整えたいと考えています。</p> <p>（2）自転車利用促進に向けた取組み</p> <p>本提案の「北九州市立自転車駐車場の3施設」では、シェアバイクの導入やサイクルツーリズムの醸成など、自転車利用者の視点に立った利用環境を整えたいと考えています。</p> <p>（3）利用者の満足向上</p> <p>施設利用者の「施設の利用目的、施設に対する印象や職員に対する印象、施設利用の満足度、施設に対するご意見・ご要望、苦情等」について積極的に把握し、あらゆる方法で施設利用者の要望（ニーズ）に確実に迅速に対応し、施設利用者の満足度を「満足・ほぼ満足で95%以上」の回答を目標に掲げています。</p> <p>【数値目標（利用者アンケート満足度）】（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>係員対応</td> <td>95.0以上</td> <td>95.0以上</td> <td>95.0以上</td> <td>95.0以上</td> <td>95.0以上</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H31	H32	H33	H34	H35	係員対応	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上
年度	H31	H32	H33	H34	H35																																	
管理員の対応	92.5	93.0	93.5	94.0	94.5																																	
身だしなみ	93.5	94.0	94.5	95.0	95.5																																	
施設の清潔さ	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5																																	
年度	H31	H32	H33	H34	H35																																	
係員対応	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上																																	

2 管理運営計画の適確性	【効率性】 に関する取組み	<p>(4) 指定管理料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費の抑制、競争入札等を徹底し、経費の削減を図ります。 ・電力契約に入札方法を導入し、料金の低減を図ります。 ・PC導入による管理事務の省力化を図ります。 ・6か月定期券の導入による人的コストの低減を図ります。 ・小倉駅北口及び南口の自動ゲートの効果的な活用を提案します。 ・自主事業として、自動販売機を設置し、収益を指定管理業務へ充当します。 <p>【指定管理料提案額】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理運営費</td> <td>25,947</td> <td>25,947</td> <td>25,947</td> <td>25,947</td> <td>25,947</td> </tr> <tr> <td>自主事業充当</td> <td>58</td> <td>58</td> <td>58</td> <td>58</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td>25,889</td> <td>25,889</td> <td>25,889</td> <td>25,889</td> <td>25,889</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>○経費の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再委託が必要な保守点検等について、市の基準に基づく競争入札、相見積もりの徴収を徹底し、不要な経費の削減に努めます。 ・施設の設備、建物等の修繕等の簡易なものについては、管理員が直接行うか又管理員が対応できないものについては、技術を持つ所属会員に請け負わせ実施することにより、経費の削減を図ります。 <p>○収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な駐輪に対する多面的、組織的なPR、啓発活動を徹底することにより利用者及び収入の増加を図ります。 	年度	H31	H32	H33	H34	H35	管理運営費	25,947	25,947	25,947	25,947	25,947	自主事業充当	58	58	58	58	58	指定管理料	25,889	25,889	25,889	25,889	25,889	<p>(4) 指定管理料</p> <p>昨年度までの指定管理業務による実績を十分に分析し、比較・検討を重ねた結果、<u>年間3%程度の削減が可能と考え、「年間25,300千円」を提案致します。</u></p> <p>【指定管理料提案額】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理運営費</td> <td>25,660</td> <td>25,660</td> <td>25,660</td> <td>25,660</td> <td>25,660</td> </tr> <tr> <td>自主事業充当</td> <td>360</td> <td>360</td> <td>360</td> <td>360</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td>25,300</td> <td>25,300</td> <td>25,300</td> <td>25,300</td> <td>25,300</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>公の施設「北九州市立交通公園・交通安全センター」や同様の施設「福岡市天神地区自転車駐車場」の指定管理者業務を適正に行っており、収支計画の妥当性及び遂行能力においても高い評価を得ています。</p> <p>このような経験やノウハウにより確実に実現可能な提案と業務の遂行に努めて行けると確信しています。</p>	年度	H31	H32	H33	H34	H35	管理運営費	25,660	25,660	25,660	25,660	25,660	自主事業充当	360	360	360	360	360	指定管理料	25,300	25,300	25,300	25,300	25,300
	年度	H31	H32	H33	H34	H35																																													
管理運営費	25,947	25,947	25,947	25,947	25,947																																														
自主事業充当	58	58	58	58	58																																														
指定管理料	25,889	25,889	25,889	25,889	25,889																																														
年度	H31	H32	H33	H34	H35																																														
管理運営費	25,660	25,660	25,660	25,660	25,660																																														
自主事業充当	360	360	360	360	360																																														
指定管理料	25,300	25,300	25,300	25,300	25,300																																														
	【適正性】 に関する取組み	<p>(6) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理責任者を業務第2課長とし、「駐輪場」統括職員1名、事務補助員2名を置き、各「駐輪場」の指導監督、運営調整を行います。 ・各駐輪場においては、場長1名を配置し、その下に3班編成を組み、各班に現場責任者を置き、管理員に対する研修・指導その他種々の業務管理を行います。 <p>(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全管理員に対して、就業前研修において、駐輪場は公の施設であって市から管理権限を受任するものであり、すべてのお客様に対して「お客様第一主義」で平等的取り扱いをするよう指導を徹底します。 ・駐輪場に「施設管理組織表」を掲示し、場長・現場責任者、管理員別に管理責任内容を明確にするとともに、「緊急連絡体制」を敷き、日常の安全対策等、緊急時の対応に取り組みます。 	<p>(6) 管理運営体制など</p> <p>施設利用者に安全・安心な管理運営サービスを提供するため管理体制の強化に重点を置き、施設管理員の上層部に施設管理責任者を配置し、統括責任者の業務をサポートすることで運営業務の円滑な処理と利用者へのサービス向上に努めていきます。</p> <p>(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>管理運営を実施するにあたり個人情報の取扱には「北九州市個人情報保護条例」を遵守し、業務における利用者等の個人情報の取扱を詳細にわたり規定し、職員研修などを通して周知致します。また、公共性・公平性に優れた「安全で快適な自転車の利用環境」を整え、高齢者や障害のある方、妊娠中の方や子育て期の方などが利用し易い駐輪場「優先スペース」の設置等を行っていきます。</p>																																																

北九州市立自転車駐車場(3施設)
(「通常施設管理＋自転車利用促進業務(提案)」型)
指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月25日(木) 15:00～16:00
- 2 場所 北九州市役所(小倉北区内1番1号)12階 121会議室
- 3 出席者(検討会構成員) 南構成員(座長)、寺町構成員、梅田構成員、植田構成員(事務局) 建設局道路部道路維持課長、自転車道担当係長、職員

4 会議内容

- 当日の議事次第等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出

- 応募団体(特定非営利活動法人 I-DO)より提案内容に関してヒアリング

(構成員) 指定管理事業に関する収支計画書と提案事業に関する収支計画書があるが、何か違いがあるのか。

(事務局) 基本的には指定管理事業に関する収支計画書で提案をいただいている。提案事業に関する収支計画書は、市の事業として市が採用した場合のものであり、採用の可否は市が検討する。

(構成員) 提案事業の自動ゲート導入事業とは無人化を図るということか。無人化を図るならば、安全面やサービス面で現状を下回ることはないのか。

(応募団体) 利用率の高い西小倉駅前自転車駐車場には自動ゲートがなく、夜間はシャッターが降りてしまう。それにも関わらず利用率が高いということで、自動ゲートを設置して潜在的な需要を広げていきたい。また、小倉駅北口と南口自転車駐車場では自動ゲートを設置しているが機械が古い。これからは、最新の交通系ICカードと連動したサービスも必要不可欠となってくるため、これを機会に提案した。費用については、朝夕は人的サービスの担保が必要だが昼間は人の出入りが少ないため、昼間の人件費を削減して5年分の自動ゲートの購入費用を担うという提案である。快適な最新型の自動ゲートを導入し、モノレール等の交通系ICカードと連携することで自転車駐車場の利用が伸びると見込んでいる。

(構成員) レンタサイクルとシェアサイクルの違いは何か。また、3施設が近隣に位置することによる利用者の利点はあるか。

(応募団体) レンタサイクルは自転車を借りた場所に再び返すものである。シェアサイクルは自転車を借りる場所と返す場所が別で、乗り捨てが可能となるものである。シェアサイクルの拠点が自転車駐車場にないため、これらを併せて展開していくことを提案した。

(構成員) 既存のシティバイクの1箇所となるということか。

- (応募団体) その通りで、場所が 1 つ増えることとなる。シティバイクは JR 駅利用者が多く、自転車駐車場は JR 駅近くにあるため、シティバイクの拠点としても活用したい。また、利用者の視点からは、閉ざされた空間には入りにくいいため、見通しの良さを担保できる自動ゲートを導入すれば、自転車駐車場の利用が伸びると見込んでいる。
- (構成員) 3 施設の相互利用は考えているか。
- (応募団体) 市との協議が必要となるが、3 施設とも利用が 100%ではないため、相互利用は可能と考えている。
- (構成員) 自転車駐車場の利用実績を見ると定期券、回数券、普通利用とも減少している中で 3%の利用増という高い目標を掲げているが、この実現に向け具体的に何をするのか。
- (応募団体) 西小倉駅前自転車駐車場の潜在需要の呼び起こしである。スライド式のラックを入れるなどしてスペースを活用すれば、今より収容台数増やせると見込んでいる。また、小倉駅北口と南口自転車駐車場は空間的に閉ざされているため、より明るい空間へと改善することと、我々が運営している小倉駅公共連絡通路の自転車駐車場と連携し、同一の運営者となることで料金体系の工夫などにより、市の自転車駐車場の利用を促すといった施策も可能となると考えている。
- (構成員) 西小倉駅前自転車駐車場の夜間帯の利用について、定期券、回数券、普通券の利用内訳等は把握しているか。あるいは、どのような層の利用を想定しているか。
- (応募団体) 西小倉駅前自転車駐車場は日明方面の人たちが利用しやすい。その中にはおそらく夜勤者もあり、小倉駅まで行って自転車駐車場を利用している。こうした人たちが西小倉駅前自転車駐車場を利用できるようになると、全体的な利用の増加につながっていく。
- (構成員) 指定管理料の年間 3%削減の根拠をお聞きしたい。
- (応募団体) 現在の支出状況にはほとんど無駄がないように思えるため、さらにそこから我々が頑張って 3%削減を提案した次第である。
- (構成員) 貴団体の事業目的や理念には自転車利用促進による中心市街地の活性化等も含まれていると思うが、そうした目的や理念と今回の事業計画をうまくマッチングさせることができれば、さらに良い提案になったのではないか。
- (構成員) 福岡市の天神で自転車駐車場の管理運営をされているが、北九州市の自転車駐車場で生かせることはないか。
- (応募団体) 最近の子育て世代の 3 人乗り自転車は子どもを乗せるスペースが大きく 2 段ラックの下に入らないため、天神では 2 段ラックをすべて撤去した。また、高齢の方は電動アシスト自転車を使うことが多く、オープンスペースのほうが駐輪しやすい。逆にスポーツタイプの自転車利用者は干渉されにくい 2 段ラックの上段を好む傾向がある。このような特性にあった駐輪場所や駐輪スタイルを利用者に提案していければと考えている。
- (構成員) 西小倉駅前自転車駐車場の自動ゲートシステムは多様な利用者や多様な形式の自転車にも十分対応可能なものであるか。

(応募団体) その通りである。また、今までの機械は通過後に必ず一度閉まることで混雑状況が懸念されていたが、最近人は通っていれば閉じずにオープンになることで渋滞しない性能になっている。

○ 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○ 応募団体（公益社団法人 北九州市シルバー人材センター）より提案内容に関してヒアリング

(構成員) 平成 26 年度以降、利用が減少傾向だが、その中身は高齢化が進んで利用者が少なくなったとか、そういった部分があるのか。そうした分析を行った上で今回の提案にどうつなげていくのか。具体的にお聞きしたい。

(応募団体) 必ずしも減少傾向ではなく、伸び幅が 4%程度から 2%程度へと若干鈍化している。今回は 2%の伸び幅を維持する提案となっている。

(構成員) 3 施設相互利用を提案しているが、利用が 1 箇所集中して場所が足りなくなる心配はないか。

(応募団体) 現在、小倉駅北口と南口自転車駐車場は同一の放置自転車禁止区域にあるため、既に定期券と回数券の相互利用を問題なく行っている。これに西小倉駅前自転車駐車場と当日券も加え、ショッピングなどの際に小倉都心部を自転車で回遊していただきたい。また、小倉都心部を車で移動している営業職の方に自転車に乗り換えていただき、環境負荷の低減や健康増進を促すなど、市の自転車利用環境計画に沿った提案を行った。

(構成員) 人口減少等もある中で台数を 2%増やしていくとの提案だが、この実現に向けた最も効果的な取り組みをお聞きしたい。

(応募団体) 抜本的な何かというよりも、雨の日にはサドルを拭く、簡単な修理を行う、我々に対応できない場合は修理店に取り次ぐなど、地道な取り組みを積み重ね、PR も行っていきたい。

(構成員) 利用者の満足度における「施設の清潔さ」の目標値で、平成 31 年度だけが 97%で以降は 97.5%となっている。他にも目標値が上昇するものやしないものがあるが、どう解釈したら良いか。

(応募団体) 「施設の清潔さ」については、整った施設もあれば、屋根があるだけの施設もある。管理員が清潔を保っていても雨等の状況により利用者の心理に影響を及ぼし、97%台を維持することが難しいことも考えられる。しかし、「管理員の対応」に係る研修には力を入れており、また、「管理員の身だしなみ」も我々の努力で対応できるものであるため、満足度を上げていきたい。話は戻るが、西小倉駅前自転車駐車場は大手町の住宅地や高層マンション街を控えており利用が非常に多い。それに比べ、小倉駅北口と南口自転車駐車場は利用が多いものの西小倉駅前自転車駐車場の水準までには至っていない。こうした 3 施設の状況を踏まえ、西小倉駅前自転車駐車場は少し離れた位置にあるが、3 施設の相互利用が可能となれば利用の増加につながると考え、3 施設共通利用券を提案した。

(構成員) 雨合羽などの実費販売は今回から始めるのか。

- (応募団体) 今までは傘の貸出し等を行っていたが、雨合羽を実費販売した方が利用者にとっても便利が良いのではないかと考え、従来のサービスの延長として提案した。
- (構成員) ニーズはありそうか。
- (応募団体) 福岡市でも好評だと聞いており、傘よりは使いやすいつと考えている。
- (構成員) 収入も増えていきそうか。
- (応募団体) あくまで実費販売であり、利用者の満足度向上につなげていきたい。また、ワイヤー錠などは貸出し可能であるため、状況を見ながら新しい試みとして実現したいと考え、「実費販売や貸与」として提案した。
- (構成員) 管理員が傘を貸し出す際に危険なので自転車を押して返るように言っても、少し離れると傘をさしたまま自転車に乗ってしまうことがあるようなので、それなら雨合羽のほうが安全だという発想か。
- (応募団体) その通りである。
- (構成員) 次期に向けて現状の課題等を踏まえ、ここをこう変えたい、ここは変えずに続けたいといった、一番の PR ポイントを端的にお聞きしたい。
- (応募団体) さらに効率的に運営費用を低減してくことである。電力や電話の契約においても競争性を高め、照明の LED 化も行っていきたい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○ 構成員は、両団体の提案内容について意見交換。

- (構成員) 各項目ともレベル 1 や 2 はなく、両団体とも適確性等について一定の基準を満たしている。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案内容は実現可能性には疑問が残るが、積極的な面を評価したい。また、そもそもの法人目的が自転車の普及や放置自転車の防止であり自転車駐車場の運営と合致しているため、今後の事業展開に期待したい。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案内容はシェアサイクル等も含め都心部の自転車駐車場として有効なアプローチができています。ただ、公益社団法人シルバー人材センターの提案内容は 3 施設の連携に向けたものとなっており、この点は特定非営利活動法人 I-DO の提案には見られなかった。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案内容では指定管理料を 3%削減するとなっているがその根拠が乏しく、有効性に係る提案内容も具体性が乏しかった。また、シェアサイクル等は自転車駐車場の利用自体が減少する危険性があり、その対応をどうするのかという提案もなかった。
- (構成員) 両団体とも提案内容は物足りない。その中でも特定非営利活動法人 I-DO の提案内容は新たな試みという部分で、小倉都心部の自転車利用の促進や賑わいの促進などを図っており評価できる。

○ 構成員は、特定非営利活動法人 I-DO の各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が4、「人的・財政基盤」が3、「実績・経験」が4
 - 「有効性」について、「設置目的の達成」が3、「自転車利用促進」が3、「利用者満足向上」が3
 - 「効率性」について、「指定管理料」が4、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が3
 - 「適正性」について、「管理運営体制」が3、「平等利用・安全対策・危機管理体制」が3
- が妥当であると考える。

- 構成員は、公益社団法人 北九州市シルバー人材センターの各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が3、「人的・財政基盤」が4、「実績・経験」が4
 - 「有効性」について、「設置目的の達成」が4、「自転車利用促進」が3、「利用者満足向上」が4
 - 「効率性」について、「指定管理料」が3、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が3
 - 「適正性」について、「管理運営体制」が3、「平等利用・安全対策・危機管理体制」が4
- が妥当であると考える。

- 事務局が合計得点を発表

- 特定非営利活動法人 I-DO 67点

- 公益社団法人 北九州市シルバー人材センター 69点

- 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

特定非営利活動法人 I-DO は、西小倉駅前自転車駐車場への自動ゲートや3施設へのシェアサイクル等の導入など、積極的な提案内容は評価できる。ただし、実現可能性、根拠、具体性等の点で評価が分かれた。

公益社団法人 北九州市シルバー人材センターは、提案内容から堅実な管理運営が期待できる。また、3施設共通利用券の導入など、自転車利用促進について具体的な提案がなされていることは評価できる。ただし、利用者満足度の高いサービスの提供について、現状からのさらなる飛躍が望まれる。

審査の結果、検討会としては公益社団法人 北九州市シルバー人材センターが指定管理者の候補として最も相応しいと判断した。

- とりまとめを行って、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名称：北九州市立河内自転車貸出し施設

所在地：北九州市八幡東区大字大蔵 2500 番地の 34

開設年月日：平成元年4月1日

敷地面積：1,351.23㎡

延床面積：199.49㎡

保有自転車台数：100台

施設内容：①施設概要

貸出し施設（軽量鉄骨平屋）、駐車場（普通車9台、二輪車10台）

②事業内容

自転車貸出し施設の管理運営、使用料の徴収・収納業務、集客にかかる業務

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日（5年間）

(3) 指定管理者候補の概要

名称：公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

所在地：北九州市小倉北区片野新町一丁目1番6号

主な業務内容：自動車駐車場管理、自転車駐車場管理、除草・清掃、
福祉・家事支援 ほか

2 指定の経緯

平成30年 9月 4日 募集要項配布

平成30年10月 5日 募集締め切り

平成30年10月25日 指定管理者検討会の開催

平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ・法人、その他の団体であること。（個人による応募は不可。）
- ・本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ・募集説明会に参加していること。（共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に

参加していること。)

(2) 応募状況

説明会参加：2団体

応募件数：2団体

- ・特定非営利活動法人 I-D0
- ・公益社団法人 北九州市シルバー人材センター

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・[学識経験者] 南 博 (北九州市立大学地域戦略研究所教授)
- ・[学識経験者] 寺町 賢一 (九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学研究系准教授)
- ・[公認会計士] 梅田 久和 (梅田公認会計士事務所)
- ・[市民代表] 植田 詩生 (株式会社西日本リビング新聞社リビング北九州編集長)

5 選定基準等

選定基準 (=審査項目) 及びポイント	
1	指定管理者としての適性
	(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) に対する理念、基本方針
	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営 (指定管理業務) に対する理念や基本方針を持っているか。
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
	① 長期間安定的な管理運営 (指定管理業務) を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
	(3) 実績や経験など
	① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
	② 応募団体が施設の管理運営 (指定管理業務) に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
	③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2	管理運営計画の適確性
	【有効性】
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
	① 施設の管理運営 (指定管理業務) に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
	② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
	③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。
	④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。

(2) 利用者の満足度	
①	利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
②	利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
③	利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
④	利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
⑤	その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 指定管理料	
①	指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
②	経費を低減するための実施可能な提案があるか（市の仕様書の変更による効率化、自主事業収益からの充当も含む）。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	
①	収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
②	経費の配分は適切であるか。
③	積算根拠は明確であるか。
④	再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制など	
①	施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④	職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤	地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	
①	施設の利用者の個人情報保護するための対策が十分に考えられているか。
②	利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④	防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル				検討会 審査結果	得点
			構成員					
			A	B	C	D		
NPO法人 I・D・O (アイデオ)	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	3	3	5	3	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	3	3	3
	(3) 実績や経験など	5	3	4	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	15	3	4	3	3	3	9
	(2) 利用者の満足度	10	3	3	3	3	3	6
	【効率性】							
	(3) 指定管理料	30	3	4	3	3	3	18
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	6
	【適正性】							
	(5) 管理運営体制など	10	3	4	3	3	3	6
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	3	3	6
	合計	100	60	72	63	61	—	62
地元団体に対する優遇措置（5点）							67	
公益社団法人 北九州市シルバー人材センター	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	3	3	3	4	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	3	4	3	4	4
	(3) 実績や経験など	5	4	4	3	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	15	4	4	3	4	4	12
	(2) 利用者の満足度	10	3	3	3	3	3	6
	【効率性】							
	(3) 指定管理料	30	3	3	3	3	3	18
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	4	3	3	3	6
	【適正性】							
	(5) 管理運営体制など	10	3	3	3	3	3	6
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	4	3	3	6
	合計	100	65	66	63	65	—	65
地元団体に対する優遇措置（5点）							70	

(2) 検討会における主な意見

②特定非営利活動法人 I-D0

- ・新たな利用者を増やすという点では優れていると思うが、実現性が低いように感じた。
- ・大学生と協力するなど、いろんな仕組みを取り入れている点は評価できる。
- ・安全面などで提案の実現性に疑問がある。
- ・広報という点では物足りない。

①公益社団法人北九州市シルバー人材センター

- ・現在の延長といった提案ではあったが、数字を基に具体的な提案を行っている点で妥当性がある。
- ・利用者の年齢層を広げるという提案は妥当性がある。
- ・広報という点では物足りない。

(3) 検討会における検討結果

特定非営利活動法人 I-D0 は法人の事業目的や、新たな利用者を増やすという提案は優れていたが、実現性に欠けていると考えられる。

公益社団法人北九州市シルバー人材センターの提案は、目新しさは感じられなかったが、過去の実績から具体的な提案がなされており、実現性は高いと考えられる。

審査の結果、検討会としては公益社団法人北九州市シルバー人材センターが指定管理者の候補として最も相応しいと判断した。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、公益社団法人北九州市シルバー人材センターを指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・施設の設置目的をよく理解し、過去の実績を基に実現性の高い提案がなされている。
- ・当該施設での指定管理業務の実績、経験があり、安定した管理運営が期待できる。

8 提案額

平成31年度	2,695千円
平成32年度	2,695千円
平成33年度	2,695千円
平成34年度	2,695千円
平成35年度	2,695千円

北九州市立河内自転車貸出し施設指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	公益社団法人北九州市シルバー人材センター	特定非営利活動法人 I-D0																																																						
1 指定管理者としての適性について	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針</p> <p>・「お客様第一主義」の理念のもと、「市民の健康づくり」の増進に寄与し、施設の設置目的であるスポーツ・レクリエーション活動の振興を図り、利用者の満足度の高い「自転車貸出し施設」の実現を目指します。</p> <p>基本方針は、「施設の有効性の担保」「施設の効率性の追求」「施設の適正管理の確立」とします。</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>・豊富な経験と能力を持つ3,000人の会員と統括業務を担う実務経験を重ねた事務局体制により、良好かつ安定的な施設運営を行います。</p> <p>・当センターは「高齢者の雇用の安定等に関する法律」に基づき設立された公益社団法人であり、公共、民間からの事業収入、市などからの補助金及び会員の会費収入で健全な財政運営を行うとともにその運営状況はオープンにされています。</p> <p>(3) 実績や経験など</p> <p>・自転車貸出し施設については、設置以来29年余りの運営経験があり、平成29年度利用者アンケートでは97.2%の利用者が係員の対応に満足されているとの回答を得ています。</p> <p>・自転車貸出し施設の他、駐輪場22箇所、自転車保管所8箇所、駐車場2箇所の管理運営に携わっています。</p>	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針</p> <p>北九州市立自転車駐車場の管理運営方針は、北九州自転車利用環境計画及び自転車活用推進法等々関係法令を遵守し、民間非営利セクターの立場から多様化する市民ニーズに効果的・効率的に対応し公共性・公平性に優れた「安全で快適な自転車の利用環境」を整えることで、経費の節減と市民サービス向上を同時に実現することが可能だと考えています。具体的には、次の3項目を重点的に実施して行きます。</p> <p>① 安全・安心で快適な自転車の利用環境を整えた貸出し施設の管理運営 ② 子どもから障がい者まで楽しめる新たな魅力づくり ③ 官民連携した「自転車活用推進計画」への取組みの強化</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>当法人は、自転車駐車場及びシェアバイク事業に精通した職員(社員9名・パート職員54名)が従事し、各事業所間のジョブシェア制を導入しています。一方、財産基盤については「営業収入と営業支出」は毎年ほぼバランスしており当法人の累計損益も68,292千円を計上しており安定しています。</p> <p>(3) 実績や経験など</p> <p>当法人は、公の施設の指定管理業務が「北九州交通公園、福岡市天神地区自転車駐車場」など7ヶ所、類似の駐輪場を7ヶ所経営しています。また、地域の方や、企業、行政、大学等と連携した協働のまちづくりにも積極的に取り組んでいます。</p>																																																						
2 管理運営計画の適確性	<p>【有効性】に関する取組み</p> <p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み</p> <p>○ファミリー向けにオリエンテーリングを活用した事業の実施 ○健康マイレージ事業参加等による利用者層の拡大 ○「わらべの日」事業参加によるリピーターの増加 ○「皿倉山健康ウォーク」等イベント開催時に施設PR強化 ○自転車貸出し施設周辺に目立つのぼりを設置して施設PR など</p> <p>【数値目標】</p> <table border="1" data-bbox="293 1082 871 1134"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>35年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用台数</td> <td>3,800台</td> <td>3,900台</td> <td>4,000台</td> <td>4,100台</td> <td>4,200台</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 利用者の満足度</p> <p>お客様第一主義をモットーに利用者の満足度向上のため、「感謝の心が伝わる対応」「良好な環境づくりへの対応」に努めるとともに、「ご意見箱」の設置により、お客様の声をお聞きし、その声に真摯に対応することで利用者に満足していただける施設を目指します。</p> <p>【数値目標】利用者アンケート満足度</p> <table border="1" data-bbox="293 1315 880 1393"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>35年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設の満足度</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>係員の対応</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	利用台数	3,800台	3,900台	4,000台	4,100台	4,200台	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	施設の満足度	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	係員の対応	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み</p> <p>本提案では、サイクリングで河内貯水池周辺の魅力を楽しむことができるよう「フォトスポットやサイクリストの休憩スポット設置」、家族やグループで楽しめるイベント(スタンプラリーやバーベキュー)などを行い、サイクルツーリズムの促進などに資する施設の管理運営が実現できると考えています。</p> <p>【数値目標】</p> <table border="1" data-bbox="1234 1043 1812 1096"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>35年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用台数</td> <td>3,470台</td> <td>3,570台</td> <td>3,670台</td> <td>3,780台</td> <td>3,890台</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 利用者の満足度</p> <p>本提案では、サイクリングで河内貯水池周辺の魅力を楽しむことができるよう「フォトスポットやサイクリストの休憩スポット設置」、家族やグループで楽しめるイベント(スタンプラリーやバーベキュー)などを行い、サイクルツーリズムの促進などに資する施設の管理運営が実現できると考えています。</p> <p>【数値目標】利用者アンケート満足度</p> <table border="1" data-bbox="1234 1315 1800 1367"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>35年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>係員の対応</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> <td>95.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	利用台数	3,470台	3,570台	3,670台	3,780台	3,890台	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	係員の対応	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%
年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																																																			
利用台数	3,800台	3,900台	4,000台	4,100台	4,200台																																																			
年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																																																			
施設の満足度	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%																																																			
係員の対応	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%																																																			
年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																																																			
利用台数	3,470台	3,570台	3,670台	3,780台	3,890台																																																			
年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																																																			
係員の対応	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%																																																			

2 管理運営計画の適確性	【効率性】に関する取組み	<p>(3) 指定管理料</p> <p>人件費の抑制、競争入札の徹底、当センター所属会員の活用で経費の削減の徹底を追求した指定管理料を積算しています。また、利用者の増加や利便性を高める取組により収入増加に繋がっていきます。</p> <p>【数値目標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>35年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理運営費(千円)</td> <td>2,695</td> <td>2,695</td> <td>2,695</td> <td>2,695</td> <td>2,695</td> </tr> </tbody> </table>	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	管理運営費(千円)	2,695	2,695	2,695	2,695	2,695	<p>(3) 指定管理料及び収入</p> <p>昨年度までの指定管理業務による実績を十分に分析し、比較・検討を重ねた結果、単年度上限額の年間2%程度の削減が可能と考え、次に示す数値目標額を定めることと致します。一方収入では、新たなサービスを提供することで、最低でも毎年3%程度の利用増進を実現することが可能と考えています。</p> <p>【数値目標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>35年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理運営費(千円)</td> <td>2,650</td> <td>2,650</td> <td>2,650</td> <td>2,650</td> <td>2,650</td> </tr> </tbody> </table>	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	管理運営費(千円)	2,650	2,650	2,650	2,650	2,650
		年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																				
	管理運営費(千円)	2,695	2,695	2,695	2,695	2,695																					
	年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度																					
管理運営費(千円)	2,650	2,650	2,650	2,650	2,650																						
<p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>当センターの配分金(管理員の対価)は、従来から福岡県下の最低賃金を基準とした算定を行っており、人件費は十分低く設定されています。また、当施設の長い管理運営経験から収支計画は実現可能なものになっていると自負しています。</p>	<p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>当法人は、公の施設「北九州市立交通公園・交通安全センター」の指定管理者業務や同様の施設「門司港レンタサイクル施設」の管理運営を適正に行っており、収支計画の妥当性や遂行能力においても高い評価を得ています。このような経験と実績を活かし、本提案の「北九州市立自転車貸出し施設」においても、過去の実績の分析や見直しを行い、これ迄の経験やノウハウにより確実に実現可能な提案と業務の遂行に努めて行けると確信しています。</p>																										
【適正性】に関する取組み	<p>(5) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管理責任者を業務第二課長とし、兼任職員1名を置き、現場との緊密な連携体制を整えます。 ○現地管理員のうち1名を現場責任者(リーダー)とし、事務局との連携・調整、他の就業会員の研修・指導等の業務管理を行います。 	<p>(5) 管理運営体制など</p> <p>当法人では、利用者に安全・安心な管理運営サービスを提供するため管理体制の強化に重点を置き、施設管理員の上層部に施設管理責任者を配置し、統括責任者の業務をサポートすることで運営業務の円滑な処理と利用者へのサービス向上に努めています。</p>																									
	<p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>管理員に対して、就業前研修において、市立「自転車貸出し施設」であることの趣旨を習得させ、「お客様第一主義」としての接遇と平等的取り扱いとの同時達成を常に意識するよう徹底いたします。</p> <p>施設内やサイクリングロードの見回りを随時行うとともに、消防・警察・市・当センター事務局への通報・連絡系統図を施設内に掲示し、日常の安全対策・危機管理に適切に対応いたします。</p>	<p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>自転車利用者の視点に立った管理運営を行うことで、公共性・公平性に優れた「安全で快適な自転車の利用環境」を整え、利用者へのサービス向上へつなげていきます。</p> <p>また、管理運営を実施するにあたり個人情報の取扱には「北九州市個人情報保護条例」を遵守し、業務における利用者等の個人情報の取扱を詳細にわたり規定し、職員研修などを通して周知致します。</p>																									

北九州市立河内自転車貸出し施設

指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月25日（木） 13:30～15:00
- 2 場 所 北九州市役所（小倉北区城内1番1号）12階 121会議室
- 3 出席者（検討会構成員）南構成員（座長）、寺町構成員、梅田構成員、植田構成員（事務局）建設局道路部道路維持課長、自転車道担当係長、職員
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 応募団体（特定非営利活動法人 I-DO）より提案内容に関してヒアリング

（構成員） サイクリストの休憩ポイントやバーベキュー、カフェなどの提案について、具体的に説明していただきたい。

（応募団体） 現在は親子連れの方だけが利用している状況だが、八幡から合馬に抜けていくサイクリストのために、リペアや洗車、休憩ができるような、スポーツタイプの自転車に乗る方にも対応できる施設にしたい。それに加えて、楽しみを創出するためにバーベキューデリバリーの仲介や、自作フォトスポットの設置を行いたいと考えている。

（構成員） バーベキューなどを行うことで、管理人の業務に支障とならないか。

（応募団体） 多少はあるかもしれないが、他都市の公園で行っている事例もあり、予約数を制限するなどして対応したい。

（構成員） 新たな施設の整備は必要ないのか。

（応募団体） 既に設置されているパーゴラやテーブル、ベンチの活用を考えており、初期投資は必要ない。

（構成員） これらは自主事業となるのか。

（応募団体） 自主事業はタンDEM自転車などの新たな車両の導入を考えている。

（構成員） 自主事業による収入項目の内訳には自動販売機の設置しかないが、これらはどうなるのか。

（応募団体） 自動販売機での収入と合わせて、新たな自転車貸出し料の収入でも補うように考えている。バーベキューについては仲介のみのため、収入は見込んでいない。

（構成員） 地域の住民との連携とあるが、河内地区での実績はないように感じるが。

（応募団体） 日頃の活動で連携している大学生と協力し、地元の方とイベントを開催するなどして地域住民との連携を図っていきたい。

（構成員） 利用台数の目標が高いように感じるが、どのようなことを行くと、この目標が達成できると考えているか。

- (応募団体) 当団体が指定管理を行っている類似施設の交通公園では、イベントを行うことで周知が広がり、過去最高の集客につなげた実績がある。当施設についても同様にイベントを通じた周知活動と合わせて、新たな自転車の導入でリピーターを確保していきたい。
- (構成員) 大学生との協力という話が出た。河内は距離も遠いため学生が参加しづらいと思うが、何かアイデアなどはあるのか。
- (応募団体) 以前、サイクルツアーという自転車で市内を巡るイベントを5年ほど開催し、当施設をエイドステーションとして利用していた。当時もボランティアとして大学生に声をかけたところ、多くの人に来てくれたという実績があるため、そのネットワークを活かしつつ広げていきたいと考えている。
- (構成員) 都市部での実績は多くあるが、今回の施設は山間部であり状況が異なる。こうした場所で事業を展開していくにあたり、懸念事項や工夫したいと考えていることがあれば教えていただきたい。
- (応募団体) 現在市のHPであるスマキタ（スマートサイクルライフ北九州）などでコース紹介をしているが、コースまでは車で行き、そこで自転車に乗るという想定になっている。これらのコースをサイクルツーリズムとして位置付けることで、そこまでも自転車で行くようになり、コースの認知とともに施設も知られていくと考えている。
- (構成員) そうした考えと今回の自主事業で提案しているチャイルドシート付き自転車やタンデム自転車は矛盾しているように感じるが、なぜ初期投資をしてまで投入するのか。また、コース内には狭く見通しの悪い場所もあるが、安全性をどう考えているのか。
- (応募団体) チャイルドシート付き自転車やタンデム自転車は、最近の法改正により公道を走ることができるようになったことから、一般道での走行を想定している。人気のあるタンデム自転車等を導入することで施設の人気が出て、一般の施設利用者が増加すると考えている。
- (構成員) 収支計画書を見ると、その他経費の割合が高いように感じるがこの内訳を教えていただきたい。
- (応募団体) これは実績から算出したもので、項目を積上げたものではない。
- (構成員) 対応マニュアルはこれから作成するのか。
- (応募団体) 既存のマニュアルをこの施設にあわせて改訂する。
- (構成員) 人員の確保については、新たに採用する予定なのか。
- (応募団体) 今現在勤めている方が希望すれば、スキルを持っていることから、最優先に雇用したい。あとは当団体の職員の配置転換や新規の採用も考えている。
- (構成員) 新規利用者を獲得するための広報活動などは考えているか。
- (応募団体) まずはスマキタなど市と協力して取り組んでいけるところで行い、合わせてサイクリングマップの作成、市政だよりへの掲載などを行いたい。
- (構成員) そうした印刷物等の費用は特に内訳で計上されていないが。
- (応募団体) 経費の中でできると考えている。

- 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。
- 応募団体（公益社団法人 北九州市シルバー人材センター）より提案概要に関してヒアリング

（構成員） 平成26年度以降、利用者は減少傾向だが、これをどう分析し、今後どのように活かそうと考えているか。

（応募団体） 平成28年度は6月と9月の18営業日の内、10日が雨であり、さらにその内1日は台風により休業とした。土日いずれかに台風がくると、そのもう一方も利用者が少ないという状況がある。平成29年度についても同様で、7月から9月で雨の日が15日、台風による休業が5日あった。このように天候の影響を受けやすい施設のため、利用者が減少したと考えられる。

平成31年度以降も自然状況については予測不可能ではあるが、台風通過後のサイクリングロードの早期復旧や、利用者への丁寧な対応を心がけ、利用者増加に向けて取組んでいきたい。

（構成員） 利用者の満足度が90%を越え、非常に高いとは思いますが、残りの10%の方はどのような点を不満に思っていると考えているか。

（応募団体） 管理人は丁寧な対応を心がけており、自転車についても入念に点検を行っている。しかし、サイクリングのみの施設であるため、ファミリー向けにはどうしても物足りないところがあることと、清掃は行っているが、施設の老朽化などが原因となっているのではないかと考えている。

（構成員） それらを受けて、どのような工夫を考えているか。

（応募団体） 施設の老朽化は進んでいるが、黄色いのぼりを設置し、明るいイメージを持ってもらえるようにしたい。

（構成員） のぼりは現地まで来た人に向けたPRだと思うが、それ以外の人へのPRは新たにどのようなものと考えているか。

（応募団体） 今まではファミリー向けの事業が多かったが、これからは健康マイレージ事業などの高齢者向けの健康づくりに関するものも取り入れていきたい。

（構成員） 利用台数の数値目標を達成するために、どのような点を重視しているか。

（応募団体） ファミリー向けだけでなく、高齢者に向けた取り組みも行っていきたい。

（構成員） 経費削減のため、管理人の従事時間を1日30分削減するとあるが、サービスの低下にはつながらないか。

（応募団体） 営業時間前後の準備時間を効率化して削減するため、サービス低下にはつながらないと考えている。

- 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

- 構成員は、両団体の提案内容について意見交換。

（構成員） 各項目とも評価レベルで1や2がないため、どちらの応募団体も著しく適格性を欠くことはないと考えられる。

- (構成員) 施設目的や法人の事業目的の面では特定非営利活動法人 I-DO に、運営面では公益社団法人北九州市シルバー人材センターに適性があると思った。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案の方が新たな利用者を増やすという点では優れていると思うが、実現性が低いように感じた。そのため、管理という面では実績も含め公益社団法人北九州市シルバー人材センターの方が優れているように感じた。ただ、両団体とも広報という点では物足りない。
- (構成員) 公益社団法人北九州市シルバー人材センターの利用者の年齢層を広げるという提案は妥当性がある。特定非営利活動法人 I-DO の大学生と協力するなど、いろいろな仕組みを取り入れている点は評価できる。
- (構成員) 特定非営利活動法人 I-DO の提案内容については、安全面などで実現性に疑問がある。公益社団法人北九州市シルバー人材センターは現在の延長といった提案ではあったが、数字を基に具体的な提案を行っている点で妥当性があると思う。

○ 構成員は、特定非営利活動法人 I-DO の各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が 4、「人的・財政基盤」が 3、「実績・経験」が 4
- 「有効性」について、「設置目的の達成」が 3、「利用者満足向上」が 3
- 「効率性」について、「指定管理料」が 3、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が 3
- 「適正性」について、「管理運営体制」が 3、「平等利用等」が 3
が妥当であると決定した。

○ 構成員は、公益社団法人北九州市シルバー人材センターの各審査項目について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理者としての適性」について、「管理運営の理念」が 3、「人的・財政基盤」が 4、「実績・経験」が 4
- 「有効性」について、「設置目的の達成」が 4、「利用者満足向上」が 3
- 「効率性」について、「指定管理料」が 3、「収支計画の妥当性及び実現可能性」が 3
- 「適正性」について、「管理運営体制」が 3、「平等利用・安全対策・危機管理体制」が 3
が妥当であると考えた。

- 事務局が合計得点を発表
 - 特定非営利活動法人 I-DO 62点
 - 公益社団法人 北九州市シルバー人材センター 65点

- 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。
 - 特定非営利活動法人 I-DO は法人の事業目的や、新たな利用者を増やすという提案は優れていたが、実現性に欠けていると考えられる。
 - 公益社団法人北九州市シルバー人材センターの提案は、目新しさは感じられなかったが、過去の実績から具体的な提案がなされており、実現性は高いと考えられる。
 - 審査の結果、検討会としては公益社団法人北九州市シルバー人材センターが指定管理者の候補として最も相応しいと判断した。
 - 公益社団法人北九州市シルバー人材センターには、利用促進を図るための提案を確実に実行していただきたい。

- とりまとめを行って、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州市立響灘緑地

事業内容：施設の維持管理に関する業務、施設の植栽管理・動物管理に関する業務

所在地：若松区大字竹並1006番地

開設年月日：平成4年4月1日

敷地面積：28.3ha（有料区域）全体は、196ha

主な施設：芝生広場、都市緑化センター、熱帯生態園、じゃぶじゃぶ池など

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：グリーンパーク活性化共同事業体

所在地：小倉北区砂津二丁目11番23号

主な業務内容：

株式会社オリエンタルコンサルタンツ北九州事務所：都市計画、道路計画の策定

株式会社ファーム：公園事業の運営、指定管理業務

株式会社オーエヌグループ：公園、街路樹等の維持管理、住宅の庭園・設計・施行

第一警備保障株式会社：警備業務、ビル総合維持管理業務、防犯器具に係る業務

株式会社フーディア：飲食店及び移動販売店の企画及び経営、加工食品商品開発

2 指定の経緯

平成30年 9月 5日 募集要項配布

平成30年 9月28日 募集締切

平成30年10月16日 指定管理者検討会の開催

平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ・法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ・本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ・募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)
- ・共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加：4団体

応募件数：2共同事業体

- ・響灘緑地パークアップ共同事業体
(一般財団法人公園財団、一般社団法人北九州緑化協会、株式会社スピナ)
- ・グリーンパーク活性化共同事業体
(株式会社オリエンタルコンサルタンツ北九州事務所、株式会社ファーム、株式会社オーエヌグループ、第一警備保障株式会社、株式会社フーディア)

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会としての検討結果を踏まえ、指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- 【学識経験者（緑地計画・植生管理）】 薛 孝夫（元九州大学大学院農学研究院准教授）
- 【学識経験者（行政評価・地方自治）】 横山 麻季子（公立大学法人北九州市立大学准教授）
- 【公認会計士】 福地 昌能（福地公認会計士事務所代表）
- 【民間】 城水 悦子（株式会社洋建築計画事務所代表取締役）
- 【民間】 横田 きみよ（コンセプトピディア代表）

5 選定基準等

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
(1)	施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
①	市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2)	安定的な人的基盤や財政基盤
①	長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくための人的基盤や財政基盤等を有しており、

又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など
① 同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
② 施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性
【有効性】
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
② 施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
③ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足向上
① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】
(3) 指定管理料及び収入
① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
② 収入が最大限確保される提案であるか。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性
① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
② 経費の配分は適切であるか。
③ 積算根拠は明確であるか。
④ 再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】
(5) 管理運営体制など
① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。

③	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④	防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			構成員						
			A	B	C	D	E		
響灘緑 地パー クアッ プ共同 事業体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	4	4	4	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	3	3	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	4	4	3	3	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	4	4	4	4	4	4	24
	(2) 利用者の満足度	10	4	3	4	4	3	4	8
	【効率性】								
	(3) 指定管理料及び収入	15	3	3	3	3	4	3	9
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	3	6
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	3	3	3	3	3	3	6
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	3	3	3	6	
合計	100	71	69	69	69	72	—	71	

グリーンパーク活性化共同事業体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	3	4	3	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	3	3	3	3
	(3) 実績や経験など	5	4	4	3	3	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	4	4	3	4	3	4	24
	(2) 利用者の満足度	10	4	3	3	3	3	3	6
	【効率性】								
	(3) 指定管理料及び収入	15	3	3	3	3	3	3	9
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	3	6
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	3	3	3	3	3	3	6
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	3	3	3	6
合計	100	70	67	61	66	61	—	67	
地元団体に対する優遇措置（3点）、優秀指定管理者に対する優遇措置（3点）									73

(2) 検討会における主な意見

【響灘緑地パークアップ共同事業体】

- ・植栽についての課題をしっかりと把握できており、あじさいや桜の植樹など、中長期的で具体的な提案がなされており、公園としての価値をより高めようとする姿勢が評価できる。
- ・高齢者や交通弱者の移動への配慮や利便性を高める具体的な提案なされている。
- ・全国規模で公園を管理している、緑化について視野が広い団体が代表として参画しており、国内の他の公園で実現した景色を再現できる期待感がある一方、他都市の模倣ではグリーンパークの良さが出ないのではないかと不安視する意見があった。

【グリーンパーク活性化共同事業体】

- ・北九州市若松区という地域密着型の事業展開をしているのが特徴的である。
- ・レジャー施設としての提案は多彩で、更に高みを目指そうという姿勢が評価できる。
- ・花や緑の個性を活かす取組みについては、構成団体に緑地・公園等を専門分野とする事業者が少なく、グリーンパークの特性が十分に活かされていないのではないかと意見があった。
- ・グリーンパーク開園30周年記念イベントでは、花と音楽をテーマに地元ゆかりのアーティストを招聘する提案が期待できる。

(3) 検討会における検討結果

響灘緑地パークアップ共同事業体は、国営公園等における公園の管理運営の実績を活かした、景観計画に基づく植栽管理による景観の確保や緑や花の更なる魅力向上などによって、公園としての価値をより高めようとする姿勢や中長期的な取り組みが提案されている。また、公園が北九州市という街の印象を変えるパークマネジメントの実施、広域観光拠点としての機能強化など、視野の広い取り組みの提案が評価できる。

グリーンパーク活性化共同事業体は、今までの5年間の課題分析を行い、その解決に向けた、きめ細やかで数多くの具体的な提案がなされている。緑地管理や花壇管理については市の要求水準を超える維持管理を実施しながら、既存イベントに加えて、新しいイベント実施を提案するなど、集客について非常に意欲的である姿勢が評価できる。

協議の結果、響灘緑地の花や緑の魅力向上などにより、公園としての価値をより高めようとする響灘緑地パークアップ共同事業体も、指定管理者として十分相応しいと認められる提案を行っているが、検討会としては提案内容などから総合的に勘案して、現状の課題分析に基づくきめ細やかで数多くの具体的な提案を行い、最終的な合計得点が高くなっているグリーンパーク活性化共同事業体が指定管理者の候補として最も相応しいと判断する。

7 選定結果

市は、検討会としての検討結果を踏まえ、グリーンパーク活性化共同事業体を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり。

(2) 市における主な選定理由

- ・指定管理者としての適性については、地域と連携をした管理運営を提案している。代表団体は市内の他の複数の公共施設の指定管理者として指定されている点と、現指定管理者として、安定的な管理運営を実施している点が評価できる。
- ・管理運営計画の的確性については、施設の設置目的の達成に向けた取り組みにおいて、指定管理制度導入以来の入園者数の達成及び熱帯生態園の入園者増の取り組みや、利用者の満足度においても、更に高みを目指す提案が評価できる。
- ・指定管理料及び収入については、入園者の増加による利用料収入の増加により、より多くの運営費を投下しながら、指定管理料は抑制する提案が評価できる。

8 提案額

平成31年度	319,963千円
平成32年度	315,959千円
平成33年度	313,225千円
平成34年度	312,001千円
平成35年度	303,980千円

北九州市立響灘緑地指定管理者選定に関する提案概要

80

審査項目	響灘緑地パークアップ共同事業体	グリーンパーク活性化共同事業体
1 指定管理者としての適性について	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針</p> <p>○運営理念:グリーンパークを確かなグリーンインフラにする-市民と共に新たな公園の価値を創り、北九州の活力を高める基盤とする-</p> <p>○基本方針:3つの視点(1. 公園資源 2. 北九州 3. 世界)に基づく「基本方針」を掲げて新たな価値創造に取組みます。</p> <p>1. 公園資源を“見つめ直す視点”で、「水・緑・花・動物」の価値を最大化</p> <p>2. 北九州を“見渡す視点”で、「交流人口とにぎわいの拠点」として最大化</p> <p>3. 世界を“見据える視点”で、世界の環境首都として「市民活躍のステージ」を最大化</p> <p>○管理基盤:市内最大の広域公園として、①適切な維持管理、②営業力の発揮・広報 ③おもてなし(接遇) ④安全確保・危機管理を『管理基盤』としてすべてをトップレベルの水準で徹底</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>○人的基盤:公園財団は、全国13の国営公園を中心に公園マネジメントのプロ集団として職員数約700人。北九州市戸畑区に九州事務所を設置/北九州緑化協会は、市内の造園企業62社で構成/㈱スピナは、西日本鉄道のグループ会社として市内に本社を置き、生活産業を中心に事業を展開しており社員数約400人</p> <p>○財政基盤:【公園財団】基本財産23億円・年間売上約84億円・正味財産23億円 / 【北九州緑化協会】基本財産7千万円・正味財産1億7千万円 / 【㈱スピナ】資本金4億8千万円・年間売上約59億円・純資産約49億円</p> <p>(3) 実績や経験など</p> <p>○実績や経験:約40年間の国営公園(海の中道海浜公園・吉野ヶ里歴史公園等)等の管理運営と調査研究実績、本公園20年の植物管理担当実績、本市の他の指定管理等、公園管理運営の豊富な経験と実績・ノウハウを保有</p> <p>○専門的知識や資格:技術士、樹木医、公園管理運営士、造園・土木・建築・電気施工管理技士、獣医師、動物飼育技士、サービス接客検定、普通救命講習など公園の管理運営に必要な資格・専門知識を豊富に保持</p>	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針</p> <p>理念:北部九州の緑のレクリエーション拠点</p> <p>基本方針:</p> <p>①花緑の維持管理水準を高め、自然資源の安らぎ・癒し効果や響灘の空・緑・大地の恩恵を実感できる緑地づくり、②子育て世代を含む3世代が遊んで、学べる、様々なレジャー環境を提供します。③福岡・北九州の農畜漁の活用による美や健康に配慮した来園者ニーズの高い「食」を充実します。④来園者の心地良い環境演出や様々なサービス提供により、更に快適で利用しやすいグリーンパークにします。⑤地域で頑張る人や企業とのコラボにより「チーム北九州+」としてグリーンパーク・北九州を盛り上げます!</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>(株)オリエンタルコンサルタンツの人的基盤は、北九州市内の公共施設の管理運営に従事するスタッフは150名以上、福岡県内では250名が在籍。財政基盤は、売上高約200億円、営業利益約8億円であり、3年連続増加。</p> <p>(株)ファームの実績の人的基盤は、全国に9つの類似施設の運営をしており、700名のスタッフが在籍。市内に本社を置く㈱ミダニは197名、㈱ワールドインテックは14,381名のスタッフが在籍。財政基盤は、売上高1,200億円、営業利益70億円の㈱ワールドホールディングスの子会社となり、財政状況は年々解消し、来期に黒字化を予定。</p> <p>(株)オーエヌグループの実績の人的基盤は、22名のスタッフが在籍。財政基盤は、売上高約3億円前後、営業利益は約2千万円程度で推移。</p> <p>第一警備保障(株)の実績の人的基盤は、市内に170名のスタッフを有しています。財政基盤は、売上高約20億円、営業利益約1千万円で推移。</p> <p>(株)フーディアの実績の人的基盤は、26名のスタッフが在籍。財政基盤は、売上高約5千万円、営業利益約5百万円で、設立2年で累積黒字を達成。</p> <p>(3) 実績や経験など</p> <p>(株)オリエンタルコンサルタンツの実績:北九州市内(響灘緑地指定管理(平成26年度～同30年度)の代表企業、浅生スポーツセンター指定管理の代表企業)、国営公園や大規模運動公園や古民家の指定管理。</p> <p>(株)ファームの実績:北九州市内(響灘緑地指定管理(平成26年度～同30年度)の動物管理、総合農事センター指定管理)、自社所有の大規模公園の運営管理。</p> <p>(株)オーエヌグループの実績:平成11年から響灘緑地の植物管理。その他市内外で多数の緑の維持管理。</p> <p>第一警備保障(株)の実績:浅生スポーツセンター指定管理、市内外で多数の警備業務。</p> <p>(株)フーディアの実績:響灘緑地内の飲食店(3店舗)の運営。TGC北九州やヤフオク!ドームの食の全体プロデュース。</p>
2 管理運営計画の適確性	<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み</p> <p>○目標入園数:H31・44万人/H32・50万人/H33・50.5万人/H34・51.0万人/H35・53万人</p> <p>○定量的な成果目標:「基本方針や運営基盤の達成状況を客観的に確認できる数値目標による管理を実施</p> <p>○確かなグリーンインフラを実現する適切な維持管理</p> <p>■植物管理:[景観]景観計画に基づく植栽管理で「水辺の景」「眺望景観」の確保/[芝生]公園管理の質を印象づける場として高品質管理/[バラ園]大規模バラ園の計画更新/[熱帯生態園等]/「熱帯ジャングルの再現と企画展示」で熱帯生態園の魅力アップ/[ハーブ園]新たな花園による「蝶の楽園」を創出/[花木]市民協働で創る北九州の新たな名所「サクラの園・アジサイの滝」づくり/[樹林地]生態系と安全に配慮した樹林管理で高める「緑の質」の向上</p> <p>■動物管理:[ポニー]暮らしやすい環境と「新たなふれあい」/[熱帯生態園]熱帯地域の生物多様性を実感する生態展示</p> <p>■施設管理:「北九州市公園施設長寿命化計画」に基づき、「予防保全」「事後保全」を組み合わせた対応</p> <p>○施設の利用者増加や利便性を高める取組み:</p>	<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み</p> <p>全業務に対して北九州市の要求水準を超える30の取り組みを実施。条例で定められた開園日数より多く開園。植物管理は響灘の大地の恵みを感じる水・緑・生き物と人が共生するグリーンインフラを推進します。花壇管理は年間50種類・30万株を超える花々を育て展示し、良質な土壌づくりにより、開花を長く美しく見せます。バラ園管理は日本一美しいバラ園を目指した維持管理を推進します。熱帯生態園管理は、植物と昆虫等との共存に配慮した熱帯雨林地の環境を維持し、定期的に展示を変化させていきます。警備は、生き物がいる施設であり有事の迅速対応のため、24時間2名以上の常駐警備とし、新たに「警備犬」も導入します。施設設備管理は、老朽化が進む各種の施設設備の管理は日常的に予防保全の取組みを図り、大切に施設を使います。清掃は、インスペクション評価により利用者が快適で清潔な印象をもつ美観度の向上を図ります。動物管理は、響灘の環境に応じた適切かつ健康な飼育・管理し、「展示」だけでなく「ふれあい」できる動物管理を行います。</p>

	【有効性】に関する取組み	<p>■本公園の利用特性と課題を踏まえた利用者増加</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 秋季が春季に比べ少ない</td> <td>新たな花の景魅力(芝生広場のお花畑、バラ園計画更新と童話の森ガーデン見本園)</td> </tr> <tr> <td>2. 休日利用に偏重</td> <td>平日の利用プログラム充実(体験学習プログラム、パークフィットネスプログラムの充実)</td> </tr> <tr> <td>3. 冬季利用が少ない</td> <td>冬季ならではのサービス展開(閑散期の無料入園化と東京おもちゃ美術館等の展開)</td> </tr> <tr> <td>4. 夏季の親子利用が増加</td> <td>既存ストックを活用したこどもの遊び場充実(公園資源をフル活用した遊び場づくり)</td> </tr> <tr> <td>5. 通年イベントによる利用増</td> <td>「花・緑・動物」テーマに通年イベント(公園の存在価値・利用価値を重視して充実化)</td> </tr> </table> <p>■利便性を高める有料施設等の取組み</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 新たな園内移動手段導入</td> <td>高齢者・移動に負担のある方の移動をサポートする「未来型モビリティ」の導入／新しい園内移動バス「パークガイドビークル」の導入／セグウェイガイドツアーの実施</td> </tr> <tr> <td>2. 遊戯施設の利用</td> <td>冬季のおもしろ自転車周回コースを拡大／水に親しむアウトドアアクティビティの導入</td> </tr> <tr> <td>3. 飲食サービスの充実</td> <td>食を通じた健康づくりと地域をつなぐ「ヘルシーフード」の開発・提供／地産地消に配慮したバーベキューサービスの充実／団体ニーズに応える「弁当デリバリーサービス」</td> </tr> <tr> <td>4. 臨時駐車場の活用</td> <td>地域コミュニティ強化「ファーマーズマーケット」／多客時に配慮した柔軟な駐車場管理</td> </tr> </table> <p>○広報・営業活動:年間マスコミ報道件数 150 件以上、SNS の情報発信件数 300 件以上 ○お客様の「知りたい」に応える「ホームページ/SNS とヒューマンネットワークを活かした口コミ重視の情報発信/メディア関係者のニーズを捉えた情報発信/訴求力のあるチラシやリーフレットの効果的な配布/観光旅行・学習旅行をターゲットに地域一体となった広域営業(インバウンド・商談会)</p> <p>(2) 利用者の満足度</p> <p>○高い満足度の維持向上:目標98% 現状の高い評価を維持向上し、ニーズの把握とサービスの向上を図る。 ○お客様の満足度向上に向けた取組み: ①コミュニケーション型接遇/②不満要因の徹底解消/③子ども&福祉利用の快適性・利便性の向上で満足度UP ○お客様の意見把握と反映の仕組み: 公園を訪れているお客様のニーズ把握(対話ヒアリング・ご意見箱リニューアル・ITを活用したご意見箱・アンケート) 公園を利用していない方のニーズ把握(非来園者対象のネットリサーチ・近くまで来ている方へのグループインタビュー) 収集データの活用とサービスの改善(お客様ご意見の迅速な情報共有・PDCAサイクルに基づくサービス改善) ○苦情対策:・クレームポイント共有で苦情の未然防止/マニュアル更新とスタッフ教育/苦情対応体制/フィードバック ○情報提供の取組み:全スタッフによる情報共有と的確な情報提供/花ある公園として情報発信の強化: ○その他のサービス向上策:都市公園連絡会「Kitakyu Park Network」/サービスセンターの設置/開園サービスの充実</p>	1. 秋季が春季に比べ少ない	新たな花の景魅力(芝生広場のお花畑、バラ園計画更新と童話の森ガーデン見本園)	2. 休日利用に偏重	平日の利用プログラム充実(体験学習プログラム、パークフィットネスプログラムの充実)	3. 冬季利用が少ない	冬季ならではのサービス展開(閑散期の無料入園化と東京おもちゃ美術館等の展開)	4. 夏季の親子利用が増加	既存ストックを活用したこどもの遊び場充実(公園資源をフル活用した遊び場づくり)	5. 通年イベントによる利用増	「花・緑・動物」テーマに通年イベント(公園の存在価値・利用価値を重視して充実化)	1. 新たな園内移動手段導入	高齢者・移動に負担のある方の移動をサポートする「未来型モビリティ」の導入／新しい園内移動バス「パークガイドビークル」の導入／セグウェイガイドツアーの実施	2. 遊戯施設の利用	冬季のおもしろ自転車周回コースを拡大／水に親しむアウトドアアクティビティの導入	3. 飲食サービスの充実	食を通じた健康づくりと地域をつなぐ「ヘルシーフード」の開発・提供／地産地消に配慮したバーベキューサービスの充実／団体ニーズに応える「弁当デリバリーサービス」	4. 臨時駐車場の活用	地域コミュニティ強化「ファーマーズマーケット」／多客時に配慮した柔軟な駐車場管理	<p>(2) 利用者の満足度</p> <p>利用者満足の取り組みは、来園者の皆さまが真に満足できる公園を目指して、利用者満足度98%以上を維持し、非常に高い満足度60%を達成します。利用者意見は、多様な利用者の意見(満足、不満・苦情、要望)を対面・紙面・Webにより複数の方法で幅広く計画的・定期的に収集・把握します。苦情対策は、客観的な事実確認に基づきながら、苦情の発生経緯をとりまく利用者感情の理解に努め、公平・公正かつ迅速に誠意をもって対応します。利用者の情報提供は、「情報不整合」「情報不足」をなくし、利用者の混乱や誤解、心配ゼロを目指します。</p>																																
1. 秋季が春季に比べ少ない	新たな花の景魅力(芝生広場のお花畑、バラ園計画更新と童話の森ガーデン見本園)																																																				
2. 休日利用に偏重	平日の利用プログラム充実(体験学習プログラム、パークフィットネスプログラムの充実)																																																				
3. 冬季利用が少ない	冬季ならではのサービス展開(閑散期の無料入園化と東京おもちゃ美術館等の展開)																																																				
4. 夏季の親子利用が増加	既存ストックを活用したこどもの遊び場充実(公園資源をフル活用した遊び場づくり)																																																				
5. 通年イベントによる利用増	「花・緑・動物」テーマに通年イベント(公園の存在価値・利用価値を重視して充実化)																																																				
1. 新たな園内移動手段導入	高齢者・移動に負担のある方の移動をサポートする「未来型モビリティ」の導入／新しい園内移動バス「パークガイドビークル」の導入／セグウェイガイドツアーの実施																																																				
2. 遊戯施設の利用	冬季のおもしろ自転車周回コースを拡大／水に親しむアウトドアアクティビティの導入																																																				
3. 飲食サービスの充実	食を通じた健康づくりと地域をつなぐ「ヘルシーフード」の開発・提供／地産地消に配慮したバーベキューサービスの充実／団体ニーズに応える「弁当デリバリーサービス」																																																				
4. 臨時駐車場の活用	地域コミュニティ強化「ファーマーズマーケット」／多客時に配慮した柔軟な駐車場管理																																																				
	【効率性】に関する取組み	<p>(3) 指定管理料及び収入</p> <p>○共同体のノウハウ、技術、ネットワーク等を活用して費用を削減、利用促進やサービス提供により入園料・自主事業等の収入増加 ○管理運営を通じた効果的な経費の執行 柔軟なシフト勤務/豊富な経験と有資格者による研修の内製化/施設維持費のライフサイクルコストの削減/省エネルギーへの取組み/適正な経理処理</p> <p>【提案額】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 31 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>422,677 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>325,000 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 32 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>426,586 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>315,000 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 33 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>422,744 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>310,000 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 34 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>418,904 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>305,000 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 35 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>418,541 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>300,000 千円</td> </tr> </table>	平成 31 年度	管理運営費	422,677 千円	(うち指定管理料)	325,000 千円	平成 32 年度	管理運営費	426,586 千円	(うち指定管理料)	315,000 千円	平成 33 年度	管理運営費	422,744 千円	(うち指定管理料)	310,000 千円	平成 34 年度	管理運営費	418,904 千円	(うち指定管理料)	305,000 千円	平成 35 年度	管理運営費	418,541 千円	(うち指定管理料)	300,000 千円	<p>(3) 指定管理料及び収入</p> <p>使用料収入を増やし、コスト削減と効率化を進め、指定管理料は最小限に抑えます。収入増加策は、集客の見込める開園日設定、夜間開園、団体ツアー誘致、有料アクティビティの導入、日本初のアドベンチャー導入。利用料金は、受益者負担の見直しに基づき料金を改定。</p> <p>【提案額】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 31 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>454,572 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>319,963 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 32 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>454,171 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>315,959 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 33 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>453,163 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>313,225 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 34 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>458,318 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>312,001 千円</td> </tr> <tr> <td>平成 35 年度</td> <td>管理運営費</td> <td>454,011 千円</td> <td>(うち指定管理料)</td> <td>303,980 千円</td> </tr> </table>	平成 31 年度	管理運営費	454,572 千円	(うち指定管理料)	319,963 千円	平成 32 年度	管理運営費	454,171 千円	(うち指定管理料)	315,959 千円	平成 33 年度	管理運営費	453,163 千円	(うち指定管理料)	313,225 千円	平成 34 年度	管理運営費	458,318 千円	(うち指定管理料)	312,001 千円	平成 35 年度	管理運営費	454,011 千円	(うち指定管理料)	303,980 千円
平成 31 年度	管理運営費	422,677 千円	(うち指定管理料)	325,000 千円																																																	
平成 32 年度	管理運営費	426,586 千円	(うち指定管理料)	315,000 千円																																																	
平成 33 年度	管理運営費	422,744 千円	(うち指定管理料)	310,000 千円																																																	
平成 34 年度	管理運営費	418,904 千円	(うち指定管理料)	305,000 千円																																																	
平成 35 年度	管理運営費	418,541 千円	(うち指定管理料)	300,000 千円																																																	
平成 31 年度	管理運営費	454,572 千円	(うち指定管理料)	319,963 千円																																																	
平成 32 年度	管理運営費	454,171 千円	(うち指定管理料)	315,959 千円																																																	
平成 33 年度	管理運営費	453,163 千円	(うち指定管理料)	313,225 千円																																																	
平成 34 年度	管理運営費	458,318 千円	(うち指定管理料)	312,001 千円																																																	
平成 35 年度	管理運営費	454,011 千円	(うち指定管理料)	303,980 千円																																																	

2 管理運営計画の 適確性	【効率性】 に関する 取組み	<p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収入の最大限の確保 <ul style="list-style-type: none"> ■収入の積算根拠(分析と実績から適正収入を積算、利用料金及び自主事業収入増による指定管理料の抑制) ■支出の積算根拠(事業費・人件費・維持管理費・その他管理運営に関する経費の適正な積算による経費節減) ○適切な再委託 <ul style="list-style-type: none"> ■再委託業務(冷温水発生器保守点検・中央監視盤保守点検・電気保安管理・A重油地下タンク漏洩検査・現金輸送等) 	<p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <p>収支計画は、当JVのグリーンパークにおける過去4年の実績と見積徴収により、想定金額ではなく実績に基づく実現性の高い積算です。サービスの品質向上、安全安心を確保した更なる徹底したコスト縮減、自主事業の積極的な展開による無駄のない効率的な管理運営を行います。</p>
	【適正性】 に関する 取組み	<p>(5) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適正な管理体制等により公園運営 <ul style="list-style-type: none"> ・管理責任者(所長)は国営公園や自治体が設置する大規模都市公園の「総括責任者」の経験を有する者を配置 ・管理責任者のもとに運営責任者(副所長)と管理責任者(副所長)の2名を配置 ・運営責任者のもとに「総務・自主事業・利用サービス」の各リーダーとスタッフ、また、管理責任者のもとに「植物管理・草花管理・企画」の各リーダーとスタッフを配置 ・共同体の本部及び本社は、情報提供や技術的、人的及び資機材、資金面の支援を行う体制を構築 ・また、適切な業務執行に向けて支援するとともに、年1回の巡回点検を実施し、管理運営状況を確認 ○人員配置と資格・経験: 責任者とリーダーは、担当業務を適切かつ効果的に遂行できる経験と資格保有者を配置 ○職員の資質向上の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・業務開始前研修の実施(基本事項・安全衛生・接客・個人情報保護等に重点)／業務開始後は日常業務を通じた指導(OJT)や年間研修計画(フォローアップ・リスクマネジメント・救命救急・接客接客・自然環境等)に基づき実施 ○地域住民や関係団体との連携等 <ul style="list-style-type: none"> ■市民協働: 市民協働専属担当を配置し、響灘緑地研修館を拠点とした「環境エコ村」や「バラ園ボランティア」の活動充実 ■地域連携: 「観光」と「環境」を活かした交流人口の拡大にむけ、35団体60事業のWin-Winとなる連携活動を展開 	<p>(5) 管理運営体制など</p> <p>豊富な実績とノウハウを有する団体による管理。経験者・有資格者を各所に配置し安全安心の安定した体制。スキルアップ支援制度の充実。地元NPOや各種団体、ボランティアと協働した管理体制の構築。</p>
		<p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の利用者の個人情報保護(「個人情報保護マニュアル」に則った管理体制構築と管理方法の徹底) ○利用者の平等利用への配慮(「地方自治法 244 条」に則った平等利用の対応とユニバーサルデザインの積極的な推進) ○事故防止・事故発生時の対応(施設の設置・管理瑕疵、不適切な利用、危険生物・気象、作業手順に関する安全対策) ○防犯対策(「北九州市安全・安心条例」に沿った犯罪抑止にむけた対応) ○災害対策・危機管理体制・応急復旧対策(広域避難地及び広域防災拠点としての機能確保にむけた対策・体制・復旧) 	<p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>個人情報、利用者の個人情報取得の場面が多い当園の特徴を踏まえて、市条例に則り、体系的な取得時の配慮・管理方法を定め、丁寧に取扱いします。平等利用は、誰もが平等に施設・サービスを利用できるよう、「合理的配慮」「子ども／女性／高齢者目線」「公正性」をキーワードに、過度にならない範囲で利用者のご要望に応じた配慮を図ります。安全対策は、誰もが当たり前に「安全」で満足できるグリーンパークを目指して、起こりうる災害や事故に対応した実地訓練による日常対策、ハード・ソフトをミックスした事故防止・安全対策を徹底します。危機管理体制は、想定外の犯罪・災害を想定し、危機管理マニュアルを整備し、適切な体制と対応方法をスタッフ間で共有します。防犯については若松警察署、防災については若松消防署との連携により、未然防止対策、発生時の被害を最小化(減災)するための危機管理対策を講じます。</p>

北九州市立響灘緑地
指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月16日(火) 13:30~17:20
- 2 場 所 北九州役所(小倉北区内1番1号) 12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 薛構成員(座長)、横山構成員、福地構成員、城水構成員
横田構成員
(事務局) 建設局公園管理課長、公園管理課企画係長、職員

4 会議内容

○当日のスケジュール、審査にあたっての留意点、審査結果の公表等について事務局より説明。

○構成員の互選により、座長を選出。

○応募団体(響灘緑地パークアップ共同事業体)より提案概要に関してヒアリング

(構成員) まず、大きいところから。公園の管理者として実績・経験がたくさんのあるということだが、この北九州の響灘緑地(グリーンパーク)ならではの特性や強みというものを、本当に一言二言で言うと、どのようにとらえているのかを教えてくださいたいのが一つ。もう一つが、もし、ここで指定管理の指定を受けるとなると、指定期間中にグリーンパークのちょうど30周年を迎えることになる。この点については提案書にはなかったと思うが、もし考えがあれば教えてくださいたい。以上2点。

(応募団体) スライドを交えながら説明させていただく。まず、一つ目の質問、グリーンパークの大きな特徴としては、北九州の都市公園を牽引する存在だと考えている。それだけ大きな広域レクリエーションに対応できる公園かと思っているが、公園単体ではなく、その賑わいが北九州の活力自体につなげられる、そういったポテンシャルを秘めている公園だと思っている。よって、公園の賑わいだけではなく、我々が呼び込むことによって、北九州の街の印象を変えられる、そのようなパークマネジメントに取り組みたいと思っている。

もう一つ、30周年についてのご指摘だが、提案書には実現性の関係もあり載せていないが、大規模コンサートの誘致を考えている。市民も喜ぶようなアーティストを呼びながら、大幅に人数を増やす、そういった施策を考えているところである。過去には、2万人ほどのコンサートの開催実績もあると聞いており、1万5千人くらいの開催規模のコンサートを想定しているところである。

(構成員) 私は細かいところからうかがいたいですが、園内移動も課題の一つだと思う。今回、新しい未来型のモビリティ、マルチパーパスモビリティやパークガイドビークルの導入も検討されているということだが、具体的にどれくらいの量で、どれくらいの金額で実施するという案があれば教えて欲しい。

(応募団体) これは、まだ国営公園でも導入していないのだが、昨年度、実証実験を国営ひたち海浜公園で行い、今年度から販売が開始されたモビリティである。この公園では初年度から5台導入して、試行することを考えており、1台500円でのリースを考えている。この試行は社会福祉事業者の方々を対象に、我々が考えている福祉駐車場利用サービスと一体となった試行を考えている。特に、このマルチパーパスモビリティは、汎用車椅子をサポートする機能も付いているので、事業所のリーダーの方の意見も踏まえながら、利活用策を試行的に実施したいと思っている。1年目の試行を経て、2年目の本格導入を考えている。

(構成員) それでは、私は3つたずねる。まず、公園財団さんが入っているということで、いろいろグローバルな視点もあるかと思うのだが、提案書2ページに「地域が誇る世界水準の公園」と書かれてあったが、この響灘緑地が日本中の公園と較べて、どこが魅力で、どのようにしたいと思っているのかについて、もう一度教えていただきたい。

次に、北九州は少子高齢化の街である。これから入園者を呼び込んでいくためには、どうしても高齢者にどうやって来てもらうかという考えが必要。園内の移動も大変であるため、その点についてもう少し積極的な提案がないのかなと思っている。園内移動に困難を感じてはいるが、車椅子には抵抗がある方が多いので、そういった方への対応も含めて試しにやってみるという事だとは思うが、その辺りをもう一度聞きたい。また、今、公園に来るまでのアクセスがどうしても悪く、マイカーがないと来られない状況である。そのあたりをどう考えているのかについて聞きたい。

それから、20ページ、48ページ、55ページで観光・学習・インバウンドという言葉が出てくるが、それについてもう少し具体的な説明、どういうところに力を入れて、インバウンドの興味がここにあるので、このようなPRをしたい、というようなことがあれば教えて欲しい。

(応募団体) まず、グリーンパークの特性というか、全国的なレベルとしてのバランスについては、企画書の29ページをご覧ください。先程、本説の時にも説明したのだが、我々は市が掲げるグリーン成長都市というものに大変共鳴している。北九州市がSDGs戦略として、世界のモデル都市6つのうちの1つに選ばれており、ビジョンにある「真の豊かさ」に溢れる「グリーン成長都市」して、経済・社会・環境、この3つの施策に重点的に取り組むと掲げている。そして、この施策に都市公園として大きく貢献できるのは、グリーンパークだけだと思っている。公園を変えることによって、街の印象を変えることがある。私どもは全国でそういった経験が実際にある。茨城県のひたち海浜公園でネモフィラの絶景という花の風景を作ったり、また、自治体の公園では新宿町公園という公園には、以前はホームレスがたくさんいたが、パークマネジメントによって0になったりとか、そういう公園が街を変えるという経験がある。北九州に関しての公園の特性としては、こういった社会的な課題を都市公園が解決するんだという思い、そういったポテンシャルを秘めているというのが一つの認識である。

2つ目の質問だが、高齢者の移動補助については、未来型のモビリティもあるが、このパークガイドビークルによる駐車場からメイン施設である都市緑化センターなどへの移動補助を考えており、今のところは繁忙期等に有料での実施を考えている。また、これは年間でリースし、それによって、団体客の来園時にも、平日でも柔軟に移動補助が出来ると思っている。

3点目のインバウンドだが、またスライドに戻らせていただくが、茨城県の事例も含めて、我々の全国での経験上、本当に花が原動力だと思っている。北九州でもこれが出るのが白野江植物公園と響灘緑地、この2大拠点だと思っており、実際に白野江植物公園はインバウンドの来園者が大変増えている。我々、関門海峡観光推進協議会にも参画することに加え、今回、花そのものの魅力をもっと充実していくので、ここに相応しい牽引する存在になるのではないかと考えている。それは「Kitakyu Park Network」もしかしりだが、次の「ガーデンツーリズム」、こちらも、北九州だけではなく、北部九州エリアとして海の中道海浜公園をはじめ、のこのしまアイランドパーク、福岡市植物園、そういうところを我々が牽引するくらいの気概でインバウンドには取り組んでいきたいと考えている。

なお、交通弱者の方に対する対応としては、現在、職員の方が使っている最も公園へのアクセスに便利な駐車場については、私どもは、予約制もしくは事前申し込み制で交通弱者の方が使える駐車場に変えていきたいなども考えている。

(構成員) 2番目の質問に関連して、マイカー以外でのアクセスについての質問もあったと思うのだが。

(応募団体) 補足が漏れていたようだ。マイカー以外でのアクセスについては、西鉄グループネットワークの力を活かし、ピーク時にはなるが、西鉄バスによるシャトルバスを考えている。具体的には、黒崎駅あるいは折尾駅といった場所からのシャトル便を考えており、実態を見ながらはなるが、交通弱者配慮としても提案の中には入れさせていただいている。過去にシャトル便の事例はあったということなので、それを参考に今回、協力を検討させていただいている。

(構成員) 具体的な施策に対する質問だが、熱帯生態園の中に新しい沖縄関係の植栽を入れるということであるが、それにより、今の生態系に問題がないのかどうかを教えてください。

また、桜やアジサイ等、シーズンごとの植栽をやっていくということだが、普通の花であれば植え替えなどで対応できるのだろうが、アジサイや樹木等になると他の場所に移すわけにもいかないの、シーズン以外の活用をどうするのか教えていただきたい。

それから、冬の間にお客さんにもう少し来てもらうということであるが、あのような吹きさらしの場所で、冬にそんなに連れて来て、どうするのか。暖房対策というか、少しでも温まった後にまた外に出て行ける、そのような場所がないと無理ではないか、という思いがあるが、その辺りの対策はどう考えておられるのか教えて欲しい。

(応募団体) 順番に先ず、生態園の取り組みだが、現状が左上の写真のようになっており、冬場の利用促進として、企画展示ということでこの絵のようなイメージを考えている。あと、生態系については、現在の水槽展示、特に魚類では、熱帯のイメージとは逆に魚食性の大型ものが入っているので、熱帯の生態という意味で展示内容が弱いと考えている。提案の中では、熱帯性特有の多様性であるとか、カラフルな魚類、そういう個体を少しずつ展示出来ればと思っているので、現在飼育している動物の状況を鑑みながら、対応を考えていきたいと思っている。

2点目はアジサイについての説明だったか。

(構成員) アジサイや桜などの定住植物の活用は、シーズン外はどうするのかという質問。

(応募団体) アジサイや桜などの定住植物の活用については、6ページ目のビジョンマップの絵を見て欲しいのだが、提案では現在の未利用地の活用を考えている。6ページ目の左のところ

にため池がある。その上にアジサイの絵が少し描いてあるところに日本庭園の跡地があり、日本庭園の滝の流れるような場所があるのだが、そこが一切放置されているような状況である。そういった放棄地を市民の方に協力いただきながら、挿し芽という形でアジサイを少しずつ増やしていきたいと思っている。また、アジサイでは高塔山公園が名所になっているが、グリーンパークはその高塔山公園まで玄海自然歩道でつながっている。将来的には高塔山まで歩いて繋ぐアジサイウォークというのをイメージしながら、早急にというわけではないが、中長期的な観点でアジサイを植えていきたいと思っている。桜についてはビジョンマップの上部のスペースに少し桜を書いているが、ここではサトザクラを少しずつ増やしていきたいと思っている。サトザクラは品種が非常に多いので、開花期を少しずつらしながら、4月中旬ぐらいまで楽しめる品種だと思っている。

5年間で全部ゴールとはしていない。もっと花の公園として印象付けられるような取り組み、可能なエリアが繋げるような取り組みとして、中長期的な観点の始まりの一步と捉えていただきたい。3点目…。

(構成員) 冬の利用、冬の利用時の暖房についての説明を。

(応募団体) おっしゃるとおり、響灘緑地は冬風が非常に強い状況だと私たちも重々認識している。

その中でも冬の取り組みについては、「冬のわんぱーく」として提案書の40ページに提案させてもらっている。我々の思い・希望としては、冬の外の環境でも遊んで欲しいということがあり、大芝生広場でおもしろ自転車走らせるなど、そのような外の遊びは考えている。しかし、やはり寒いというのはあると思うので、都市緑化センターのホールを活用しながら「かえっこバザール」といったおもちゃのフリーマーケットのようなもの、「セルフクラフト体験」など、室内でのプログラムも充実させたいと思っている。合わせて、先程の熱帯生態園の情報でも説明した企画展も冬季の利用促進としてプログラムを行っていくので、外も中も楽しめるそういった「冬のわんぱーく」を提供していきたいと思っている。

また、冬季の利用促進として、冬期3か月間は無料開放とすることで来園してもらい、いろいろなプログラムを用意して遊んでいただくという、少し大胆な提案をさせていただいている。なお、収入の部分については、駐車場収入で十分カバーできると試算している。

(構成員) 今ある施設の中での暖房ということではなく、遊ぶ近くというか、園内に点在的に暖房施設を作っておかないと、結局、暖を取るために熱帯園や都市緑化センターに戻って、また外に遊びに行くとなると、なかなか億劫で行かないのではないかと。特に、子どものワンパークについては、親は一緒に行っても見ているだけだと非常に寒いので、その対策がどうかなど。

(応募団体) 確かにご指摘の通りだと思うので、51ページ、52ページに記載しているとおり、利用していない方のニーズ把握もやっていきたいと思っている。特に52ページに記載しているとおり、非来園者を対象としたネットリサーチや、グリーンパークの近くまで来ている方、お子様連れのお母様へのグループインタビュー等により、来園しない理由や、冬にどうすれば来てくれるか、そういう点について細かなニーズを聞き出しながら、この「冬のわんぱーく」の充実化を図っていきたいと考えている。

(構成員) 出来るかどうかは分からないが、大きなテントのようなものをあちこちに置いておいて、そこに入って暖を取れるとか、そういうことを考えないと。冬場は30分外に出ていた

ら大変なことになると思う。

(構成員) 今、利用者の方の意見についての回答もあったが、例えば、提案書の50ページ、現状での利用者の意見について書かれているが、このアンケート調査は委託して実施したものなのか。

(応募団体) タイトルに26～29年度アンケート調査とあるが、これは、我々が市に請求をし、それに対して開示されたものであるので、実際の来園者から寄せられた生の声である。

(構成員) 利用者の意見はこれだけだったのか、それとも抜粋したのか。

(応募団体) もちろん、これは重点的改善が必要であろうという点について、抜粋させてもらったものである。当然、意見としてはたくさんあったが、特に満足度に関連する部分だけを抜き出した。

(構成員) 最初のコンセプトの所でトップレベルの水準と書かれているが、何を持ってトップレベルなのかということを知ることができなかったのと、そのためにスタッフの方の教育などに対して、特に力を入れて、何か違ったこととして提案されている点があれば教えて欲しい。

もうひとつは、先程出てきたがインバウンドについて。公園に来てもらって、公園の中で満足していただくということが大切だと思うが、インバウンドに対するおもてなしとして何か考えていることがあるか教えて欲しい。

(応募団体) トップレベルの質問については、まず、数値目標を掲げさせていただいている。現管理者様も満足度は非常に高いものを示しているが、我々も98%の満足度の数値目標をまず掲げている。これは十分に高い数値かと考えているが、まず数字としてはこれを達成するということである。

スタッフの教育については、我々の全国で公園を管理させていただいている実績を基にした「サービス接遇」という基礎研修が、研修としてしっかりと成立しているところである。それをグリーンパークでも実施させていただき、スタッフ研修を徹底していきたいと思っている。その研修については、研修一覧というのが70ページに記載しているので、こちらをご覧ください。研修の中でも我々はまず、基礎研修というものを何よりも重視している。公園の基礎情報だけではなく、今申し上げた公園の運営目標や、先程お見せしたビジョンマップなども示しながら、職員だけではなく現地のスタッフも含めて、全員がこういったビジョンを持ってやっていくのだと、公園として目指していく運営の姿を共有していく予定である。このようなサービス接遇も含めた基礎研修は、業務開始前・採用時のタイミングで実施させていただく。あとは定期研修として、接客・接遇研修というものを、在籍するサービス介助士やサービス接遇検定を持ったスタッフにより随時実施する。

また、北九州市は高齢化の進む街、あるいは、少子化がすすんでいるとも言われているが、一方で住みやすい街ランキング1位と掲げられている。その中でユニバーサルデザインとして、住みやすい街というのをPRするような接遇が出来る研修も年に1回はやっていく予定である。おもてなしに関する対応はこのような内容を予定している。

(構成員) インバウンドについては？

(応募団体) インバウンドに対するおもてなしは、これもユニバーサルデザインの中に含まれるのだが、ピクトデザインであったり、お声がけ一つだったりとは私たちが思っている。言葉が話せないにしても、こういうことを知りたいとかいう中でお声がけをする。あとは、ユニバーサルデザインチェックの中でも、ユニバーサルマップやおもてなしマップについては、

花の見所とか利用者の目に入ってくる場所に一緒に立てるので、そのように資料として示せるようなツールも用意していく予定ではある。特にインバウンドの方々は、滞在時間がかかり短い傾向があるので、例えば、おもてなしマップにしても、インバウンド用としては1時間で要所要所を回れるものも用意したほうがいいのかと考えている。

(構成員) ひとつはお願いと、ひとつは質問。収支については、人件費を抑え、収入を少しずつ増やし、市の指定管理料を減らしていくような、大まかにいうとそのような形かなと思ったが、人件費を結構抑えられているが、この辺りは、何か強みというか、工夫をどのようにされたのか。

(応募団体) 人件費については、収支の計画では5年間でほぼ変わらない形としているが、内容としては、当然ベースアップも含んだ額で算定しており、効率的な配置と、専門性を持った直営のスタッフを現地に配置させてもらうこととしている。公園というのは天候にどうしても左右されやすい、冬場はお客さんが少なくなるということがあるので、その中で季節によってきちんとメリハリをつけて、効率的な配置をしていくことによって、人件費を抑えつつ、私たちが今、最大限取り組もうとしている花や緑の方になるべく回せるような効率的な配置をしたいと思っている。

(構成員) 今たまたま写真が出ているが、やはり花の公園はいろいろな所にあるので、ここでしか見られないような珍しい花、ここに出ているコキアとか、それからネモフィラ、そういう花はあまりこの辺りにはないと思うので、コキアを見るならあそこに行こうというような、特色のある修景を作り出していきたい。それと、水辺の景とか眺望景観とかいう言葉が出ているが、手入れが行き届いているが、自然に感じる、ランドスケープ的な視点をきちんと入れて、細部を作っていくということをしていただけたら、すごく素晴らしい公園になるのかなと、個人的に思った。

(構成員) 今の人の関係についてだが、柔軟なシフトで対応するとあるが、主にパート・アルバイトはシーズンごとに一般から募集するのか、それとも参加団体の中から時期に応じて人を出してもらうのか、そういうグループ内で手配が付くのかどうか、その辺りはどのようにお考えなのか教えて欲しい。

(応募団体) 公園のスタッフについての質問か。

(構成員) ピーク時に合わせた軟なシフトを組むと書いてあるが、プロパーの方を休ませたり出させたりすることは普通はないので、どこからか連れてくるということ。

(応募団体) 基本的な最低限必要な人数については、私どもの共同事業体からのスタッフ、あるいは、地元雇用させていただいた方によって運営を行う。やはり、春とか夏は人数が足りなくなるので、その場合はやはり公募をかけて、臨時のスタッフさんに来ていただくということになる。

(構成員) 一般から募集するということね。

(応募団体) はい。

(構成員) 参加団体何十団体とかいう北九州の公園組合とかあるから、場合によっては、そちらから出されるのかなということも考えたものだから。

(応募団体) 基本的なスタッフは共同事業体から出すが、それ以外のスタッフについては、市民の方から応募するという形を取りたいと考えている。

(構成員) 横のつながりというか、他団体との連携や連絡会を作るとか、そういったお話が提案の

中であって面白いなと思って聞いていた。これも福岡市の方で実際に経験があるということかと思うのだが、これは実際に連携してもらう相手があつてのことなので、うまくいかなかった場合もあるのか。参加者がいないとか、一部の事業者だけ入ってこないとか。

(応募団体) 連携については、事前に他の指定管理者へインタビューに行かせていただいている。白野江さん、平尾台さん、勝山公園さん、これは緑化協会さんの会員企業でもあるので、公園単体ではなくて街をみんなで盛り上げていくことに、非常に賛同いただいているので、この「Kitakyu Park Network」への参加については、ほぼ内諾をいただいているという状況である。あと、ご質問のとおり我々は福岡市の雁ノ巣レクリエーションセンターの指定管理をやらせていただいているが、そちらでもうすでに指定管理者の連絡会をやらせていただいております、年4回程度、連絡会を開催させていただいている。

(構成員) 他に質問はないか。それでは以上で終了とする。事務局にお返しする。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○応募団体（グリーンパーク活性化共同事業体）より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 3つ質問する。1つめは少々大きいところで。グリーンパークは緑が魅力の公園だと思うが、グリーンパークならではの特性というものについて、端的にどのようなとらえているのかというのがひとつ。

それから、動物の入れ替えという内容の説明があつた。今もカピバラなど何種類かの動物がすでにグリーンパークにいると思うが、動物の入れ替えというのはどのように、どういう意味合いで使われたのか、もう少し詳しく説明をして欲しいというのが2つ目。

3つ目は、スライドでも紹介があつたとおり、提案書の231ページから連携先がたくさん記載されているが、公園関係や花や緑に関係する団体が少し見受けられなかったと思う。その辺りの連携団体はないのか、というところをについて確認させていただきたいというのが3つ目。

(応募団体) まず1つ目の公園としての特性のとらえ方については、冒険の森等にコナラとかクヌギがだいぶ群生しているので、今、そういった緑を癒しや安らぎの空間として管理をしていきたい、というご提案をさせていただいている。緑地の水準を高めてその中に入って、人が安らげるような木陰作りというものに配慮していきたいなと思っている。

それから2点目の動物の入れ替えについてだが、今も定期的実施している。まずは前回もそうだったのだが、熱帯生態園の入場者の方にアンケート調査を実施し、そこからニーズの高い個体を調べたうえで入れ替えや追加を実施している。カピバラやカワウソについてはアンケートでのニーズが高かったので追加して入れたという形になる。

(構成員) それは購入なのか、それとも借りるのか。

(応募団体) いろいろなパターンがあり、購入している場合もあれば、借りる場合もある。カワウソについてはブリーディングという方法で借りており、まだつがいではないが、動物園から借りて、将来的にはつがいのような形にして、少し数を増やしていくといったような取り組みの方法である。

それから花や緑に関する連携先について、書きそびれているが、例えば白野江植物公園などと連携し、フジバカマを植えて、アサギマダラのスタンプラリーを実施している。その他にもボランティア、バラのボランティアを我々で指定管理者として構成おり、今、地元の方と園内の緑の維持管理にご協力いただくという形を取っている。

(構成員) レジャー施設として見た時に、すごく魅力が高まって楽しそうな場になるのだろうという印象をととても強く受けている。一方、インバウンドも含めて市内はもとより、日本国内、世界を見た時に、例えばバラ園を含めて、花とか緑とか水とかに関する個性の作り方について、何か今までと違う取り組みがあるとか、特にここの部分を強くアピールして魅力として高めていきたいとか、そういうところがあれば教えて欲しい。

(応募団体) 我々が管理運営を行っている中で、花については特に根強い人気があると感じている。平成26年度に市によって大花壇が撤去され、花壇の面積がいったん少なくなっているのので、今、花壇の面積を徐々に徐々に増やしていつている。ただ、提案の中にもあるように、水捌け等も含めて土壌基盤があまり花壇に適していないので、そういった箇所については土壌改良したり、他の場所に花壇を作ったり、そういう対応を行うことで花壇面積を増やしている。まず一般的に喜ばれるような園芸種については、皆さんの目に付くような北ゲートや南ゲートに増やしていつている。それから、今回のご提案としてはプレゼンテーションにもあったとおり、年間50種類30万株の花々を徐々に増やしていこう、という取り組みをしたりしている。

バラについては、特にインバウンドの対象として、バラの4ヶ国語のマップを作っている。現在のバラ園の面積は1.3haだが、バラ園がすり鉢状の形状なので、なかなか広げにくいという課題がある。そこで、すり鉢状の両側の法面を上手く使って、立体的なバラ園を演出しようということで、今、少しずつ法面のバラについて増やしていつている状況で、そういった花・緑といった取り組みをしている。

(構成員) ご実績があるということで非常に具体的な提案に感謝する。私たちが今後のことで少し気になるのは、園内に入ったときの園内馬車というご提案があったのだが、北九州市は少子高齢化の街なので、園に来ていただく高齢者、交通弱者のための交通アクセスをどのように考えていきたいのかというのが1つ。

それから満足度について、私の読み込みが浅かったのかもしれないが、12ページと79ページに満足度98%以上の維持ということと、非常に満足の60%達成ということが書かれているが、その違いをご説明いただきたい。

それから自己投資をされるということで、素晴らしいと思ったのだが、年間で約1,800万の収入を確保するという提案もあった。そのあたりも明確にお聞かせいただきたい。

それからもう1つは植物について。グリーンパークなので来場者のみなさんは植物のことに興味があると思う。その植物に関して、86ページにあるとおいろいろな植生とか生き物とかについて調査をされていて素晴らしいと思うのだが、その調査結果をどのように活用していくのについて、もう少しお聞かせいただきたい。

(応募団体) まず、少子高齢化に対する交通アクセスの対応についてだが、現在の園外からのアクセスは、車で利用が95%を超えている状況である。ただし、先程述べた花の時期やバラの時期については、高齢者からの公共交通機関に関するお問い合わせが多いので、今、市営バスさんや西鉄バスさんと連携して、路線バスを増やしてもらおう対応を行っており、今

後も継続してやっていくということになっている。現状ではバラフェア期間中という限定付きになっているが、小倉駅、黒崎駅、戸畑駅からバスを出してもらい取り組みが出来ている。あとは、我々がシャトル便を出すことなどを西鉄バスさんと市営バスさんと協力して徐々に増やしていこうと考えている。また、先程申し上げたチラシにも、公共交通機関の路線バスについては、増便しているということもきちんと掲載して、公共交通でも来園出来るというご案内もしている。

それから満足度での項目についてだが、現在の公園についてのアンケートの選択肢が「非常に満足」なのか「満足」なのか、それから「不満」なのか「非常に不満」なのか、この4つの選択になっており、満足度98%というのは「非常に満足」と「満足」を足した合計値である。177ページを見ていただくと、上に表があり、上の黄色くなっているところが「非常に満足」と「満足」を足した数字である。この満足度98%というのは非常に高い数字と認識しているし、これを維持するというご提案をさせていただいている。さらに、この表の中でも「非常に満足」に着目したときに、現在55%前後で推移しているこの「非常に満足」というものをもっと上げようという取り組みをしていこうという提案。それから、満足度は98%でまだ2%は不満という声が残っているということなので、この不満を解消する、あるいは不満を満足に上げるという取り組みをしていこうというのが、今回の満足度に関する提案の内容である。

(構成員) なるほど。それでは「非常に満足」だけで98%になることが理想ということだね。

(応募団体) それから、自己投資と1,800万円の収入の件については、208ページをご覧ください。金額は各ページの右上に記載しているが、209ページから提案している開園日を増やして約250万円、それから210ページの夜間開園した場合の収入やビアテラスのバーベキュー収入など、これらを足して年間1,800万円の収入を確保するという提案である。そして、当然この中から自己投資をしていく。先程のプレゼンテーションでも説明した、212ページに記載している、日本初のネットアドベンチャーについては、市と協議しながら、緑の中で、いつもとは少し違う感覚で、高いところから緑空間を楽しめるというような、新しい緑の見方とか使い方などを遊びとしてご提案したいというものである。よって、北九州市様と協議をしたうえで投資するということになるため、また、すぐに実現出来るものでもないため、この費用についてはご提案の中の収支計画からは除外している。

生態系調査については、九州工業大学と北九州野鳥の会を含めて2016年から2018年にかけて実施しているものである。我々は多くの利用者の方に楽しんでいただけるように、芝生広場や広いスペースでいろいろなイベントを実施している。その一方で、この生態系調査の内容も踏まえながら、緑豊かなグリーンパークの生態系にも配慮しながら維持管理をやっていかなければいけないという考えを持っており、調査結果を見ながら、例えば実のなる植物を増やしたり、植生に過度に人の手が入らないように工夫したりしながら、生態系のネットワークの回廊の一つとして少しでもグリーンパークが役に立てればという想いで行っている、まだ継続中の生態系調査である。また、89ページに記載しているとおり、緑・花とかの情報については図鑑にしたいと思っている。来園者がこの図鑑を見ながら園内の緑を楽しめるようにしたいという事にも活かせるよう継続調査をしているところである。

(構成員) 新規事業として、パワーポイントの25ページ記載の事業が新しい事業だと聞いたが、その前に説明のあったいろいろなイベントは、今までやってきたイベントについてについて説明していただいたのか。

(応募団体) 今までやってきた定着イベントを改善していく、パワーアップしていくという内容である。

(構成員) それらにこの新しいイベントが加わるということだね。それと参考までに教えて欲しいのだが、やってみただけでもうやめてしまったものがあれば教えて欲しい。あまり効果がなかったとか。

(応募団体) 特にやめたものはない。

(構成員) あと、フェスティバルをやるという話だが、音漏れ対策とかその辺りは大丈夫なのか。

(応募団体) 今までも大きなカラーランのイベントなどは音楽イベントとセットのファンランのイベントとしてやっているの、かなり大きな音が出ている。

(構成員) それは今までやっている？グリーンパークで？

(応募団体) 過去にやっている。そういう場合は、自治会さんなどに事前にご挨拶とご説明を行い、ご理解いただいたうえで、イベントを実施するという形をとっている。

(構成員) こんな内容の新しいイベントが出来るのであればいいなと思って。岐阜かどこかで今までずっとフォークジャンボリーか何かを実施していたのが、施設が使えなくなったという話があった。あんなのを引っ張って来たらいいのではないかと思うけど。

(応募団体) 事前のご説明も地区の方みなさんに公民館に集ってもらい、こちらからイベントのお知らせをしたり、この竹並地区をもっと盛り上げてくれというエールをもらったりして、協力的にやっている。

(構成員) 今回の新しい音楽イベントは30周年だけの実施なのか。翌年以降、別の形で継続的に実施する予定はないか。

(応募団体) こういった音楽イベントは花と馴染むので、今、ゴールデンウィークには小規模だが著名人を呼んで盛り上げ、秋にはミュージックバトルというイベントで、こちらは地元のミュージシャンを応援するという形で地元の人たちに参加いただいてコンテストを開催するという取り組みを実施している。

(構成員) 先程、園内移動について、他の構成員からも質問があったと思うが、プレゼンの中で馬車での移動というご提案があった。公園までのアクセスではなく、園内の移動について、馬車以外のものについて改めてお聞かせいただきたいというのが1つ。

次に、利用者アンケート等をしてデータベースを作っていくということだが、このデータベースの作成は外注せずにご自分達でコツコツと作成していくのか。また、このデータベースはグリーンパークだけの利用者満足とか利用者苦情とかに関するデータベースなのか、他のものも含めた比較的大きいデータベースの構築を想定されているのか、イメージが沸きにくかったので教えていただきたい。

(応募団体) 園内移動については、きたぽっぽというトレインはあるが、最近では1日の集客が5千人を超えるような状況であるので、当然事故はないのだが、安全管理上、もう少し小回りが利く馬車を導入したいと考えている。トレインについては北ゲートまで回転して行けないという状況であるため、足の悪い方や移動に補助が必要な方が、北ゲートからバラ園や色々なところに移動できるように園内馬車であれば小回りが利いてより活用できるだろう

う。また、グリーンパークには「生き物との触れ合い」という設置目的もあり、それにも合致しており馴染むだろうということで、これを導入したいと考えている。

それから、アンケートのデータベース化については、基本的には内政化で実施し、外注はしない。我々、アンケートはグリーンパークだけで、最低でも年間1,000サンプルは取っている。その結果には、利用者の満足度に加え、自由意見も非常に多く記載されているので、そこからいろいろな傾向を分析し、反省しなければいけない点や改善しなければいけない点をきちんとデータベース化して、その情報を朝礼や会議に諮ってスタッフとどういう改善をしていくかという議論に活かす取り組みをしている。

(構成員) プレゼンを見て一番気になったのが、先程質問のあった満足度のところなのだが、「まあまあ」を「満足」に上げることよりも、「満足」を「非常に満足」に上げることの方が実は難しいのではないかなという感覚がある。過去の実績を基に課題をたくさん挙げて、それを解決するという形でいろいろと提案されていると思う。しかし、その解決だけではおぼつかない、「非常に満足」というのはそれくらいすごく難しいことかな、と私個人としては印象があるのだが、そのために問題意識を持って取り組もうと思われていることや、問題意識自体でもいいので教えて欲しい。

(応募団体) 180ページ見て欲しいのだが、今回、満足度の分析を実施した。「満足」というのは公園全体の満足度を示しているのだが、この公園全体の満足度について「満足」を示された方は、どういったものに反応されたかというのがこの模式図である。問題意識というものに馴染むかは分からないが、先程ご指摘いただいたとおり、「満足」を「非常に満足」にするのは非常に難しいと我々も思っているが、その「満足」から「非常に満足」にするきっかけが、こういったカテゴリーにある、というヒントだと思っている。100%全てこれをやったら「満足」から「非常に満足」に上がるとは思っていないが、こういった取り組みはヒントだと思っているので、これらを少しずつ実施していくことで「満足」から「非常に満足」に上げられるのではないかなと思っている。

(構成員) 冬季の集客はどこの施設も苦勞していると思うが、集客対策としてイルミネーションをされている。実際にはどういう時間や期間で実施しているのかを確認したいのと、いろいろなところで、樹に電球をつけると植物には良くないということも聞くのだが、その辺りはどうなのか。

(応募団体) まず、イルミネーションの期間については、12月から2月までの約3か月間の金土日祝日を考えている。グリーンパークの周辺に光がないこともあり、街中のイルミネーションとは光の見え方が違うというか、より映えて見えるということもあるので、冬季の集客対策としてそれを上手く使いながら実施し、場合によっては、もっと内容を増やしていきたい、また、日数も増やしていきたいと思っている。

イルミネーションのつけ方については、確かにおっしゃるとおり、樹にもつけたりもしている。今後は、芝生の上も使ってオブジェのようなものを作り、それに取り付けるという取り組みもやっていこうと思っている。また、オブジェへのイルミネーションは建物に付けたりすることで、少しインスタ栄え、写真スポットになるようなイルミネーションの場所を、少しずつ増やしていく取り組みをしている。

(構成員) それに関連して、これはお願いになるのだが、イベントをやらないとお客さまが来ないというのは、どこの施設にも共通する悩みである。しかし、グリーンパークというのは緑

を活かした施設であるので、努力が必要にはなるが、イベントだけに頼った集客だけではなく、自分達の財産を活かすような集客への取り組みを行っていただきたい。

(構成員) 他に質問はないか。終わってよろしいか。それでは以上で事務局にお返す。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○構成員は、審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、市政や設置目的等を十分に理解したうえで、問題意識を持って理念・方針を定めている。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、公園のにぎわいや活性化だけでなく、それを市のイメージアップにつなげる「公園が街をつくる」という運営理念は評価できる。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、それぞれの構成団体が十分な基盤と実績を持った団体であり信頼性は高いと思う。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、これまでの実績も踏まえて課題を明確化し、それらの解決と市の設置目的を実現する理念や基本方針となっている点が評価できる。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、現在の指定管理者として高い評価を得ている。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、実績・経験は十分に評価できるが、財政基盤について少し弱いところがあると思う。

(構成員) 審査の結果、「指定管理者としての適性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「管理運営の理念」、「人的・財政基盤」、「実績・経験」の項目が4

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「管理運営の理念」、「人的・財政基盤」が3、「実績・経験」の項目が4
が妥当であると考え。

○構成員は、審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、公園の設置目的に沿って、この公園の価値を高める視点での取り組みが提案されており、また、その熱意・意欲も感じられる。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、利用者はもちろん、利用者以外のニーズも把握して集客に活かそうとする取り組みは評価できる。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、集客・運営を広域で考えており、この公園の特性を考慮した実現可能性の高い提案がなされている。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、他の公園でうまくいったものと同じものをグリー

ンパークにも当てはめようとしているが、後出しかつ小規模なものでやっても、真似したように見えてうまくいかないのではないか。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、多方面にわたる事業計画、過去の5年間の経験を活かした提案内容となっており評価できる。公園としての特性を活かしたプラン、中・長期的な視点については、やや不安が残る。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、課題や苦情への対応方法などがきめ細やかで具体的によい。また、多様な意見収集のやり方とデータベース構築などの提案も評価できる。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、花・緑といった公園の魅力を向上させる要素に対する提案が少し弱いと感じた。花と緑が魅力のグリーンパークの特性が十分に活かされないのではないか。

(構成員) どちらの共同事業体の提案内容も、正直、甲乙つけがたかった。一方は花や緑の公園としての魅力をより高める中長期的な提案、もう一方は多彩なイベントでさらに賑わう公園を作る提案となっていたと感じており、両者の特性・性質が違うが、どちらにお任せしても運営状況さえよければ安心だと感じた。

(構成員) 審査の結果、「有効性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「設置目的の達成」、「利用者の満足度」の項目が4

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「設置目的の達成」が4、「利用者の満足度」の項目が3
が妥当であると考える。

○構成員は、審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) どちらの共同事業体も提案として素晴らしいものがあることに加えて、実現可能な計画となっている。

(構成員) 審査の結果、「効率性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「指定管理料及び収入」、「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「指定管理料及び収入」、「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3
が妥当であると考える。

○構成員は、審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) どちらの共同事業体も市の要求水準を満たしており、管理運営体制や平等利用、安全対策、危機管理体制についても問題はないと思う。

(構成員) 審査の結果、「適正性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「管理運営体制」、「平等利用・安全対策・危機管理体制」の項目が3

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「管理運営体制」、「平等利用・安全対策・危機管理体制」の項目が3
が妥当であると考える。

○構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

響灘緑地パークアップ共同事業体は、国営公園等における公園の管理運営の実績を活かした、景観計画に基づく植栽管理による「水辺の景」や「眺望景観」の確保、緑や花の更なる魅力向上などによって、公園としての価値をより高めようとする姿勢や中長期的な取り組みが提案されている。また、公園が北九州市という街の印象を変えるパークマネジメントの実施、市内都市公園連絡会や北部九州のガーデンツーリズムの広域観光の取り組みなど、視野の広い取り組みの提案がなされている。さらに、園内モビリティの導入や福祉団体向けの駐車場利用の工夫など、公園へのアクセス・園内の移動補助に関する提案が評価できる。

グリーンパーク活性化共同事業体は、今までの5年間の成果と今後の課題についてしっかりと分析を行い、その課題を解決するための、きめ細やかで数多くの具体的な提案がなされている。緑地管理や花壇管理については市の要求水準を超える維持管理を実施しながら、定着している既存イベントの実施による継続的な利用促進を図ることに加えて、新しいイベント実施を提案するなど、集客について非常に意欲的で、多彩な取り組みが提案され、さらに高みを目指そうとする姿勢が評価できる。

協議の結果、響灘緑地の花や緑の魅力向上などにより、公園としての価値をより高めようとする響灘緑地パークアップ共同事業体も、指定管理者として十分相応しいと認められる提案を行っているが、検討会としては提案内容などから総合的に勘案して、現状の課題分析に基づくきめ細やかで数多くの具体的な提案を行い、最終的な合計得点が高くなっているグリーンパーク活性化共同事業体が指定管理者の候補として最も相応しいと判断する。

○とりまとめを行って、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州市立山田緑地
所 在 地：北九州市小倉北区山田町
開設年月日：平成7年5月27日
公園面積：敷地面積：143ha（開設面積47.06ha、計画決定面積：143ha）

施設内容：①施設概要

森の家、自然観察路、芝生広場、森のゲート、野草広場、樹木園、
エコプレイパーク、駐車施

②事業内容

緑地の管理運営、施設及び植物の維持管理、集客にかかる業務

名 称：北九州市ほたる館
所 在 地：小倉北区熊谷二丁目5番1号
開設年月日：平成14年4月24日
公園面積：敷地面積：709.45㎡、延床面積：622.88㎡

施設内容：①施設概要

【1階】インフォメーション、ロビー、展示室、ほたる研究室、
地域交流室、階段展示コーナー

【2階】ほたる生態学習室、資料・作業室、研修室、野草展示テラス、
ホール

【屋外】実験水路、せせらぎ水路、駐車場

②事業内容

生物の飼育及び施設の維持管理、研究、集客にかかる業務

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：九州造園・グリーンワーク共同事業体
構成団体：株式会社九州造園、NPO 法人グリーンワーク
所在地：北九州市小倉北区大島二丁目10番1号
主な業務内容：株式会社九州造園 植物管理、施設管理、建物管理、管理運営等
NPO 法人グリーンワーク 情報発信、イベント企画運営等

2 指定の経緯

平成30年 9月10日 募集要項配布
平成30年 9月28日 募集締切
平成30年10月18日 指定管理者検討会の開催
平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ・法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可。)
- ・本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ・募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)
- ・共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加：2団体
応募件数：1共同事業体
・九州造園・グリーンワーク共同事業体
(株式会社九州造園、NPO法人グリーンワーク)

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会としての検討結果を踏まえ、指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- 【学識経験者(緑地計画、植生管理)】 薛 孝夫 (元九州大学大学院農学研究院准教授)
- 【学識経験者(行政評価・地方自治)】 横山 麻季子 (公立大学法人北九州市立大学准教授)
- 【公認会計士】 福地 昌能 (福地公認会計士事務所代表)
- 【民間】 城水 悦子 (株式会社洋建築計画事務所代表取締役)
- 【民間】 横田 きみよ (コンセプトピディア代表)

5 選定基準等

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1 指定管理者としての適性	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	① 市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくための人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など	① 同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ② 施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ② 施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。 ③ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足向上	① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。 ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。 ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 指定管理料及び収入	① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。 ② 収入が最大限確保される提案であるか。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。 ② 経費の配分は適切であるか。 ③ 積算根拠は明確であるか。 ④ 再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制など	① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。

② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
① 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が十分に考えられているか。
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			構成員						
			A	B	C	D	E		
九州造 園・グリ ーンワ ーク共 同事業 体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	3	4	3	4	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	3	3	3	3
	(3) 実績や経験など	5	3	3	3	4	4	3	3
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	3	3	3	3	3	3	18
	(2) 利用者の満足度	10	3	3	3	3	3	3	6
	【効率性】								
	(3) 指定管理料及び収入	15	3	3	3	3	3	3	9
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	3	6	

【適正性】								
(5) 管理運営体制など	10	3	3	3	4	3	3	6
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	3	3	3	6
合 計	100	60	61	60	64	62	—	61
地元団体に対する優遇措置 (5点)								66

(2) 検討会における主な意見

【九州造園・グリーンワーク共同事業体】

- ・応募者は現指定管理者だが、今後の5年間の新しい取り組みとして、山田緑地の小学館のビーパル誌との連携事業に係る提案、ほたる館の水辺に生息する生物などの新講座の提案は評価できる。
- ・営業広報活動については、新規活動として、JRや門司港などにチラシを持ち込んで直接広報することで、知名度の向上が期待できる。
- ・集客については、マルシェで入園者が増えているとのことだが、山田緑地の適性利用規模としてはまだ余裕があり、芝生広場は空いている、会議室の稼働率は50%程度とのことなので、もう少し入園者を増やすことが可能か。
- ・ほたるの館はホテルに関する連携をさまざまな地域と行っていることを、もっと情報発信してもいいのではないか。

(3) 検討会における検討結果

九州造園・グリーンワーク共同事業体は、現指定管理者として設置目的に沿った管理運営をしており、市の要求水準を満たす適性を持っていると評価した。

全体としては、市の要求水準を満たす提案であるが、残念ながら、それ以上の提案も見当たらず、次期指定管理については、問題意識や目標の明確化、ロビーに展示するだけの情報展示から積極的な情報発信へと転換することを期待する。

「30世紀の森づくり」への姿勢は間違っていないので、集客や自然保護といった目的にかなった管理運営を期待する。

審査の結果、検討会としては九州造園・グリーンワーク共同事業体が指定管理者の候補として相応しいと考える。

7 選定結果

市は、検討会としての検討結果を踏まえ、九州造園・グリーンワーク共同事業体を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・公園の設置目的を理解し、政策支援を図るための効果的な取り組みとして、山田緑地×パルパーク・プロジェクトとして4つのゾーン作りと活動で、(株)小学館ビーパル誌と

の包括連携協定を効果的に実施する提案となっている。

- ・施設間の有機的な連携を図るための取組みとして、山田緑地とほたる館の具体的なイベントや調査・研究の提案がされており、両施設を有効活用した環境教育の積極的推進等に期待できる。
- ・当該施設での指定管理業務の実績、経験があり、各種イベントの実施による利用者増の取組み、効果的な維持管理の実施についてもしっかりと提案されていることから、今後5年間の安定した管理運営が期待できる。

8 提案額

■山田緑地

平成31年度	55,100千円
平成32年度	55,100千円
平成33年度	55,100千円
平成34年度	55,100千円
平成35年度	55,100千円

■ほたる館

平成31年度	12,520千円
平成32年度	12,520千円
平成33年度	12,520千円
平成34年度	12,520千円
平成35年度	12,520千円

提 案 概 要

(「北九州市立山田緑地」 指定管理者)

団体名：九州造園・グリーンワーク共同事業体

1 指定管理者としての適性について

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針

●理念

「30世紀の森づくりを進める公園」をコンセプトとして豊かな自然の森を守りながら(保全)、生き物と人間が共に生きていくことを学び(共生)、次世代に繋いでいく(継承)管理運営を進めていきます。

●コンセプトテーマ

人と自然を結ぶ保全、共生、継承の森づくり

●基本方針

①自然環境の保護・保全と次世代への継承

保護区域(守るゾーン)、保全区域(維持するゾーン)、利用区域(育成するゾーン)の機能分担と効果的な管理運営を進めます。

②生態系ネットワークの中核拠点としての展開

各種プログラムの実施により、市民が自然を知り、自然と触れ合う機会を創出します。

③市民の自然環境教育に関する情報収集・発信

北九州市内の様々な環境施設と協働事業や情報発信を行います。

④緑の基本計画、生物多様性戦略の遂行

上位計画の位置づけを理解し管理運営を進めていきます。

⑤美しい景観を活かした快適環境の創出

かつての山田村で営まれていた里地里山的な生活の場や美しい景観を創出していきます。

⑥都市に近接した緑豊かなレクリエーション空間の創造

環境型イベントの他、レクリエーションとしてのスポーツやコンサートなど多くの市民が利用出来る場としていきます。

⑦NPO法人や企業などとの協働

NPO法人や企業、市民団体、ボランティア、北九州市などと管理運営を協働で実施していきます。

⑧生態系に配慮した維持管理

生き物調査を実施し、生き物の生態系に配慮した維持管理を行っていきます。

(2) 安定的な人的基盤や財政基盤

●株式会社九州造園

昭和 32 年に造園工事業として創業。北九州市を中心として造園の施工業務を行なっています。
北九州市、国土交通省、福岡県などからの請負工事により安定した財政基盤があります。

●NPO法人グリーンワーク

平成 16 年に設立。会員 20 名、協力会社 7 社。北九州市との協働事業を進めています。
北九州市からの委託事業などの安定した財政基盤があります。

(3) 実績や経験など

●株式会社九州造園

北九州市、国土交通省などの公園施工、公園維持管理業務の実績と経験が数多くあります。
山田緑地・ほたる館の指定管理業務を平成 26 年から行なっています。

●NPO法人グリーンワーク

「緑豊かなまちづくりの推進」をミッションとし、北九州市との協働事業の経験や実績があります。
山田緑地・ほたる館の指定管理業務を平成 26 年から行なっています。

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み

(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み

●政策支援を図るための取組み

北九州市との共同でパルパーク・プロジェクトを進めていきます。
焚き火ゾーン、親水ゾーン、岩登りゾーンなどを中心として、企画運営整備を行っていきます。

●豊かな自然環境を環境学習、研究の場として活用

①環境学習プログラムの企画実施

もりの観察会、バードウォッチング、昆虫講座、ヘビ講座、自然ガイドウォーク、夜の生き物観察会、ホタル探検隊など生き物をテーマとしたプログラムを実施していきます。

②山田緑地生き物調査

植物、哺乳類、鳥類、昆虫類、両生類・爬虫類、魚類などの生き物調査を専門家、大学、ボランティアと共に実施し、データを取りまとめます。

③大学や高校などの環境教育の取組みを支援

小学校の校外授業や大学のフィールドワークなどの環境教育の場を提供していきます。

●里地里山的な利用により、自然と共存する生活のあり方を提案

みつばちプロジェクト、パルパークプロジェクト、菜の花プロジェクト、工作教室などを定期的実施します。

●市民や他団体との連携による管理、運営、イベントの実施

- ①北九州市ほたる館と連携して山田緑地内でホタルの調査、研究を進めていきます。
- ②九州電力と協働で森を楽しむイベント「プレイフォレスト」を進めます。
- ③ボランティアと協働し、観察会の運営、樹名札の設置、竹林整備など森の維持管理を行います。
- ④「山田の森フェスタ」や「やまだんマルシェ」などの大型イベントを実施します。

●区域に応じた特性のある維持管理の実施

- ①30 世紀の森づくりを目標とし区域ごとにメリハリのある施設植栽管理を行います。
- ②カスミサンショウウオやカヤネズミなど山田の森に住む生き物の生態系に配慮した維持管理を行います。
- ③アライグマなど外来生物の駆除を実施します。

●施設展示物の充実と情報発信の機能強化

- ①森の家展示ホール内の展示施設の充実を図ります。
- ②常設展示の他、企画展示や特別展示を積極的に行います。

●山田緑地とほたる館の有機的な連携の実施

- ①ほたる館と連携して「夜のホタル探検隊」を実施します。
- ②ほたる館と協働で山田緑地内小熊野川のゲンジボタルやカワニナの調査、研究を進めます。

(2) 利用者の満足度

●利用者の満足度目標

平成 35 年度の利用者アンケート満足度を 96%とします。

●来園者が身近な情報と触れ合うことのできる親しみある環境を提供します。

- ①来園者の目線で応える接客を実施します。 ②パンフレットの見直しを行います。
- ③図書コーナーの充実を図ります。 ④アンケート調査の実施と改善案の策定を行ないます。
- ⑤クレーム対応を徹底します。 ⑥ホームページ等の充実を図ります。
- ⑦レンタルグッズを準備します。 ⑧門松や春の七草など季節を感じる飾りつけを行います。
- ⑨キッチンカーによる販売を行います。

【効率性】に関する取組み

(1) 指定管理料及び収入

●以下の目標による管理運営を実行します。

【目標(数値目標)】

単位：千円

項目	3 1 年度	3 2 年度	3 3 年度	3 4 年度	3 5 年度
管理運営費	61, 499	61, 529	61, 559	61, 589	61, 619
利用料収入	6, 399	6, 429	6, 459	6, 489	6, 519
指定管理料	55, 100	55, 100	55, 100	55, 100	55, 100

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

●経費低減、収入増加に向けた創意工夫を行ないます。

- ①管理履歴に基づく効果的・効率的な管理水準設定します。
- ②緊急性・優先度を考慮した経費の効果的・効率的執行します。 ③エネルギー削減を実施します。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制など

●管理運営体制

スタッフは所長含め経験豊かな6名と施設園地管理スタッフ2名の合計8名とします。

スタッフには業務に必要な基本的技術や専門的技術を深める様々な教育を行います。スタッフの教育は基本的なものは日常業務を通じて行い、専門的なものは外部研修等を行います。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

●平等利用

私達は、正当な理由がない限り、利用を拒まず、特定の個人や団体を優先することのないようにすることを徹底し、子どもから成人、高齢者、障害者がそれぞれの目的で公園が利用できるよう管理運営を行なっていきます。

- ①来園者への丁寧な対応を行ないます。
- ②偏りない配慮で対応します。
- ③検証と研修を行ないます。

●安全対策

公園利用者に対する安全衛生対策としてハザードマップによる危険個所の表示およびアナウンスやパトロール時の注意を行ないます。臨時的な維持管理作業等の場所については、利用者が中に立ち入らないよう囲いや進入禁止等の処置をとります。

- ①施設利用者に対する安全衛生対策として危険箇所の表示を行ないます。
- ②イベントや事業において知り得る利用者の個人情報適切で安全な管理を行います。
- ③館内の安産点検や施設の防犯、防災対策を徹底します。
- ④避難訓練や消火器の実射訓練など緊急時の対応に備えた訓練を実施していきます。

●危機管理体制

本公園は、来園者が自然を十分に満喫できるように自然地形をそのままに利用した施設であるため、利用時における事故や災害が考えられます。速やかに対処できる体制づくりを行います。
対策本部は管理委員会として(株)九州造園本社に置きます。

提案額(千円)

31年度	55,100千円
32年度	55,100千円
33年度	55,100千円
34年度	55,100千円
35年度	55,100千円

提 案 概 要

(「北九州市ほたる館」 指定管理者)

団体名：九州造園・グリーンワーク共同事業体

1 指定管理者としての適性について

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針

●理念

ほたる館内の展示による情報発信、水辺環境学習の推進、日本全国・海外のほたるネットワークの形成を目標として管理運営を行なって参ります。

●コンセプトテーマ

ホタルで広がる水辺環境の情報発信、環境学習、環境保全ネットワーク

●基本方針

①ホタルなど水生生物の保護育成及び生息環境に関する学習・研究

- ・保育園、幼稚園、小学校などに対する環境教育活動の推進
- ・外部講師を招いての環境学習の実施
- ・出前講演会の積極的な実施
- ・全国のホタルプロジェクトとの連携

②水辺環境に関する情報の収集や発信及び地域交流の場として活用

- ・ホタルの昼夜逆転展示
- ・水辺に生息する生き物の展示
- ・海外との情報交換及び交流
- ・ホタルや水生生物などをテーマとしたイベントの実施
- ・マイボタル制度の実施

③山田緑地との効果的な連携

- ・山田緑地「夜のホタル探検隊」の協力
- ・山田緑地でのゲンジボタルの飛翔調査
- ・山田緑地でのホタル、カワニナの生息調査及び研究
- ・山田緑地みつばちプロジェクトと連携したニホンミツバチの飼育及び研究

④年間を通じたホタル成虫（ヘイケボタル）の展示

- ・ホタルやカワニナの飼育技術の向上
- ・ホタルの昼夜逆転飼育の向上

⑤ボランティアや市民団体との連携

- ・北九州市ほたるの会との連携
- ・ホタル愛護団体との連携
- ・ホタルサポーター（ボランティア）との連携

(2) 安定的な人的基盤や財政基盤

●株式会社九州造園

昭和 32 年に造園工事業として創業。北九州市を中心として造園の施工業務を行なっています。
北九州市、国土交通省、福岡県などからの請負工事により安定した財政基盤があります。

●NPO法人グリーンワーク

平成 16 年に設立。会員 20 名、協力会社 7 社。北九州市との協働事業を進めています。
北九州市からの委託事業などの安定した財政基盤があります。

(3) 実績や経験など

●株式会社九州造園

北九州市、国土交通省などの公園施工、公園維持管理業務の実績や経験が数多くあります。
山田緑地・ほたる館の指定管理業務を平成 26 年から行なっています。

●NPO法人グリーンワーク

「緑豊かなまちづくりの推進」をミッションとし、北九州市との協働事業の経験や実績があります。
山田緑地・ほたる館の指定管理業務を平成 26 年から行なっています。

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み

(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み

水辺環境の拠点施設として、展示施設の充実と生き物の情報発信を進めていきます。

- ①光るヘイケボタルがいつでも見られる展示を継続して実施します。
- ②一年中ヘイケボタルの卵、幼虫を観察できるように展示を行います。
- ③水辺に生息する昆虫、爬虫類、両生類、魚類などの展示を行います。
- ④里山の生き物や昆虫、鳥の標本などの展示や水辺関係の児童の作品などを展示していきます。
- ⑤マイボタル制度の推進と運営サポートを行います。
- ⑥水辺に生息する昆虫などをテーマとした講座を実施します。
- ⑦山田緑地とゲンジボタルやカワニナの調査研究を連携して行っています。
- ⑧保育園、幼稚園、小学校等に対しホタルをテーマとした環境教育を進めます。
- ⑨市民センターや公民館、図書館、小学校などでホタルの出前講演を実施します。
- ⑩全国のホタルに関わる団体と交流を図ります。
- ⑪マレーシア、マカオ、香港、中国、韓国など海外からの団体を積極的に受け入れ、技術協力を致します。
- ⑫デイサービスなど高齢者にホタルを初めとする生き物の情報を発信していきます。

(2) 利用者の満足度

●利用者の満足度目標

平成 35 年度の利用者アンケート満足度を 96%とします。

●来館者が身近な情報と触れ合うことのできる親しみある環境学習施設を提供します。

- ①来館者の目線で応える接客を実施します。
- ②パンフレットの見直しを行います。
- ③アンケート調査の実施と改善案の策定を実施します。
- ④クレーム対応を徹底します。
- ⑤ホームページの充実を図ります。
- ⑥小学校など近隣施設への積極的な情報発信を行ないます。
- ⑦「ほたる館だより」を毎月1回発行します。
- ⑧エサやり体験やふれあい体験など利用者参加型の展示を行います。

【効率性】に関する取組み

(1) 指定管理料及び収入

●以下の目標による管理運営を実行します。

【目標(数値目標)】

単位：千円

項目	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
管理運営費	12,520	12,520	12,520	12,520	12,520
利用料収入	0	0	0	0	0
指定管理料	12,520	12,520	12,520	12,520	12,520

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

●経費低減、収入増加に向けた創意工夫を行ないます。

- ①管理履歴に基づく効果的・効率的な維持管理を行います。
- ②緊急性・優先度を考慮した経費の効果的・効率的な執行を行います。
- ③エネルギー削減を実施します。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制など

●管理運営体制

館長含め経験豊かな2名とします。スタッフには業務に必要な基本的技術や専門的技術を深める様々な教育を行います。スタッフの教育は基本的なものは日常業務を通じて行い、専門的なものは外部研修等を行います。また、近隣の市民センターや小学校、自治連合会などと連携し展示や飼育作業、イベントなどを行って行きます。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

●平等利用

私達は、正当な理由がない限り、利用を拒まず、特定の個人や団体を優先することのないようにすることを徹底し子どもから成人、高齢者、障害者がそれぞれの目的で施設が利用できるよう管理運営を行なっていきます。

- ①来館者への丁寧な対応を行ないます。
- ②偏りない配慮で対応します。
- ③検証と研修を行ないます。

●安全対策

- ①施設利用者に対する安全対策として危険箇所の表示を行ないます。
- ②イベントや事業において知り得る利用者の個人情報適切で安全な管理を行います。
- ③館内の安全点検や施設の防犯、防災対策を徹底します。
- ④避難訓練や消火器の実射訓練など緊急時の対応に備えた訓練を実施していきます。

●危機管理体制

事故や災害の場合には速やかに情報を収集し、対処できる体制づくりを行います。
対策本部は管理委員会として(株)九州造園本社に置きます。

提案額（千円）

3 1 年度	12,520 千円
3 2 年度	12,520 千円
3 3 年度	12,520 千円
3 4 年度	12,520 千円
3 5 年度	12,520 千円

山田緑地・北九州市ほたる館
指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月18日(木) 9:30~11:45
- 2 場 所 北九州市役所(小倉北区内1番1号) 12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 薛構成員(座長)、横山構成員、福地構成員、城水構成員
横田構成員
(事務局) 建設局公園緑地部長、公園管理課長、公園管理課企画係長、職員
みどり公園整備課設計係長、職員
水環境課長、ほたる係長、職員

4 会議内容

- 当日のスケジュール、審査にあたっての留意点、審査結果の公表等について事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。

○応募団体(九州造園・グリーンワーク共同事業体)より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 次の5年間で利用者にとって、ここが変わったとか良くなったと思わせるポイントはあるか。

(応募団体) 山田緑地は生き物調査の結果、生き物が減少していることが課題となっている。ビーパールプロジェクトを含めた新しい里山的事業を展開していきたいことから、生き物の生態系に配慮した管理を構築して、皆さんに情報発信していきたい。

ほたる館は、今後も生き物の新しい講座を展開していきたいし、全国に魅力を情報発信していきたい。

(構成員) 山田緑地の広報活動、営業活動に関して、具体的に何をされるのか。また、ほたる館のホタルを含めた生き物の飼育は、誰が主担当なのか。

(応募団体) 今まで関連の環境施設、各自治体等に色々なチラシ等の配布をしていたが両施設ともに積極的な営業が出来ていなかった。今後はJRの駅や門司港レトロなどの関連施設に職員が訪問して、積極的に営業、広報活動を展開していきたい。

ほたる館の飼育は、スタッフ2名で行っている。ボランティアの協力を得ながら行っていく。山田緑地とほたる館は別の施設であるが、スタッフが交流して運営にあたっている。

(構成員) 共同事業体のどちらがメインなのか。

(応募団体) 九州造園が経費に関すること、グリーンワークが集客に関することを担っており、飼育に関しては、ほたる館の館長を中心に皆であたっている。

(構成員) これまでの5年間の実績を踏まえて、どのように問題意識をもち、具体的展開として何をしていくのかももう少し詳しく教えて欲しい。例えば、専門家との新たな繋がりにより新規プログラムを開発することも検討していると書かれているが、どのようなことを検討して

いるのか。

(応募団体) 山田緑地では、いのちのたび博物館学芸員の指導のもと、一部、利用区域、保全区域の木を伐開して、植生や生き物がどのように変わっていくのか調査を行っている。また、九州工業大学といのちのたび博物館学芸員と共同でオブラートな設定をして5年に1回の頻度で生き物調査を行っている。その他、生き物調査を毎年実施しており、その結果は、来園者に解りやすいように展示ホールで情報発信していきたい。

(構成員) NPO 法人として、これだけの収益をきちんと上げて素晴らしいことだと思う。本体のNPOの会員と役員と別の方がこれに関っているのか。

(応募団体) 会員と役員であり、それ以外は関っていない。行政から勝山公園出口側のボランティア花壇の支援や教育委員会と保育課とが連携した園庭芝生化の業務を受託し、収入を得ている。また、行政の他にも同様の活動を受託している。

(構成員) 小学館との連携については、市と小学館が何か契約しているのか。

(応募団体) 現在は、市と小学館が連携契約をしており、市が小学館に委託している。そのなかで、山田緑地の管理事務所として手伝っている。何れは我々がその活動をしていきたい。

(構成員) その活動のメリットは集客なのか。助成金や補助金につながるのか。

(応募団体) 今のところは無い。

(構成員) 大学と提携しながら、色々な調査をされ、地道で大変素晴らしいと思うが、このサンプリングや調査結果をどう活かすのか、また、データの集積や分析はどこでしているのか。

(応募団体) グリーンワークの母体に設計事務所も入っており、そのなかでデータの図面化や報告書の取りまとめを行っている。

今後もグリーンワークのなかで、データの取りまとめをし、展示ホール等で皆さんに解りやすく情報発信していきたい。

(構成員) 30世紀の森づくりについて、どのようになっているのが目標か。あるいはそれに向かってどのように今の課題を解決していくのか。

(応募団体) 30世紀は随分先で、見当がつかないところはあるが、5年10年ぐらいのスパンで今の社会情勢や環境に合わせた維持管理や方針を立てながら進めていきたい。どちらかという保全系で運営していきたいと考えている。3つのゾーンのうち、利用区域と保全区域に関しては、その時代背景を考えながら運営し、保護区域に関しては、最終的な植層がどうなるか解らないが、保護区域として見守っていきたい。

(構成員) 集客のために今後5年間で新たに取り組むものがあるか。また、あまり効果が無いため止めた取り組みがあるか。あれば教えて欲しい。また、ほたる館では、北九州市内の各地でホテルを飛ばそうという活動の状況を把握しているか。私の知るところで、黒崎中学校の近くに撥川があり、そこでホテルを飛ばそうと毎年お祭りをやっている。その団体も含め、各地で活動している団体との交流や支援状況はどうか。

(応募団体) 山田緑地の集客について、来園者から食べ物あまりなくて長く滞在できないとの意見が数多くあったため、この5年間でマルシェを実施し、成功したと考えている。民間の方たちからマルシェを実施したいとの要望が出ているため、民間マルシェを少し増やしていきたい。売店を改造して、来園者の要望に応えるような仕組みも作ってきたい。

また、夜の昆虫講座とか生き物の講座が重なっていることが多いため、整理をしてイベント費を効率的に使ってきたい。

ほたる館ではマイボタル制度があり、ほたる館の施設を利用して各地域の愛護団体の方がホタルを増やすため幼虫の飼育を行っており、その指導をしている。また、現地でも色々な指導を行っている。撥川の愛護団体との交流も深く、ほたる館に代表の方が来館されるし、ほたる館の館長が現地に行って指導することもある。

(構成員) 提案の中に、ホタルの愛護団体の活動状況と支援状況を加えていたら良かったと思う。

(構成員) 山田緑地の適正利用規模について、どのように考えているか。

(応募団体) 休日の利用で最大になるのは、マルシェの時に2,000人から3,000人程度であり、店舗周辺は一杯になるが、芝生広場、森の家から奥側、森のゲート付近はあまり多くない。平日はほとんど利用されていないところがあり、貸部屋の稼働率も全体で50%程度である。施設の規模としては余裕があると考えており、一日に5,000~6,000人ぐらいは来園していただけるよう運営していきたい。

山田緑地の特徴として、何度も来てくださる近隣の高齢者のリピーターが比較的多いが、奥まで行かない方が多いことから、その辺の対策が必要である。

(構成員) ほたる館有料室の地域交流室と研修室の利用料金収入が0円となっているが計算上入っていないのか。また、ホタルの飼育は専門性が高く、すごく難しいものか。

それから、山田緑地を里地里山に戻すにはどのぐらいの期間がかかるのか。

(事務局) ほたる館の地域交流室と研修室に係る収入については、利用料金ではなく使用料となるため、収入の帰属は市のものとなることから、収支計画には計算上入れることが出来ない。

(応募団体) ゲンジボタルは、とても繊細な生き物で環境の指標生物となっており、ゲンジボタルが飛ぶことが人間にとっても非常に良い環境ということが言われている。飼育には酸素を多く含み、流れのある綺麗な川でないとダメで大変難しいため、ほたる館では、6月に産卵させ、幼虫の死亡率が上昇する10月中旬までに放流している。年間通じて育てていくのは難しい。ほたる館は今後も専門的な知識を持つ2人体制で管理、運営を行っていく。また、来館者には見せるだけではなく、専門的に色々レクチャーしていきたい。

里地里山については、先生方の指導を仰ぎながら、参加者とともによく5年間かけて進めていきたい。木を伐開するなどの実験的なものは1年目から取り組む。

(構成員) 両施設の利用者アンケートと安全に対する満足が得られるための取り組みについて、どんな具体的な困難があり、どのように対応しているか。

また、ボランティアを増やすことや育てることなど、何か積極的に検討していることがあるか。

(応募団体) アンケートは、どこから来たか、家族構成、年齢、職員の対応はどうだったかなどについて行っている。ボランティアは、定例の森の観察会やバードウォッチング、団体、小規模のグループなどで樹木の調査、園名版の取り付け、フローラ調査、草花の調査などを図面化し、園内に展示している。

また、他に県外、市外の高校の農学部、園芸科の生徒をインターンシップで積極的に受け入れ、ボランティアの方々と一緒に花植え作業など楽しく活動している。

(構成員) 今後の指定管理経費について、管理運営費、収入とも少し上がり、指定管理料は同じという見込みとなっている。実績がある団体なので、もう少しメリハリを付けた工夫ができるのではないかと。

(応募団体) 来園者数の増加を期待しているが、今年は猛暑で来園者が激減していることもあり、

天候による不安材料もあるため、収支計画表では表現できなかった。これまで5年間管理してきた実績から、施設の老朽化も進み、地盤が弱いことによる倒木が非常に多いことが分かった。その撤去作業に非常にお金がかかり、不確定要素が非常に大きく、それをどこで吸収していくのかが一番の課題となり、帳尻合わせをしている面もある。赤字になる年もある。

(構成員) 大変な年が出てきて手入れをして金額が増えた分、他の年でカバーするなど年度毎に収支の増減が見えれば良かったと思う。

(構成員) 北九州市や山田緑地近くでは森や川が多いことから、是非、ほたる館が中心となってホテルが舞う北九州市を発信し、環境イメージを上げていただきたいと期待している。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○構成員は、審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 特に山田緑地について、「自然環境の保全に資すること」という設置目的の達成のために実施すべきことを明確に盛り込んだ提案内容となっており、市が求めているものをしっかりと捉えていると感じた。

(構成員) 利用区域、保護区域、保全区域の3つに分けられたそれぞれの区域に適した管理をしっかりと続けていく方針は評価できる。

(構成員) 審査の結果、「指定管理者としての適性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○「管理運営の理念」の項目が4、「人的・財政基盤」、「実績・経験」の項目が3が妥当であると考える。

○構成員は、審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 「指定管理者としての適性」の項目と同様に、設置目的の達成のためにに向けた取り組みが、しっかりと盛り込まれている提案となっている。

(構成員) ほたる館はホテルに関する連携をさまざまな地域と行っていることを、もっと情報発信してもいいのではないかと感じた。

(構成員) 提案書からは具体的な営業・広報活動があまり伝わってこなかった。

(構成員) 前回の提案内容と比較して、新たに取り組む内容が見えなかった。

(構成員) まじめにしっかりと指定管理業務を行っているのは伝わったが、もう少し発展性を持った視点での提案も欲しかった。

(構成員) 審査の結果、「有効性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「設置目的の達成」、「利用者の満足度」の項目が3
が妥当であるとする。

○構成員は、審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 今までの実績があるので、収支計画についてはもう少しメリハリをつけた工夫ができたのではないかと。

(構成員) 審査の結果、「効率性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理料及び収入」、「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3
が妥当であるとする。

○構成員は、審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 市の要求水準を満たしており、管理運営体制や平等利用、安全対策、危機管理体制についても問題はないと思う。

(構成員) 審査の結果、「適正性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「管理運営体制」、「平等利用・安全対策・危機管理体制」の項目が3
が妥当であるとする。

○構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

九州造園・グリーンワーク共同事業体は、現指定管理者として設置目的に沿った管理運営をしており、市の要求水準を超える適性を持っていると評価した。

全体としては、市の要求水準を満たす提案であるが、残念ながら、それ以上の提案も見当たらず、次期指定管理については、問題意識や目標の明確化、ロビーに展示するだけの情報展示から積極的な情報発信へと転換することを期待する。

植生管理や森林管理は手順が決まっていることなので、調査をしなければ着手できないことではない。「30世紀の森づくり」への姿勢は間違っていないので、集客や自然保護といった目的にかなった管理運営を期待する。

審査の結果、検討会としては九州造園・グリーンワーク共同事業体が指定管理者の候補として相応しいと考える。

○とりまとめを行って、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州市平尾台自然の郷

所 在 地：北九州市小倉南区平尾台一丁目1番1号

開設年月日：平成15年4月20日

公園面積：347,231㎡

施設内容：①施設概要

地域交流館、野草園、展望の丘、ドリーネデッキ、芝生広場、
野外ステージ、果樹園、野外活動広場、遊具広場、キャンプ施設、
駐車施設

②事業内容

自然公園の管理運営、施設及び植物の維持管理、集客にかかる業務

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：ハートランド平尾台株式会社

所 在 地：北九州市小倉南区平尾台一丁目1番1号

主な業務内容：自然や農業をテーマとした観光・レクリエーションの展開

2 指定の経緯

平成30年 9月10日 募集要項配布

平成30年 9月28日 募集締め切り

平成30年10月18日 指定管理者検討会の開催

平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ・法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可。)
- ・本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。

- ・募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)
- ・共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加：1団体 ハートランド平尾台株式会社

応募件数：1団体 ハートランド平尾台株式会社

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会としての検討結果を踏まえ、指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

【学識経験者（緑地計画・植生管理）】 薛 孝夫（元九州大学大学院農学研究院准教授）

【学識経験者（行政評価・地方自治）】 横山 麻季子（公立大学法人北九州市立大学准教授）

【公認会計士】 福地 昌能（福地公認会計士事務所代表）

【民間】 城水 悦子（株式会社洋建築計画事務所代表取締役）

【民間】 横田 きみよ（コンセプトピディア代表）

5 選定基準等

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
	① 市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
	(3) 実績や経験など
	① 同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
	② 施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
	③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2	管理運営計画の適確性
	【有効性】
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。

② 施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
③ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足向上
① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】
(3) 指定管理料及び収入
① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
② 収入が最大限確保される提案であるか。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性
① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
② 経費の配分は適切であるか。
③ 積算根拠は明確であるか。
④ 再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】
(5) 管理運営体制など
① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が十分に考えられているか。
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価 レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）

0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）
---	----	------------------------------

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			構成員						
			A	B	C	D	E		
ハート ランド 平尾台 株式会 社	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	4	4	4	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	4	4	3	3
	(3) 実績や経験など	5	4	4	3	3	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	4	4	4	4	4	4	24
	(2) 利用者の満足度	10	4	3	3	4	4	4	8
	【効率性】								
	(3) 指定管理料及び収入	15	3	3	3	3	3	3	9
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	3	6
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	3	3	3	4	3	3	6
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	4	4	3	3	6	
合計	100	70	68	69	74	71	—	70	
地元団体に対する優遇措置（市内）5点								75	

(2) 検討会における主な意見

- ・アンケート結果を受けて改善したことの事例については、遊び場の近くにトイレが無くて困るという意見を受けて改善している。
- ・若い人の呼び込み・発信については、SNS を使っており、FB やインスタグラムも利用しているところが評価できる。努力項目はホームページの作りやSNS の発信力で、発信回数の頻度はあるが、余り上手に発信できていないことで、内容をもう少し洗練させて#（ハッシュタグ）の使い方なども若者の心をつかむ工夫が必要だろう。
- ・継続して管理している団体であるが、新指定管理期間に向けての取組みが分かり易く説明できており良かった。また、昨今の暑さ対策にも言及している。
- ・インバウンド誘致については、外国人のインフルエンサーを活用して拡散する方法など想定しており、今後は海外にもおおいにPRをしていただきたい。

(3) 検討会における検討結果

ハートランド平尾台株式会社は、平尾台自然の郷を開園以来継続して管理運営をしていることから、維持管理においても十分な経験があり、指定管理者として市の要求水

準以上の適性を有している。また、当該施設の非常に特殊な自然環境を熟知した職員を擁しており、専門知識や意欲を十分持っている。

有効性については、新しい取組みが良く見える発表で、問題意識を持って解決しようとしている姿勢が評価できる。

利用者の満足度を向上させる取組みについても、具体的に様々な方法を実践・提案していることが評価できる。

審査の結果、検討会としてはハートランド平尾台株式会社が指定管理者の候補として相応しいと考える。

7 選定結果

市は、検討会としての検討結果を踏まえ、ハートランド平尾台株式会社を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・ハートランド平尾台株式会社は、平尾台自然の郷を管理運営するために設立された第三セクターであり、施設の管理運営に対する理念、基本方針を十分に理解し、安定的な人的基盤や財政基盤を基に、開園以来の実績や経験を有している。
- ・施設の設置目的の達成に向けた取組みについても、自主事業の強化へ向けた新たな提案も盛り込んでおり、意欲が感じられる。
- ・利用者のニーズに対応し、利用者の満足度を高めるための取組みとしてホームページのリニューアルを掲げており更なる情報発信の強化が期待できる。
- ・当該施設での指定管理業務の実績、経験があり、また、危機管理体制や苦情対応等についてもしっかり提案されていることから、今後5年間の安定した管理運営が期待できる。

8 提案額

平成31年度	154,245千円
平成32年度	154,245千円
平成33年度	154,245千円
平成34年度	154,245千円
平成35年度	154,245千円

提 案 概 要

(北九州市平尾台自然の郷 指定管理者)

団体名： ハートランド平尾台株式会社

1 指定管理者としての適性について

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
<p>理念</p> <p>「自然の中で、人と人が触れ合う」をモットーに、平尾台全体の総合管理と地域振興</p> <p>基本方針</p> <p>地域との連携による地元観光資源の機能充実を図り、グラウンドワークを活用した手作り公園化の推進</p>
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
<p>人的基盤</p> <p>スタッフは自然保護について見識を持ち、日頃から地域住民・平尾台関連団体・地元企業等と緊密なコミュニケーションを図っている、社員補充時は、地域住民・北九州市OB・地元企業OBや平尾台のボランティアなど幅広い分野から、業務内容に適した人材を雇用している。</p> <p>また、スタッフとして若い人材を採用して安定した事業継承を推し進めることとする。</p> <p>財政基盤</p> <p>当社は資本準備金が潤沢で借入金がなく、自己資金で運営が可能である。</p>
(3) 実績や経験など
<p>実績・経験</p> <p>「平尾台自然の郷」の開園準備以来19年間に亘り運営をしており、「平尾台自然観察センター」についても平成12年より19年間経験している。また、両施設の運営を連携させ、並行して行なっており、地域住民・企業を含め平尾台全体を熟知し把握している。</p>

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
<p>管理運営における8つの柱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 着地型観光施設としてのソフトの充実 新たな顧客層開拓に向けて、魅力的なソフトづくりを行なう。 2. 地域との連携による地元観光資源の機能充実 地域ぐるみの協働イベントの実施による地域の活性化、3つの観光鍾乳洞の活用推進、地元工芸品・農産物によるゲストのおもてなし等を行なう。 3. グラウンドワークを活用した手づくり公園化の推進

<p>ガイド事業の充実やボランティア活動のなお一層の拡充を図る。「環境体験コース」の更なる整備を行うと共に各種イベントを誘致する。</p> <p>4. 自主事業の強化の提案 草そり場及びBBQ 広場を新設する。</p> <p>5. 既存コンテンツの充実 各種体験教室及び講座を見直し、充実させる。</p> <p>6. 屋内施設の有効活用 屋内施設のキッズコーナーを拡充すると共に、平尾台紹介コーナーや写真等各種展示場を設ける。</p> <p>7. 植栽の充実 ボランティア個人グループの協力により、園内に自生する平尾台らしい野草を用いて、一年を通して来園者に自然に触れる機会を設けると共に環境保存を行う。</p> <p>8. 地域の防災拠点としての機能強化 災害発生時に孤立化した場合、地域住民及び来場者に対し食糧・生活用品の供給や避難所の提供等による地域の防災拠点としての機能強化を図る。</p> <p>目標入場者数 最低限度の要求水準は275千人であるが、人口推移を鑑みながら前記8つ柱を基に目標入場者数を、5年間平均280千人を確保することを目標とする。</p>
<p>(2) 利用者の満足度</p> <p>1. 快適性の向上 安全・安心・きれいをモットーに維持管理をすると共に、避暑対策を講ずる等サービスの向上に努める。</p> <p>2. アンケート調査の実施 利用者のニーズ把握のため、毎年300～500件以上回答を得ている。 過去平均99%の満足度であり、今後も99%以上を目標とする。</p> <p>3. 利用者からの苦情 苦情は利用者からの期待の表れであるという認識で迅速かつ丁寧な対応に努める。</p> <p>4. 利用者への情報提供 ホームページをリニューアルすると共にチラシ・DMを活用し情報を発信する。また、SNS等を活用した情報提供の充実・強化を図る。</p>

【効率性】に関する取組み
<p>(1) 指定管理料及び収入</p> <p>入場料の徴収 平尾台は、厳寒、猛暑、高地における濃霧や雷の発生など、来場者数は天候に大きく左右される環境である。</p>

様々なイベントを企画して想定通りの入場者確保が困難なことから、想定入場料収入とランニングコストを総合的に勘案した結果、入場料徴収は行わないこととする。

収入増

草そり場及びBBQ広場を新たに開設すると共に事業の見直し等による収益を、集客アップのために広告宣伝費やイベント費に積極的に投資することにより駐車場料金や飲食物販事業の売上増を図る。

経費節減

デマンド計を設置しピーク電力を監視し電気料金を抑制するなど、徹底的なコスト削減を図り、最低限の経費で当施設を運営している。開園後15年経過していることから、施設・機器・その他備品等の老朽化に伴い修繕費用が嵩んでいくと思料されるが、入場者の安全確保に努めながら、今後も削減努力を続けて行く。

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

駐車場料等は、平成30年度収入見込み額を計上するものの、条例改正に伴う改訂としてキャンプ場及びステージ使用料は1.5倍として計上している。

人件費アップ等を勘案し、施設管理業務の機械化を積極的に推進する。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制など

総務部長並びに運営部長以下、管理責任者を配置し管理体制を部署ごとに定めた施設運営を行なう。また、少数精鋭で適材適所の人員配置による管理運営にあたる。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

1. 個人情報保護法等に沿って、運営マニュアルに定めた個人情報保護規定を遵守する。
2. 公の施設であり、常に平等かつ公平・公正な取扱いによる快適な管理運営を行う。
3. 平尾台の地理的条件を十分考慮した、行政機関との緊密な連絡体制を確立する。
4. 日常点検により危険を予知し、未然に事故の危険要因を除去する。
5. 災害が想定される場合には、配備計画による初期対応を行うと共に、事件・事故の場合、関係機関に通報する。

提案額（千円）

31年度	指定管理料 154,245千円
32年度	指定管理料 154,245千円
33年度	指定管理料 154,245千円
34年度	指定管理料 154,245千円
35年度	指定管理料 154,245千円

※提案概要は、提案書の内容を2枚程度（A4）にまとめてください。

平尾台自然の郷指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月18日(木) 9:30~12:45
- 2 場 所 北九州市役所12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 薛(せつ)構成員、横山構成員、福地構成員、
城水構成員、横田構成員
(事務局) 建設局公園緑地部長、公園管理課長、
公園管理課企画係長、公園管理課担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。
- 募集要項等について事務局より説明。
- 各企画提案書について事務局より説明。
- 応募団体より提案概要に関してヒアリング
 - (構成員) 利用者からの要望、苦情は、具体的にはどんなものか。それに対して、草そり場の新設以外で、今回の提案で反映させたところを教えてください。
 - (応募団体) アンケートでたくさんの意見等々があった。例えば、「遊び場の近くにトイレがない」という意見に対し、高原音楽堂の横にあるトイレを改装して、利用者が利用しやすいよう改善している。また、草そり場への要望も多く、「(現在の草そり場が) 駐車場から遠い」という要望に対し、今回「草そり場新設」の提案を入れている。
 - (構成員) 説明の最初に「ソフトの充実」とあったが、新たに来場者を増やすとなると、若い層はとても重要との印象がある。特に、おしゃれキャンプ、キャンプ女子など、最近、インスタグラムなどでも流行っており、新しい市場の開拓まで行かなくても、注目されると思う。ソフトの充実において、若い、特に女性層も含めた人たちに対する新たな取り組み、発信の仕方などを考えているのか。
 - (応募団体) 発信の仕方では、今、インスタグラム、フェイスブック、ツイッター

一等を使った投げかけをやっている。新規の若い男女の取り込みでは、今、臨時駐車場を有料で貸し出し、例えば、カーイベントを誘致したり、今、登山がちょっと流行っているので、若い女性向けに、山登りのイベント等を開催したりしている。

(構成員) 今後の新しい取り組みについて、分かりやすい説明でよかったと思う。それを聞きつつ、2つほど聞きたい。

まず、組織について、役員に行政の方がいるのか。代表取締役は常駐しているのか。常駐してないとすれば、現場のトップは部長になるのか。それに関連して、地元との連携が非常にできている地域だと思うが、地元の方の雇用は全体の何パーセントか。

最後に、提案書に行政との色々な連携について挙げているが、特区に関するところで、民泊とワイン、一番やりやすい地域と思う。それについて、長期的な展望などあれば教えて欲しい。

(応募団体) 社長は常駐している。我々と一緒に週5日は勤務している。そのため、何があっても社長にすぐ相談し、社長の指示の下、動ける体制である。

雇用は、開設当時は地元の人結構いたが、高齢化等に伴い辞めている人も多い。今、社員、パートを含めると、2割程度かと思う。

(構成員) 特区については。

(応募団体) ワインは、ブドウ畑を貸し出している。随時、報告を受けており、今はぶどうのワインだけだが、将来的には、園内で作っているブルーベリーを利用したワイン等も出来ればと考えている。

(構成員) 販売しているのか。

(応募団体) まだ、販売するところまで行っていない。特区に指定されていないため、今期に資格を取って、自家消費から始めたい。

(構成員) 設備増強との説明があったが、これは、市に整備してもらうのか、それとも、自己資金でやっていくのか。

(応募団体) 追加投資については、弊社の準備金から行っている。剰余金を切り崩している。

(構成員) 基本的に自己資金なのか。

(応募団体) そうだ。

(構成員) 平尾台の全体のエリアでの集客プログラムを企画、実施するとあるが、周りの方々の取り組みとの連携、民泊などもあると思うが、どういったことを考えているのか。

(応募団体) 実際やっていることのプラスアルファになるが、現在、指定管理を受けている平尾台自然観察センターと共同で、天体観測や山々をめ

ぐるハイキングイベント等の拡大などを考えている。小さいお子さんから、若いお父さんお母さん、年配の方までが一緒に歩けるイベントをやっていききたい。

(構成員) 集客に関して2つ聞きたい。
インバウンドについて、今、日本に来る外国の方で、日本の公園に行きたい方が多くいる。北九州では平尾台が人気と聞いたが、実情と今後の対応を詳しく聞きたい。
もう一つは、出張教室、アウトリーチについて、すごくいいことだと思うが、今後の具体的な計画があれば教えて欲しい。特に、高齢者対応で入場料、使用料を減免する事よりも、行きたくても行けない方が高齢者には多いと思うので、「お金は出しても良いよ！」という方々に対して、何か考えていることがあれば教えて欲しい。

(応募団体) インバウンドだが、数年前までは旅行社が連れてくる韓国や中国の団体利用が非常に多かった。それが今は少し形態が変わり、インフルエンサーと言うのか、これからの旅行情報を左右するような方が平尾台に来て、キャンプをしたり体験行事に加わったりしている。他には、他の地区ではあまりないと思うが、ハングルナンバーのバイクが来たりする。理由を調べると、韓国では高速道路をバイクが走れない。日本に来れば、韓国ナンバーのまま走れるため、平尾台をまず出発点に、九州一円を高速道路に乗って周る。フェリーで来た最初に来るのが平尾台。それは、キャンプでも、バイクツアーでも、今まで日本人がやってきた平尾台の利用そのもの。韓国や中国の方の旅行に対するニーズも変わってきている。その方向は、これまで平尾台がやってきた方向と一致しており、それを見せて集客を図りたい。

(構成員) アウトリーチ、高齢者については。

(応募団体) 先程も説明したとおり、先日リバーウォークで、そばの出張体験を開催した。過去には、万華鏡の体験や皿倉山と連携したきのご観察会等々も実施している。それが浸透していけばと思っている。

(応募団体) これまでは「平尾台に来て欲しい」とのニーズに対して、訪問してイベントを行い「興味を持って平尾台に来てもらえれば」と思っていたが、最近では、「平尾台を持ってきて欲しい」というニーズが変わってきた。
これまでは、平尾台の休園時は安く、人件費を入れないで展開していたが、ニーズが変わってきたので、もう少し費用をもらわないと難しくなっている。そばの出張体験をしてくれるのは、平尾台のそばを育てる会というボランティアで、コストを抑えてしてくれる。取り組みを今後も続けて行きたいが、料金の仕組みは少し変えたいと思っている。

(構成員) 5年前か10年前に、お酒を洞窟の中で寝かせて販売し、ファンを増やす取り組みがあったかと思うが、その後どうなったか。

(応募団体) 平成15年、16年で一回目の仕込みを行い、順調に消費されている。今、10年酒として販売している。古いのは12年、13年目になる。また、麦焼酎だけだったが、昨年、芋も新たに仕込みをしている。芋と麦を仕込んでおり、2020年に3年間の熟成が終わる。また、新しい焼酎、以前より安い価格で販売する予定としている。

(構成員) どこで販売しているのか。

(応募団体) ショップと無法松酒造、井筒屋で販売している。あと、ふるさと納税の返礼品にも使用している。

(構成員) 若い人たちを取り込む、海外の方へのアピールは、今SNSの拡散がとても影響力があると思っている。見せ方の問題があると若干思っていて、見せ方のおしゃれさをもう少し考慮すると、もっと食いつきが良くなると思う。もったいない気がする。今後、その辺を検討して欲しい。SNSの拡散をもう少し意識して、ハッシュタグの使い方を検討して欲しい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

(構成員) 非常に厳しい自然環境にいることをしっかり認識しており、それに対する具体的な提案もきちんとあった。安全対策では市とも連携おり、大丈夫かなと。

(構成員) 自然環境の位置的な特性を踏まえた上で、それに対応することを積極的に考えている。

(構成員) 有効性では、今後の取り組みに期待というところはある。

(構成員) 課題の解決、現状と過去に対して、問題意識を持った上で考えている印象があった。

(構成員) HPの閲覧数やSNSの発信回数に目標を立てる気はなさそうに感じた。しかし、皆さんの話で少し触発されて考えるかもしれない。

(構成員) この事業そのものが会社の生命線だから、それなりに長期的な計画を立てないといけないことは十分分かっている。それが良く出ている。やらないと生き残れない。

(構成員) チェックしてみると、インスタグラム、HPの更新をきちんとしているが、見せ方がまずい。

(構成員) もうちょっとおしゃれさを出すと、引っ掛かりが増える。

(構成員) この施設が指定管理者対象施設として適切なのかという疑問は残る。厳しい立地条件も含めた特殊な地域にある施設、専門性が必要となる点も含めて、他の団体で替えが効くのかという疑問が残った。

(構成員) 指定管理という制度の中でやろうとしている訳で、しっかりとした1団体が出てくればそれで良い。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて、各自得点を記入。

○ 審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 非常に特殊な(自然)環境であることを熟知している。開園以後、継続して管理運営している。

(構成員) 十分に理解し、問題意識を持って理念や基本方針を定めている。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「管理運営の理念」「実績・経験」の項目が4、「人的・財政基盤」の項目が3が妥当と考える。

○ 審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 新たな自主事業の提案があり、暑さ対策にも言及している点は評価できる。

(構成員) これまでの実績を踏まえて課題化し、取り組んでいる。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「設置目的の達成」「利用者満足向上」の項目が4が妥当と考える。

○ 審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理料及び収入」「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3が妥当と考える。

○ 審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 立地的特性を踏まえて、しっかりと計画している。積極的対策が良

い。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「管理運営体制」「平等利用等」の項目が3
が妥当と考える。

- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

(構成員) 指定管理者制度の対象施設として適当か。高い専門性、継続的管理が要求されるが、5年単位の更新ではよいとは考えない。

(構成員) 自然を楽しむことと、保護することは相反することもあるが、バランスを保ちつつ、北九州市が誇る平尾台を海外にもPRして欲しい。

(全構成員) しっかりとした提案をいただいたということで、合計点70点、地元団体優遇措置（市内）加算の5点を加え、75点としたい。

- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名称：水環境館

所在地：小倉北区船場町1-2

施設内容：①施設概要

延床面積 1,371 m²

河川観察窓、生態水槽、大型モニター、展示類
水上ステージ、シャワー室、キッチンシステム等

②事業内容

川・自然・環境について理解を深め、楽しく遊んで学べる憩いの場として市内外の方々に提供することを目的とする。

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名称：玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体

所在地：北九州市小倉北区堺町1丁目6番15号

主な業務内容：

【太平ビルサービス株式会社北九州支店】

建物の総合管理（清掃・設備・警備・サービス・環境衛生）

【株式会社エコプラン研究所】

自然環境調査業務・環境設計計画業務・野生動植物の保や復元計画および実施業務、環境教育業務・指定管理業務・社会事業

【有限会社カヌースクール九州】

カヌースクール業務、カヌー用品販売業務、水辺の安全管理業務

2 指定の経緯

平成30年9月7日 募集要項配布開始

平成30年9月18日 募集説明会の開催

平成30年10月1日 募集締め切り
平成30年10月12日 指定管理者検討会の開催
平成30年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ① 法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ② 本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③ 募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)
※複数の団体により構成するグループによる応募について
グループでの応募も可能です。その場合は、応募時に共同事業体を結成し、代表団体を定めていただき、上記の要件を、その代表団体に求めます。
なお、共同事業体の代表団体は、構成員中最も業務履行能力の大きい者とし、出資比率は構成員中最大でなければならないこととします。
- ④ 共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加：11団体

応募件数：4団体 株式会社ネイチュアエンタープライズ
北九州みずべ活性化共同事業体
玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体
北九州まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・ [学識経験者] 鬼東 幸樹 (九州工業大学大学院教授)
- ・ [学識経験者] 松本 亨 (北九州市立大学国際環境工学部教授)
- ・ [民間企業] 植田 詩生 (西日本リビング新聞社リビング北九州編集長)
- ・ [公認会計士] 福地 昌能 (福地公認会計士事務所代表)

5 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1 指定管理者としての適性	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など	① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ② 応募団体が施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。 ④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足度	① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。 ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。 ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
(3) 施設および水辺空間の利用促進に向けた取組み	① 施設および水辺空間の利用促進に向けた具体的かつ効率的な提案があるか。
【効率性】	
(4) 指定管理料及び収入	① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。 ② 収入が最大限確保される提案であるか。 ③ 完全利用料金制の場合、市に対して収益の一部を納付する提案があるか。
(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性	① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。 ② 経費の配分は適切であるか。 ③ 積算根拠は明確であるか。

④ 再委託が適切な水準で行われているか。

【適正性】

(6) 管理運営体制など

- ① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
- ② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
- ③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
- ④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
- ⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。

(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
- ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
- ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われるよう配慮されているか。
- ④ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
- ⑤ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準 (= 審査項目) 及びポイント	配点	評価レベル				検討会 審査結果	得点
			構成員					
			A	B	C	D		
株式会社 ネイチ エン タープ ライズ	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	3	3	2	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	4	3	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	2	2	2	3	2	2
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	20	2	2	2	3	2	8
	(2) 利用者の満足度	10	2	3	3	3	3	6
	(3) 施設および水辺空間の利用促進に向けた取組み	10	2	3	2	3	3	6
	【効率性】							
	(4) 指定管理料及び収入	15	3	3	2	3	3	9
	(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	2	3	3	6
	【適正性】							
	(6) 管理運営体制など	10	3	3	2	3	3	6
	(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	3	3	6
	地元団体に対する優遇措置					—		—
合計	100					—	<u>56</u>	
北九州 みずべ 活性化 共同事 業体	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	4	4	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	3	3	3
	(3) 実績や経験など	5	2	2	4	4	3	3
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	20	4	3	4	4	4	16
	(2) 利用者の満足度	10	3	3	3	4	3	6
	(3) 施設および水辺空間の利用促進に向けた取組み	10	4	4	3	4	4	8
	【効率性】							
	(4) 指定管理料及び収入	15	3	3	3	3	3	9
	(5) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	3	3	3	3	3	6
	【適正性】							
	(6) 管理運営体制など	10	2	3	4	3	3	6
	(7) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	3	3	6
	地元団体に対する優遇措置						市内団体	5
合計	100					—	<u>72</u>	

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル				検討会 審査結果	得点
			構成員					
			A	B	C	D		
玄海グリーン &アドベン チャー共同企 業体	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、 基本方針	5	5	4	4	3	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	3	4	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	5	3	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向け た取組み	20	5	4	4	3	4	16
	(2) 利用者の満足度	10	4	3	3	3	3	6
	(3) 施設および水辺空間の利用促 進に向けた取組み	10	4	4	3	3	4	8
	【効率性】							
	(4) 指定管理料及び収入	15	3	3	4	3	3	9
	(5) 収支計画の妥当性及び実現可 能性	10	3	3	3	3	3	6
	【適正性】							
	(6) 管理運営体制など	10	5	4	4	3	4	8
	(7) 平等利用、安全対策、危機管 理体制など	10	4	3	3	3	3	6
地元団体に対する優遇措置		準市内団体					3	
合 計	100					—	<u>74</u>	
北九州 まちづくり 応援団・朝日 広告社共 同事業 体	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する理念、 基本方針	5	3	3	3	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	3	3	3
	(3) 実績や経験など	5	5	3	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成に向け た取組み	20	2	3	4	3	3	12
	(2) 利用者の満足度	10	2	3	3	3	3	6
	(3) 施設および水辺空間の利用促 進に向けた取組み	10	4	3	3	3	3	6
	【効率性】							
	(4) 指定管理料及び収入	15	3	3	3	3	3	9
	(5) 収支計画の妥当性及び実現可 能性	10	2	3	2	3	3	6
	【適正性】							
	(6) 管理運営体制など	10	3	3	4	3	3	6
	(7) 平等利用、安全対策、危機管 理体制など	10	3	3	3	3	3	6
地元団体に対する優遇措置		市内団体					5	
合 計	100					—	<u>66</u>	

(2) 検討会における主な意見

【ネイチュアエンタープライズ】

- ・アウトドアイベントに関しては魅力的な提案であった。
- ・水生生物や環境学習に関するイベントの提案が少なかった。

【みずべ活性化共同事業体】

- ・水生生物の管理に関しては、他施設と連携した企画展の提案や生物飼育の点で実績・意欲に期待ができる。
- ・提案内容はこれまでにない柔軟なものになっており、魅力的である。
- ・事業収入の計画およびイベントの実施については実現性に不安がある。

【玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体】

- ・水生生物の管理・水辺のアクティビティ・施設管理に関して非常にバランスの良いメンバー・提案となっている。
- ・事業についても現実的なものになっており良かった。
- ・提案に新鮮さはあまり見られないが、実績もあり、総合的にみて期待できる。

【まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体】

- ・水生生物の管理に関しては実績がある。
- ・入場料を取ることにについて、想定している入場者数および収入の実現性に不安があった。

(3) 検討会における検討結果

以上の評価点および検討結果を総合的に勘案し、検討会としては玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体を候補としたい。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・水環境館の設置目的及び市の施策についてよく理解しており、また同施設の管理に関する意欲が強く感じられる。
- ・他施設の管理運営に多くの実績があり信頼がおける
- ・水辺のイベント、生物管理に関して強みを持った団体が集まっており、賑いづくりに期待が持てる。
- ・具体的な提案事業、自主事業を提案しており、指定管理料削減に努めている。

8 提案額

平成31年度	24,812千円
平成32年度	24,713千円
平成33年度	24,485千円
平成34年度	24,544千円
平成35年度	24,522千円

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	株式会社ネイチュアエンタープライズ	北九州みずべ活性化共同事業体
1 指定 管理者 として の適正 について	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針 北九州市のシンボル川である紫川において、治水対策と水辺を生かした街づくりを同時に行う都市基盤河川改修事業の一環として整備された水環境館の設置目的を十分に理解し、水環境館のキーワードである「集い」「学び」「憩い」を意識した運営を提案します。</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤 人的基盤:アウトドアや自然体験に精通したスタッフ 970名 財産基盤:モンベルグループ年商75,000,000千円(2017年度) モンベルグループについて ㈱モンベル、㈱ベルカディア、㈱北陸モンベル、㈱ネイチュアエンタープライズ、㈱モンベルホールディングス、モンベルアメリカ・インク、モンベルスイスSA</p> <p>(3) 実績や経験など ・平成19年～ モンベル五條店(五條市所有の国民宿舎閉館後施設) ・平成26年～ 生駒山麓公園(都市公園指定管理) ・平成28年～ モンベル横浜しんやました店(直営店) ・平成30年～ モンベル小倉店(直営店)</p>	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針 ■水環境館の設置目的や施設の在り方、市の基本方針等の施策を考察・理解したうえで、次の運営理念と基本方針を策定し、管理運営に努めてまいります。 〈運営理念〉「Reborn水環境館」～もつとわくわく体験と学び、ほつと憩いの街中空間へ～ 〈基本方針〉1.安全・安心の確保 2.利用者の満足度の向上 3.利用者層の拡充と集客力アップ 4.高水準の維持管理と快適な施設環境の提供 5.地域・他施設との連携と社会貢献</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤 ■当団体代表企業は、昭和58年の設立以来、ビルメンテナンス事業と緑化建設事業を中心に事業展開しており、これまでの公共施設の清掃、警備、設備管理、植栽維持管理等の実績による経験やノウハウはもちろん各種資格者などの優秀な人材も有しているため、万全な体制での総合的な管理運営が実現できます。 ■当団体代表企業は、清掃や設備管理などの作業に必要な機器等を保有しているため、初期投資を最小限に抑えるだけでなく、緊急時の場合などフレキシブルで迅速な対応が可能です。 ■当団体代表企業は、平成14年にISO9001の認証を業界に先駆けて取得し、全社を挙げて顧客満足向上と品質マネジメントの継続的改善への取り組みを行なっております。 ■当団体構成企業の会員には、魚類や昆虫などの生物学・生態学や人類学などのトップ研究者、博物館の学芸員、動物園の園長や獣医、水族館スタッフ、写真家、また環境教育や自然学習に携わる専門家が多数在籍しています。 ■当団体構成企業は、自費出版による図鑑や雑誌刊行をはじめ、オリジナル生き物グッズを制作し、独自の販路開拓で販売に力を入れております。</p> <p>(3) 実績や経験など ■当団体代表企業は、指定管理業務として、①平成18年度より志井ファミリープール、②平成19年度より福岡県営中央公園、③平成23年度より北九州パレス、④平成26年度よりグリーンパーク、⑤平成29年度より勝山公園・あさの汐風公園を受託しております。特に福岡県営中央公園においては、これまでに4度のA評価を頂いております。 ■当団体構成企業は、水環境館では高校の部活動時代に開館4か月後から約11年間かかわり、生体展示をスタッフとともに担当。紫川を中心とした50数種の水生生物の常設展示、さまざまなテーマで夏休みなどに11回の企画展を開催しました。現在では、写真展開催や講演会、コラボレーション企画を当施設と展開中です。 ■当団体構成企業は、展示の能力を買われて、専門的な施設である北九州市立いのちのたび博物館の特別展において地元生物調査をもとにした展示を依頼された実績があります。</p>

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	北九州まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体
1 指定 管理者 として の適正 について	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針 ■本市の、環境保全政策を理解し、北九州市SDGs未来都市計画へ、水環境館の設置目的を推進します。 ■北九州市の環境政策や街づくりを推進していくため、共同企業体の5つの理念を掲げ、指定管理業務テーマ「川と人と街」がつながり、真に豊かな社会を拓く、流心となる施設を目指す。掲げます。 ■指定管理業務を推進する5つの基本方針を掲げます 1.入館者・利用団体の充実した活動、憩いの場を提供できる施設づくり 2.利用者・利用団体第一主義の施設づくり 3.効率的、効果的なマネージメントの推進 4.地域・他施設・団体との連携強化 5.平等・安全・安心の施設づくり</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤 ■共同企業体は、水環境館の管理を推進する有為な人材を有しています。また施設運営を支えるNPO、企業、教育団体、全国組織等とのネットワークを構築しています。 ■共同企業体を構成する3社は、毎年安定した経営利益を計上しており、共同企業体の財政基盤は良好安定しています。</p> <p>(3) 実績や経験など ■共同企業体は平成19年度より北九州市立玄海青年の家指定管理業務を受託し、現在、かぐめよし少年自然の家(平成29年度)もじ少年自然の家(平成25年度)ユーザーステーション(平成28年度)の4施設を管理運営させていただいております。 ■共同企業体は類似施設の指定管理業務、委託業務の経験を多数有しています。</p>	<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針 【理念】平成28年2月に公表された『小倉城周辺魅力向上事業基本計画』で設定された3つのゾーンのうち、市民の憩いと交流ゾーンにおいては、勝山公園のにぎわい強化とともに、「水環境館のリニューアル」によるにぎわい・交流拠点の整備があげられている。小倉城周辺一体の魅力向上によって水環境館への集客力を高めるとともに、北九州市民のシビックプライドを高めて「地域力」の向上を促進する。そのため、ヒト・モノ・コトを通じて新たな「つながり」をつくり、育まれた郷土愛によって、ますます魅力が増す施設づくりを進めていく。 【基本方針】その理念の実現のために、共同事業体を結成し5つの基本方針をたて運営していく。1)魅力の最大化と発信力の向上。2)利用者の満足度向上に資するおもてなし力の強化・改善。 3)北九州市民のシビックプライドの醸成。4)地域ネットワークの利活用。 5)徹底した安全・安心の管理運営。</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤 【人的基盤】北九州まちづくり応援団・朝日広告社 共同事業体は、北九州まちづくり応援団・朝日広告社の共同事業体で、まちづくり事業や各種プロモーション、広告宣伝活動、施設管理などの専門家構成された事業集団です。まちづくり応援団のこれまでの「水環境館・小倉城・庭園」運営管理の経験と実績に加え、更にインバウンド対応などの環境変化にも対応し、的確な情報発信による集客、施設を含むゾーンのブランディング力を向上させる為に、専門的知識・スキルを持った団体と共同で推進していく。 【財政基盤】代表団体である北九州まちづくり応援団は、これまでの3期に渡る指定管理運営の中で黒字体質を維持できるようになった。その結果として、次の指定管理立上げのためのキャッシュフローは確保できている。共同事業体を構成する2社の資本金の単純総和は1.82億円、現預金は8億円超であるが、それを背景にしたながらも、その資金に頼らず、確実に収益が上がり、プラスの循環がまわる仕組みを構築する。具体的には、入場料、キッチンスペースを活用した事業、新たな有料企画などで収入を確保していく。</p> <p>(3) 実績や経験など 北九州まちづくり応援団は、指定管理業務がスタートした平成18年4月から、水環境館/小倉城/小倉城庭園を3期13年に渡り、運営管理してきた。水環境館については、多種イベントを積み上げながら、教育の場としての機能を追及してきた。入場料無料とはいえ、常に16万人を超える入場者を迎え入れてきた。朝日広告社は、これまで北九州市をはじめ、地元団体からの委託を受け、多種多様なプロモーションやブランディングを手がけ、十分な実績をあげてきた。</p>

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	株式会社ネイチュアエンタープライズ	北九州みずべ活性化共同事業体
2・管理運営の適確性	<p>【有効性】に関する取組み</p> <p>(1) 施設の設定目的の達成に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紫川流域でのアウトドアイベントの企画、開催 ・水環境館展望ギャラリースペースでアウトドアセミナーの開催 ・アウトドア用品の展示によるにぎわいづくりの提案 <p>(2) 利用者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対して「アンケート」を行い、意見把握に努めるとともに施設運営向上に役立てます。 ・苦情対応は、お客様の信頼が再び得られるよう誠意を持った対応を心がけます。 ・アウトドアアクティビティをより快適に楽しんでいただくために水上ステージやシャワーブースを有効に活用します。 	<p>(1) 施設の設定目的の達成に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■管理運営の理念や基本方針を踏まえて、次にあげる1～5の具体的な取り組みを推進します。 1.学ぶ：水環境館発の自然学習・環境教育などの学びの拠点 2.体験する：カヌーやさまざまなスタイルで紫川などの自然を体感 3.憩う：まちなかでホッと憩うことのできる空間 4.発信する：積極的な自然情報発信拠点 5.共生を考える：SDGs推進・生物多様性保全を考える拠点の一つへ <p>■さらに上記の取り組みの際は、「つなげる」「広げる・深める」の2点を念頭に置いて進めます。</p> <p>■最低限度の要求水準である入場者数180,000人を超える184,000人(5年平均)を目指し、これまでの公的施設の管理運営経験によるスキルを駆使して、目標を達成します。</p> <p>■企画展示や自然体験・自然学習、カヌー体験、川流れ体験、無料Wi-Fiやカフェ・セレクトショップの設置、水上ステージを利用した憩いと賑わいの空間、館内の大型液晶モニターを利用した自然・環境ドキュメンタリー映画の上映など、様々な取り組みを通して利用者増と利便性向上に努めます。</p> <p>■ホームページのリニューアルに伴い、市と協議のうえ、現代社会における、更なる利便性向上の取り組みとして、ウェブアクセシビリティへの取り組みを検討します。</p> <p>■リニューアル・オープンを最大の好機と捉え、案内フライヤー(チラシ)の配布や掲示、SNSの活用など、広報力を強化し、利用促進と集客力のアップに努め、多彩なツールを活用した、積極的かつ包括的な広報活動ができる体制を築きます。</p> <p>■定期広報誌である「水環境館便り」をブラッシュアップし、水環境館ならではの情報提供をこれまで以上に推進していきます。</p> <p>(2) 利用者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用者が居心地良く快適に過ごせるよう「安全・安心・快適」を最優先に確保しつつ、「選択と集中」の観点に基づき、現状を踏まえながら、より効率的で効果的な管理運営を目指します。 ■アンケートの実施やご意見箱の設置などにより、利用者の意見や要望を積極的に収集し、ニーズとウオッチの把握と施設管理の改善につなげます。 ■利用者からの意見はPDCAサイクルに基づき、「分析・評価、検討、具体策立案、実行」を実践することで、継続的改善を図ります。 ■利用者からの苦情については、迅速かつ誠意を持って対応し、改善策と苦情の未然防止と再発防止に努めます。 ■利便性とサービス向上のため、多彩なツールでフレッシュな情報提供に取り組みます。 ■ホスピタリティ溢れる接客サービスとおもてなしの精神で、利用者にとって気持ちの良い環境づくりに取り組みます。 ■利用者目線による充実したサービスの提供に向け、利用者のご貴重な意見を吸い上げ、問題点を改善していくことで、行きたくなる、行ってみたくなる、魅力ある施設づくりを構築いたします。

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	北九州まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体
2・管理運営の適確性	<p>【有効性】に関する取組み</p> <p>(1) 施設の設定目的の達成に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■管理運営に関わる明確な目標設定とその適正な改善を行います。そのため、15の管理運営方針と実施策(アクションプラン)を掲げます。 ■学校・企業等、利用団体の入館目標を最優先にした公平等利用に基づく受入れ事業を実施します。プログラムには適正な職員を配置し、展示物を使ったインターアクトや、紫川でのカヌー体験など、館内と河川空間を結び付けた新しい活動を展開します。 ■提案事業は、学校・市民センター等へのアウトリーチ(講師派遣)や水環境館オープンディ「あそび」においてよ！紫川・川の駅」紫川の河川清掃事業「クリーンアップ紫川！カヌー100隻大作戦」等を開催します。 ■水環境館で活動するボランティア養成事業をスタートし、環境教育や人づくり、館内事業に関わる市民を募集し、活動の場を提供します。 ■自主事業は、河口域でのカヌーやEポート体験、中流域長行地区での、生き物探し。源流域での夏季キャンプ等を開催します。 ■川の活動に関わる指導者養成事業をスタートします。川の指導者や環境教育、カヌーの指導者を育成し、河川自然体験活動をけん引する市民を育成します。 ■プログラム開発は1.コミュニケーション能力の向上 2.環境教育 3.安全教育的の3つの柱に体験学習法の手法を使い、教育的効果の高い魅力的なプログラムを開発します。 ■2023年度利用者目標、延人数200,000人を目指し、施設管理手法を駆使して目標を達成します。 ■利用者増加にむけ、ホームページやチラシ・ポスター等の紙媒体を駆使し、総合的な広報活動を強化して利用促進を強化します。 ■広報宣伝力の強化のため、SNSを利用しリアルタイムな情報発信を行い、利用者への様々な施設利用に関する情報提供を推進します。 <p>(2) 利用者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用者の声を施設管理に生かすため、アンケートや職員の聞き取り調査を行い、PDCAサイクルを用い速やかに施設管理の改善につなげます。 ■利用者からの苦情に対し、真摯な態度で対応すると同時に、その苦情に対し速やかに謝罪・改善を実施します。そのため苦情解決マニュアルを策定します。 ■当施設の利用者サービス向上を図るため、プログラム開催時に企業体の教育資料やマイクロバスなど提供、また予算化による用具購入を行い、多様な活動が可能な施設を目指します。 ■エレベーターや障がい者用トイレ、また赤ちゃんの駅等、誰もが快適に利用できる施設としてホームページで施設利用に関する情報を発信します。 ■誰もが快適で安心して滞在できるように、常に施設内を清潔に保つようクレンネスに努めます。 	<p>(1) 施設の設定目的の達成に向けた取り組み</p> <p>5つの基本方針のもと、施設をとりまく環境や課題を見つめ、それぞれ基本施策を設定し、複合的な取り組みによって施設の魅力を最大化していく。内容の一部を下記する。</p> <p>【周辺一帯の魅力向上】周辺一帯の魅力向上を図ることで、水環境館にも来てもらい、川を知ってもらい、我がまちに誇りを持ってもらう。街のにぎわいづくりの中核施設としての役割を果たす取り組みを強化していく。</p> <p>【くつろぎ空間への進化】施設情報の効果的な発信の工夫、外国人にもきてもらえるようなサービスを充実させる。例えば、手荷物預かり、充電サービス、Wi-Fi環境サービス他、利用者の利便性を図る。</p> <p>【インバウンド集客強化施策】北九州の水環境改善の歴史を学ぶ場として、新たに整備し、その、情報の発信による小倉への興味喚起・旅行促進を図る。</p> <p>(2) 利用者の満足度</p> <p>引き続き、来館者アンケートを実施し、満足度90%以上を目指し、来館者の生の声を積極的に載けるよう日々努力していく。その意見を反映する仕組みとして、新たにサービス向上会議を定例開催し、関係者で現状を共有すると共に、サービスのクオリティ向上に向けた対策を実施する。来館者からの苦情に対しては、苦情発生時に施設スタッフが迅速な対応ができるように対策マニュアルを作成する。更にスタッフのレベルアップのための研修カリキュラム作成を進める。</p>

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	株式会社ネイチュアエンタープライズ	北九州みずべ活性化共同事業体
2. 管理運営の適確性	<p>【効率性】に関する取組み</p> <p>(1) 指定管理料及び収入 入館料は利用者サービスの継続性から引き続き無料とします。 アウトドアイベント及び自動販売機収益の一部を指定管理料減額に充当します。</p> <p>(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性 支出は従来の実績額を勘案し施設改修を考慮して設定しております。 (消費税増税は考慮していません。)</p>	<p>(1) 指定管理料及び収入 ■市民のサービス向上と経費の削減という、一見すると相反する要素を実現させるため、経費削減を推進する項目と、経費の充実を図る項目とを区分した収支計画を立てております。 ■当団体はこれまで公共施設などの施設管理運営に積極的に携わってきた実績があるため、特殊な技術が必要とする業務以外は再委託費に頼らない、内製による運営が可能です。 ■作業に必要な機器類をはじめ、多数の経験豊富かつ即戦力のある人員をも確保している点など、当施設の維持管理におけるほぼすべての業務を自前で実施できることから、初期投資を最小限に抑えつつ、高品質な維持管理と支出コストの低減の両立も実現いたします。 ■スタッフのマルチジョブ化(多能化)により、効率的な人件費の運用を実現します。 ■廃棄物の減量や、節電・節水・モノを大切にするなど、省エネと環境への意識向上を図ります。 ■当施設は、市民にとって無料であることが定着していることから、入館料は現行の通り料金をとらない無料化の継続を提案します。一方で『水環境館』での取り組みを展開するうえで、有料事業の可能性を意識しつつ、様々な事業を企画し実施して参ります。 ■カフェとセレクトショップの運営やカーニバル体験などの体験事業、観察会をはじめとする自然学習事業などの野外活動での参加費徴収、水上ステージやデッキを使った門司港地ビール連携企画の夏季限定「川ビアテラス」、春・秋の「川カフェ」、紫川シネマなど来場者増加と収入の確保に向けた取り組みを行ないます。</p> <p>(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性 ■これまでの実績と経験から、堅実な収支計画を立案しており、実現性の高い予算編成となっています。 ■提案事業(カフェ含む)による収入においては、当団体のこれまでのイベント運営実績による指標を基に計画し、期待値などによる過度な見込みとならないよう、妥当性に配慮しております。 ■支出については、収入と同様、これまでの当施設での経験と実績が指標となっており、過度・過小なものとならないよう適正かつ堅実な積算を行なっております。 ■経費低減の取り組みについては、初年度はできるところから、施設の状況や利用特性を把握できた2年目以降は抜本的および細部の削減策を実行いたします。 ■できるだけ内製化を図りますが、機械管理や定期点検等の専門的技術が必要とする業務、再委託とする方が効率的な業務などについては、業務の再委託を行ないます。</p>

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	北九州まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体																														
2. 管理運営の適確性	<p>【効率性】に関する取組み</p> <p>(1) 指定管理料及び収入 ■利用者サービスの向上と経費削減を両立させるべく、費用対効果の向上を目指します。 ■充実させる経費と費用削減を進める経費を区分した経費運用を行います。 ■これまでの経費縮減実績に基づいたさまざまな施策により、効率的な運営を実現します。 ■共同企業体本部のバックアップにより、指定管理料だけでは実現できないサービスを提供します。 ■職員の待遇を整備し、安心して勤務できる環境を構築します。 ■当共同企業体が管理する他の青少年施設職員との連携を進めます。 ■収入確保のため、様々な事業を展開します。紫川のポテンシャルを活かした魅力ある活動を市民へ提供します。 ■自主事業で発生した収益は、指定管理業務へ充当し、施設サービスの向上へ役立てます。</p> <p>(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性 ■これまで当市の施設を管理してきた実績と、共同企業体を持つ豊富なデータから収支計画を立案しており、実現性の高い予算となっています。 ■人件費は優秀な人材確保のため充実した予算としてします。給与水準については各種統計データと照らし適正な金額としており、安心して働ける職場とします。 ■各種規定を作成して厳格な予算執行体制を実施し、適正な運営を行います。 ■正確な計数管理と多重チェック体制の構築により運営状況を的確に把握して、スピーディーな運営に繋がります。</p>	<p>(1) 指定管理料及び収入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H31年</th> <th>H32年</th> <th>H33年</th> <th>H34年</th> <th>H35年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入場者数(人)</td> <td>80,000</td> <td>85,000</td> <td>90,000</td> <td>95,000</td> <td>100,000</td> </tr> <tr> <td>管理運営費(千円)</td> <td>30,888</td> <td>30,132</td> <td>29,592</td> <td>28,836</td> <td>28,620</td> </tr> <tr> <td>使用料収入(千円)</td> <td>7,886</td> <td>8,380</td> <td>8,916</td> <td>9,411</td> <td>9,942</td> </tr> <tr> <td>指定管理料(千円)</td> <td>24,000</td> <td>23,000</td> <td>22,000</td> <td>21,000</td> <td>20,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性 【収入見込みにおける計画】 まちづくり応援団様を中心とした共同事業体のこれまでの経験と実績から算出し、実現性の高い数値と考える。乗客のノウハウや創意工夫を最大限発揮することで、収入の確保に努める。 【支出見込みにおける計画】 まちづくり応援団様を中心とした共同事業体のこれまでの経験と実績が指標となり、それが積算根拠に結びついている。内部取り込みによる費用削減、費用対効果の徹底検討など進める。</p>	項目	H31年	H32年	H33年	H34年	H35年	入場者数(人)	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	管理運営費(千円)	30,888	30,132	29,592	28,836	28,620	使用料収入(千円)	7,886	8,380	8,916	9,411	9,942	指定管理料(千円)	24,000	23,000	22,000	21,000	20,000
項目	H31年	H32年	H33年	H34年	H35年																											
入場者数(人)	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000																											
管理運営費(千円)	30,888	30,132	29,592	28,836	28,620																											
使用料収入(千円)	7,886	8,380	8,916	9,411	9,942																											
指定管理料(千円)	24,000	23,000	22,000	21,000	20,000																											

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	株式会社ネイチュアエンタープライズ	北九州みずべ活性化共同事業体
2. 管理運営の適確性	<p>【適正性】に関する取組み</p> <p>(1) 管理運営体制など 管理責任者1名を含む4名の運営体制とし、市の担当部署及び、関係者との連絡調整等が可能なスタッフが必ず1名常駐します。</p> <p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など 平等利用について ユニバーサル社会の実現として、年齢、性別、障がいの有無、国籍などを問わず、ダイバーシティの視点にたち、誰もが安全で快適な利用ができる施設を目指します。</p> <p>安全対策について 施設内の整理整頓・定期点検と維持修繕に努め、スタッフによる施設内巡回を実施し、利用者の安全確保に努めます。</p> <p>危機管理体制について 事故や緊急時の連絡体制は、北九州市担当課はもちろんのこと、所轄の警察、消防とも密接な連携を図るようにします。</p>	<p>(1) 管理運営体制など ■当団体から構成されるサポートチームによって、現地のバックアップを行なっています。</p> <p>■管理事務所を常時2名以上の体制とし、「マルチジョブ化」を推進するとともに、緊急時の場合は団体本部から現地に派遣いたします。</p> <p>■統括責任者には、当団体構成企業の法人会員である当施設の現館長を予定しています。また、副館長(館長補佐)は、当施設および生体管理に詳しいNPO法人 北九州・魚部から選任します。</p> <p>■当施設に関わる職員全員に、「接遇研修」「救命講習」の受講を義務付け、きめ細かな心遣い、緊急時の迅速な対応、個人情報保護や平等利用など法令を遵守した対応等、様々な役割を幅広く行えるよう教育いたします。</p> <p>■接遇研修の実施や、各種資格などの取得支援など、職員の資質向上に取り組みます。</p> <p>■これまでの管理運営で培った、地域・学校・関係団体・関連施設などとの連携や協働をさらに強化し、様々な取り組みを行ないます。</p> <p>■「SDGs未来都市」の実現を目指す北九州市の取り組みに、水環境館としても生物多様性保全や人と自然のかかわりの面から貢献していきます。</p> <p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など ■北九州市個人情報保護条例およびその他関係法令を遵守し、改正個人情報保護法にも対応した、プライバシーポリシーや個人情報保護規程を制定したうえで、個人情報の厳重な管理と適切な取り扱いを行ないます。</p> <p>■施設の設置目的や役割を十分に認識し、誰もが気軽に施設の利用及びイベントへの参加ができるように、公共性(公益性)を確保して参ります。</p> <p>■接遇などの教育研修による職員への意識啓発に努め、中立性を堅持する管理運営をいたします。</p> <p>■人権啓発推進に努め、不当な差別的取り扱いのない施設運営に取り組みます。</p> <p>■高齢者や障がいのある方、小さなお子様、外国人など、多様な方々への配慮に努め、誰もが利用しやすい環境づくりに努めて参ります。</p> <p>■プリメンテナンス(予防保全)を徹底し、あらゆる事故の未然防止と、機械設備の長寿命化に取り組み、「安全・安心・快適」に利用できる施設づくりに努めます。</p> <p>■生体水槽は、日常点検のほか、適宜、淡水魚及び機器の知識を有する者が直接点検と水槽の清掃を実施し、各水槽の水質管理及び、魚種ごとの飼育・繁殖を適切に行なうことで、生態系の保護と観察・調査に寄与いたします。</p> <p>■飲食を提供することから、病原性大腸菌(O-157)やサルモネラ菌などの「細菌性食中毒」には十分注意し、スタッフには食中毒予防の3原則など衛生に関する啓発・教育・指導を行ないます。</p> <p>■「安全管理マニュアル」を作成し、事故発生時の迅速な対応を可能とするとともに、「災害対策マニュアル」と「災害対応マニュアル」を作成することで、災害発生時の危機管理体制の明確化と対応方法の明確化に取り組みます。</p>

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	北九州まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体
2. 管理運営の適確性	<p>【適正性】に関する取組み</p> <p>(1) 管理運営体制など ■指定管理期間、3ポスト・6人体制とし、施設運営を行います。また必要に応じて、企業体からの人員派遣も行い安全安心、魅力的なサービスの提供を目指します。</p> <p>■職員は施設の管理能力を有した人材を配置します。環境施設運営に習熟した現在の職員を配置することで、安定した管理が可能です。</p> <p>■職員の資質向上のため、計画的、定期的に研修を行います。全職員が身につけるべき研修目標、取得すべき資格を明確にして職員研修を実施します。</p> <p>■地域との連携については、施設周辺の店舗や、企業、団体、学校へ施設活動の協力を仰ぎます。そのため、地域との連携を図る、「水環境館協議会」を設置し、利用者利用団体からの意見を施設管理に反映させます。</p> <p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など ■北九州市個人情報保護条例を遵守した個人情報保護に対する具体的な取り扱いを行います。</p> <p>個人情報情報は、職員研修を実施し取り扱いマニュアルに沿って管理します。</p> <p>■利用者利用団体へ公平で平等なサービス提供に向けた二つの基本方針を掲げ、人権尊重のための職員研修を継続します。</p> <p>■障害者基本計画、障害者差別解消法を理解し、不当な差別扱いの禁止、合理的配慮の提供を遵守し徹底します。</p> <p>■福岡県暴力団排除条例等の関連法令に基づき、公の施設から、暴力団の利益となる利用を排除、また利用拒否を徹底します。</p> <p>■危機管理については日常業務の安全管理を基本とし、プログラム提供時、施設整備、職員トレーニング、食中毒、病気対策等に対応するマニュアルを作成し、年1回の安全大会や日々の会議において安全管理研修を実施し、安全安心の施設・プログラム提供を実現します。</p> <p>■事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、利用者の安全を優先的に確保すると同時に、リスク低減対策、回避行動を迅速に行います。また事故の原因を究明し、事故の再発防止に努めます。</p> <p>■北九州市地域防災計画に基づき、防災時のための対応策は職員研修を徹底し、非常時にスムーズな対応ができるように訓練します。また迅速に対応できるようマニュアル整備を実施します。</p> <p>■水環境館は河川に隣接し、かつ地下に位置するため、洪水やゲリラ豪雨に対応する浸水対策訓練を実施し、災害時に速やかに行動できるよう努めます。</p>	<p>(1) 管理運営体制など</p> <div data-bbox="877 1377 1436 1758" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> </div> <p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など 以下のしくみ構築と確実な実施を進める。 ・プライバシーポリシー(個人情報保護方針)の制定、 ・公共性(公益性)の確保。 ・予防保全の徹底。 ・事故災害発生時の迅速な対応。</p>

水環境館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目		株式会社ネイチュアエンタープライズ	北九州みずべ活性化共同事業体	玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体	北九州まちづくり応援団・朝日広告社 共同事業体
指定 管理 料	H31	24,570千円	24,994千円	24,812千円	24,000千円
	H32	24,570千円	24,883千円	24,713千円	23,000千円
	H33	24,570千円	24,770千円	24,485千円	22,000千円
	H34	24,570千円	24,696千円	24,544千円	21,000千円
	H35	24,570千円	24,686千円	24,522千円	20,000千円
	平均	24,570千円	24,806千円	24,615千円	22,000千円

水環境館 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 10 月 12 日（金） 13:00～17:00
- 2 場 所 北九州市役所 141 会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 鬼束構成員、松本構成員、植田構成員、
福地構成員
(事務局) 建設局河川部水環境課長、企画調整係長、職員
- 4 会議内容
 - 施設の概要、検討員について、事務局より説明
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 応募団体 (株式会社ネイチュアエンタープライズ) より提案概要に関してヒアリング
 - (構成員) 魅力ある水槽生物の展示を行うとのことだが、どのような方に監修を行ってもらう予定なのか教えていただきたい。
 - (応募団体) 具体的なところはまだ決まっていないが、社内に生物系の大学を出て詳しいものがある。先日、紫川を下流から上流まで歩いてみた。紫川の生態系の変化についての展示を考えていくつもりである。
 - (構成員) 事業としてアウトドアの教室を開くとのことだったが、それ以外に環境学習施設としてのイベントは考えているか。
 - (応募団体) 生物環境のことを勉強してもらおうつもりである。これから地元の人脈を広げながら、イベントスペースを活用してのワークショップなどを考えている。
 - (構成員) 様々な施設での経験値があるとのことだが、グループとしてのものかネイチュアエンタープライズとしてのものか。
 - (応募団体) 説明したのはグループとしてのものである。ネイチュアエンタープライズとして特化しているものは、行政などに対するアウトドアのノウハウを使ったコンサルティング事業や、雑誌の出版などである。
- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入

○ 応募団体（北九州みずべ活性化共同事業体）より提案概要に関してヒアリング

（構成員） 施設の管理の実績はあるのか。

（応募団体） 魚部の事務所が小倉北区役所の横にあるが、そこで常時 100 種類以上の生物を飼育している。また、いのちのたび博物館では、昨年、1 ヶ月間にわたって、日本に生息する全種類のドジョウを飼育して、最後まで維持管理できたという実績がある。また、岡崎建工として、5 つ指定管理業務を行っており、その中でも 2 つは単独で施設の管理を行っている。

（構成員） モンベルとイベントの連携をする約束をしているとの説明だったが、具体的にはどのようなものか教えてほしい。

（応募団体） まだきちんと約束を交わしたわけではなく、以前お会いしたときに話を交わした程度である。

（構成員） いくつかの博物館との連携の実績があるとのことだが、そのようなネットワークを水環境館で活かすようなことを考えているか。

（応募団体） 考えている。豊田蛍の里ミュージアムと共同でミニ企画展の交換、お互いの施設の展示や、大阪自然史博物館と連携し、オリジナルグッズをお互いに置いたりなど、これから考えていきたい。

（構成員） 水辺のイベントをする上では安全上の管理が必要となると思うが、みずべ活性化共同事業体自体で、カヌー経験・安全管理の資格を持っている人はいるのか。

（応募団体） 私が以前屋久島の環境文化財団の環境学習に従事しており、そこで救急救命講習を受けている。また、われわれの会員の中でカヌースクールを受講している者、免許を持った者がいる。また、モンベルと共同でプログラムを作成し安全管理を徹底したい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入

○ 応募団体（玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体）より提案概要に関してヒアリング

（構成員） 入場者数を最終的に 2 割増しにしたいとのことだが、それまでの過程を再度教えていただきたい。

（応募団体） 提案書に 5 ヶ年の入館者数の計画を策定しているが、1 年目の指定管理業務ではスタートであることから準備を進め、3 年後ぐらいから入場者数の増加を見込んでいる。広報活動を重視し、HP 等を様々なコンテンツを入れながら、いろんな方たちに見ていただける、新しい情報になっているものを整備したい。また、チラシ等を小学校全体に配るなど地道な活動を 1 年目に行いたい。

（構成員） p.12 に水槽管理を最低限にするとの記載があるが、どの程度削減するのか、また空いたスペースの活用方法は。

（応募団体） 水槽の数についてはこれから水環境課と協議して決めていきたい。極端に減らすことは考えていない。紫川、北九州市の河川に触れていただくことは重要だと考えているので、施設の規模と北九州の河川の特

性などを考えて計画を立てていきたい。

(構成員) 学校等の受け入れ事業について、すでに学校ごとに見学に行く施設が決めてあると思うが、その中で新たに水環境館に見学に来てもらうことは難しいのではないかと思うが、そのあたりについてどのように考えているか。

(応募団体) 教育委員会さんと話をしながら決めていきたい。市内のみならず市外の見学も増やしたい。現状お越しになっている団体さんへのサービスをまずは上げていく。それを広げていくためにはご案内の書類を作って福岡県内の小中学校に配布するなど広報の活動をしながら地道に増やしていく。また、企業・団体についても HP 等でアピールしながら、現状で 90 団体受け入れているものを 120 団体まで増やしたい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入

○ 応募団体(北九州まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体)より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 入館料を徴収するとのことで、目標人数を 8 万人と設定しているが、その積算根拠を教えてください。

(応募団体) かつて入場料を取っていた頃の入場者が約 7 万人であり、今回、周辺の賑いづくりをやっていくので、その効果も見込んで 8 万人は可能であろうとの想定である。また、5 年度の 10 万人の目標値についてはいろんな仕組みが整い、魅力を増していきながら達成していこうとの思いで設定している。

(構成員) これまで長く運営してきた中で、どういった課題があると考えているか。

(応募団体) 1 つには入口が分かりづらいということがある。今度のリニューアルで看板が更新されると聞いているので、大丈夫だと思っている。2 点目は展示しているものを説明できるスタッフの能力が少し不足していることがある。今年の春から入ったスタッフが活躍しているので、期待している。3 点目は接続している井筒屋の地下からは出入りが少ないこと。リニューアルされてから館内での飲食が可能になっているので、井筒屋で買ったものを水環境館に持ち込むことは可能であるが、なかなか皆さんに認知されていない。お互いの良さを相乗効果として出せていないので、今後の課題である。

(構成員) 入場料を新たに取ること自体は問題はないと思うが、入館者数確保のための魅力的なイベントについて具体的に教えてください。

(構成員) キッチンを一般開放するとしているが、飲食業者に入ってもらえるものか、デパートの祭事のようにイベント的に使うのか、団体へ貸し出してパーティーのように使うのか、具体的に教えてください。貸切を考えているとのことだが、そのときに一般の方とはどう区別するのか、教えてください。

(応募団体) 土日祝日の利用の多い日については、商工会議所で実績のあるように

スタートアップ支援として、安い利用料金で貸し出して、今から飲食店を始めたい方に向けてポップアップストアとして活用したい。うまくいけば定着していただいても良い。平日に関しては飼育員が対面で販売して、生物のコラムなどを話しながら、来館者とよりコミュニケーションを取れるような運用を考えている。貸切については水環境館閉館後、一般の方が入れない時間帯で行う予定である。具体的には今後検討していきたい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

(構成員) ネイチュアエンタープライズについて、北九州のこと、環境・水生生物についての提案が少なく、アウトドアのイベントに偏りすぎている。

みずべ活性化共同事業体について、若者の提案であるだけにこれまでにない柔軟なものになっている。ただ、NPO 法人としての発足から間がないことから、管理運営がきちんとできるのか不安がある。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体についてはこれまでの運営実績があることから運営については不安がないため高く評価している。これまでやってきた事業内容から大差がなく新鮮さに欠けるところはある。

まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体について、入館料を取るということだが、想定している金額を徴収できるか、不安がある。

(構成員) ネイチュアエンタープライズについて、アウトドアについてのイベントは魅力的な提案があったが、環境学習施設としてのイベントの提案については具体性がなかった。

みずべ活性化共同事業体については、水生生物に関しては非常に経験を持っており、意欲を感じた。ただし事業収入を1千万円以上計画している点について、実現性に不安があった。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体について、非常にバランスの良いメンバー・提案となっていた。事業についても現実的な提案となっており良かった。水槽の削減の話があったが、魅力が減らないか懸念がある。

まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体について、150 円の入館料を取るための実現性について提案がなかった。水生生物に関しては実績があるようだが、新しい提案がなかった。

(構成員) ネイチュアエンタープライズについてはアウトドア中心であり水生生物についてはあまり関心がないようだった。

みずべ活性化共同事業体については提案が具体的であったので一度運営をやってもらおうと面白いのではないかと。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、カヌー系には

強いが生態系についてはあまり強みがないように感じた。

まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体については、入館料を有料としながら、入館者数が減る上に指定管理料もそれほど削減されていないのでは、何のための有料か分からなかった。

(構成員) ネイチュアエンタープライズについて、アウトドアイベント中心となっており、室内イベントについてはほとんどなかった。

みずべ活性化共同事業体について、熱意は非常にあり感心したが、施設管理の面からすると少し不安があった。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については室内・室外の提案についてきちんと提案しており、発表に対する準備がしっかりされていた点も評価できた。

まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体については、現在無料の入館料を有料にして、過去有料だったとき（平成13年～15年）より入館者数が増えるの見込んでいる点に現実性に疑問を感じた。

○ 審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

○ 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

(構成員) ネイチュアエンタープライズについてはアウトドアイベント中心の提案であり、水生生物や環境学習に関するイベントの提案が少なかった。

みずべ活性化共同事業体について、発想が面白く、生物飼育の点で実績・意欲に期待ができるが、事業収入の計画については実現性に不安がある。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、水生生物の管理・水辺のアクティビティ・施設管理に関して非常にバランスの良いメンバー・提案となっている。事業についても現実的な提案となっており、総合的にみて期待できる。

まちづくり応援団・朝日広告社共同事業体について、水生生物の管理に関しては実績があるが、入場料を取ることにについて、想定している入場者数および収入の実現性に不安があった。

以上より、検討会としては玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体を候補としたい。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。